

# 朝倉伊勢西 No.3 遺跡

店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2017. 8

株式会社エーコープ関東  
前橋市教育委員会  
株式会社シン技術コンサル





朝倉伊勢西 No.3 遺跡 遠景 東から



朝倉伊勢西 No.3 遺跡 全景 上が北

卷頭図版 2



朝倉伊勢西 No.3 遺跡 A 区検出全景 上が北



朝倉伊勢西No.3 遺跡 B 区 W - 1・8・9・10号溝跡西壁断面 東から



朝倉伊勢西No.3 遺跡 B 区 W - 1号溝跡南壁断面 北から



朝倉伊勢西No.3 遺跡 B 区 北東壁断面 南西から

## はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分僧寺、國分尼寺、國府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた鷺橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する朝倉伊勢西No.3遺跡は、本市南東部の朝倉町に位置し、店舗建設に伴う発掘調査です。今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡や井戸跡などからなる集落跡が検出されました。現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることに厚くお礼申しあげます。

平成29年8月

前橋市教育委員会  
教育長 塩崎政江



## 例 言

- 1 本書は、店舗建設工事に伴い実施された「朝倉伊勢西 No.3 遺跡」（前橋市遺跡コード：28G71）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の所在は、群馬県前橋市朝倉町 143-1、144-1、145-1、145-4、146-1、147-2、160-1、161-1、162 である。
- 3 発掘調査は、平成 28 年 9 月 1 日から平成 28 年 11 月 8 日まで実施した。
- 4 発掘調査及び整理作業は、前橋市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、開発事業者である株式会社エーコープ関東から委託された株式会社シン技術コンサルが実施した。なお、調査経費はすべて株式会社エーコープ関東の負担によるものである。
- 5 調査体制は以下のとおりである。

【前橋市教育委員会】 藤坂和延・小峰 篤  
【調査担当】 北村和穂・倉石広太・渡邊絵里（株式会社シン技術コンサル）  
【測量担当】 歌代久志・田中隆明（株式会社シン技術コンサル）
- 6 整理作業は北村・倉石・渡邊・福嶋正史・小林朋恵（株式会社シン技術コンサル）が行った。
- 7 本書の編集は小林が行い、執筆は第Ⅰ章を小峰、第Ⅱ章・第Ⅳ章・第Ⅷ章第2節を小林、第Ⅲ章を北村、第Ⅴ章を渡邊、第VI章を早田 勉（株式会社火山灰考古学研究所）、第VII章第1節を福嶋が行った。
- 8 本書に掲載された遺構図版は成田典信・大和律子・山田あゆみ（株式会社シン技術コンサル）が、遺構観察表は渡邊が作成した。
- 9 出土遺物の整理作業及び観察表作成は、福嶋・小林・芹澤清八・河手美綾子（株式会社シン技術コンサル）が担当し、石材の鑑定は芹澤が行った。
- 10 自然科学分析については、株式会社火山灰考古学研究所に依頼した。
- 11 遺構写真は渡邊が撮影し、本書に使用する遺構写真を北村が選出した後、坂本勝一（株式会社シン技術コンサル）がデジタル処理した。遺物写真は山際哲章（株式会社シン技術コンサル）が撮影、デジタル処理した。
- 12 本書のデジタル編集は、大和が行った。
- 13 本調査における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会で保管している。
- 14 発掘調査の実施、および報告書刊行に至るまで、下記の機関・諸氏の御指導・御協力を賜りました。記して感謝の意を表します。（敬称略、五十音順）

株式会社アートワーク 株式会社エーコープ関東 山下工業株式会社  
新井 肇 佐藤明人 高橋清文 永井智教 中村岳彦 早田 勉 前田和昭 三浦京子 南田法正 山田誠司
- 15 発掘調査・整理作業参加者については次のとおりである。

【発掘調査】 青山眞佐子 飯野景三 池谷厚子 内田美和子 及川光夫 大竹 節 大塚利夫  
大村美枝子 岡田廣志 角谷 勇 川田ふじ子 小林 誠 齋藤昭夫 斎藤孝義 齋藤千恵子  
斎藤文子 烏田敏子 都丸伸一 橋本芳男 平田 実 藤井慶昭 星野芳彦 和田 熊

【整理作業】 赤間淳子 浅見禮子 阿部 緑 池田敏雄 伊藤ひさよ 岡本敦子 柿沼幸子 河野 隆  
齋藤けい子 佐藤郷子 佐藤久美子 菅原桂子 鈴木幸見 鈴木澄江 田島直美 中里洋子  
畠中 朋 日野きみ子 松本悦子 山田千鶴子 六反田達子

## 凡　例

- 本書掲載の第1図は前橋市発行1/2,500都市計画図、第2図は国土地理院発行1/25,000地形図『前橋』をそれぞれ使用した。
- 遺構平面図に示した方位は座標北であり、水準線は標高を示す。座標については、日本測地系に基づく平面直角座標IX系を使用した。
- 土層及び遺物の色調は、『標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・(財)日本色彩研究所色票監修2014版)に掲るが、担当者の主観による識別である。
- 本書における遺構種類の略号を以下に記す。  
H-堅穴住居跡 T-堅穴状遺構 D-土坑 P-ピット I-井戸跡 W-溝跡 X-性格不明遺構
- 本文・図面に示す火山灰名を以下に記す。  
As-Kk = 浅間 - 稲川テフラ、1128年降下 As-B = 浅間 Bテフラ、天仁元年(1108)降下  
As-C = 浅間 C 軽石 As-YP = 浅間 - 板鼻黄色軽石
- 遺物番号は、遺構図・遺物実測図・観察表・写真図版とともに統一してある。
- 遺物実測図の縮尺は1/4、遺物写真の縮尺は1/3を基本とし、その他の場合は縮尺を記載した。
- 遺物実測図の断面において使用しているトーンの凡例は以下のとおりである。



還元焰焼成

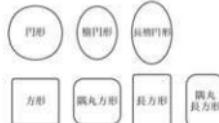


灰釉陶器

- 土坑、ピットの平面・断面形状の分類を以下に示す。

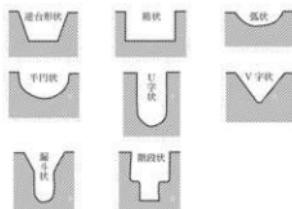
平面形状

円形	円形を基調とし、長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
楕円形	円形を基調とし、長軸が短軸の1.2倍以上1.5倍未満のもの。
長椭円形	円形を基調とし、長軸が短軸の1.5倍以上のもの。
方形	方形を基調とし、長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
圓丸方形	方形を基調とし、隅が丸く長軸が短軸の1.2倍未満のもの。
長方形	方形を基調とし、長軸が短軸の1.2倍以上のもの。
圓丸長方形	方形を基調とし、隅が丸く長軸が短軸の1.2倍以上のもの。



断面形状

逆台形状	底部に平傾面を持ち、縁やかに急斜面で立ち上がるもの。
箱状	底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
弧状	底部に平坦面を持たない弧状で、縁やかに立ち上がるもの。
半円状	底部に平坦面を持たない弧状で、急斜面で立ち上がるもの。
U字状	確認済の長軸よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。
V字状	点的な底面を持ち、急傾斜に立ち上がるもの。
脛弓状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。
階段状	階段状の立ち上がりを持つもの。広い中段(テラス)を持つものも含める。



(荒川・加藤 1999 から転載、一部改変)

## 目 次

巻頭図版 I・2

はじめに

例言・凡例

目次

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置	2
第2節 歴史的環境	2
第Ⅲ章 調査方針と経過	4
第Ⅳ章 基本層序	6
第Ⅴ章 遺構と遺物	7
第1節 A区	7
(1) 竪穴住居跡	7
(2) 竪穴状遺構	7
(3) 土坑・ピット	7
(4) 井戸跡	7
(5) 溝跡	8
(6) 性格不明遺構	8
第2節 B区	8
(1) ピット	8
(2) 溝跡	8
(3) 崩跡	8
(4) 性格不明遺構	8
第VI章 朝倉伊勢西 No.3 遺跡テフラ分析	40
第1節 はじめに	40
第2節 土層の層序	40
(1) A区I-3号井戸跡壁面	40
(2) A区D-97号土坑	40
(3) A区W-1号溝跡	41
(4) A区W-2号溝跡	41
(5) B区W-1号溝跡	42
(6) B区北東壁	42
第3節 テフラ検出分析	43
(1) 分析試料と分析方法	43
(2) 分析結果	43
第4節 考察	43
(1) 指標テフラとの同定	43
(2) 指標テフラとの関係からみた特徴的な堆積物や遺構の層位	44

第5節　まとめ	45
第VII章　まとめ	46
第1節　朝倉伊勢西遺跡における集落の様相	46
第2節　朝倉伊勢西遺跡における用水路について	48
写真図版	
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 調査区位図	1
第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡	3
第3図 グリッド設定図	4
第4図 A・B区全体図	5
第5図 基本土層柱状図	6
第6図 A区分潮图1	17
第7図 A区分潮图2	18
第8図 A区分潮图3	19
第9図 A区W-1~6・11・12・15・16号溝跡断面図	20
第10図 A区W-7・9~16号溝跡断面図	21
第11図 B区分潮图1	22
第12図 B区W-2~5号溝跡、X-1号性格不明造構断面図	22
第13図 B区W-1・4~6・8~11号溝跡、低地断面図	23
第14図 A区H-1号住居跡、H-2・31・38号住居跡（1）	24
第15図 A区H-2・31・38号住居跡（2）、H-3号住居跡（1）	25
第16図 A区H-3号住居跡（2）、H-4号住居跡、H-5号住居跡	26
第17図 A区H-6号住居跡、H-7号住居跡	27
第18図 A区H-8号住居跡、H-9号住居跡	28
第19図 A区H-10号住居跡、H-11号住居跡	29
第20図 A区H-13号住居跡、H-16号住居跡	30
第21図 A区H-17号住居跡、H-25号住居跡	31
第22図 A区H-26号住居跡、H-27号住居跡	32
第23図 A区H-32・33号住居跡、I-4・6号井戸跡	33
第24図 A区I-3号井戸跡、B区1号高塚	34
第25図 A区H-1~3号住居跡出土遺物	35
第26図 A区H-3~6号住居跡出土遺物	36
第27図 A区H-6~10号住居跡出土遺物	37
第28図 A区H-11・13・16・17・23~25号住居跡出土遺物	38
第29図 A区H-26・31~33・38号住居跡、T-1・2号竪穴式造構、I-3・4号井戸跡、W-1・12・13・15号溝跡、 X-1号性格不明造構、造構外、B区W-4号溝跡出土遺物	39
第30図 A区I-3号井戸跡壁面の土層柱状図	40
第31図 A区D-97号土坑の土層柱状図	41
第32図 A区W-1号溝跡の土層柱状図	41
第33図 A区W-2号溝跡の土層柱状図	41
第34図 B区W-1号溝跡の土層柱状図	42
第35図 B区北東壁の土層柱状図	42
第36図 朝倉伊勢西遺跡全体図	46
第37図 朝倉伊勢西遺跡における古代の用水路	49
第38図 朝倉伊勢西遺跡周辺の旧地形図	50

## 表 目 次

第 1 表 A 区竖穴住居跡 (H) 観察表	9	第 9 表 A・B 区性格不明遺構 (X) 観察表 (2)	13
第 2 表 A 区竪穴状遺構 (T) 観察表	10	第 10 表 遺物観察表 (1)	13
第 3 表 A 区土坑 (D) 観察表	10	第 11 表 遺物観察表 (2)	14
第 4 表 A・B 区ピット (P) 観察表	11	第 12 表 遺物観察表 (3)	15
第 5 表 A 区井戸跡 (I) 観察表	11	第 13 表 遺物観察表 (4)	16
第 6 表 A・B 区溝跡 (W) 観察表	12	第 14 表 朝倉伊勢西 No.3 遺跡における チフラ検出分析結果	43
第 7 表 B 区畠跡観察表	12		
第 8 表 A・B 区性格不明遺構 (X) 観察表 (1)	12		

## 写真図版目次

卷頭図版 1 朝倉伊勢西 No.3 遺跡 遠景、朝倉伊勢西 No.3 遺跡 全景	
卷頭図版 2 朝倉伊勢西 No.3 遺跡 A 区検出全景、朝倉伊勢西 No.3 遺跡 B 区 W - 1・8・9・10 号溝跡西壁断面、 朝倉伊勢西 No.3 遺跡 B 区 W - 1 号溝跡南壁断面、朝倉伊勢西 No.3 遺跡 B 区北東壁断面	
PL. 1 朝倉伊勢西 No.3 遺跡 A 区 全景	PL. 5 A 区 I - 3 号井戸跡
A 区 H - 1 号住居跡	A 区 I - 3 号井戸跡断削り
A 区 H - 4 号住居跡	A 区 I - 4 号井戸跡
A 区 H - 5 号住居跡	A 区 I - 6 号井戸跡
A 区 H - 5 号住居跡遺物出土状況	A 区 W - 1 号溝跡
PL. 2 A 区 H - 3 号住居跡	A 区 W - 1 - 3 号溝跡断面
A 区 H - 3 号住居跡カマド	A 区 W - 2・12・15・16 号溝跡断面
A 区 H - 3 号住居跡遺物出土状況	PL. 6 A 区 W - 2 号溝跡断面
A 区 H - 3 号住居跡カマド遺物出土状況	A 区 W - 3 号溝跡
A 区 H - 6 号住居跡	A 区 W - 4 号溝跡
A 区 H - 6 号住居跡遺物出土状況	A 区 W - 5 号溝跡
A 区 H - 7b 号住居跡	A 区 W - 5 号溝跡断面
A 区 H - 8 号住居跡	A 区 W - 9・10 号溝跡
PL. 3 A 区 H - 9 号住居跡	A 区 W - 12・13・15・16 号溝跡断面 N
A 区 H - 10 号住居跡	A 区 W - 12・13・15・16 号溝跡断面 O
A 区 H - 13 号住居跡	PL. 7 朝倉伊勢西 No.3 遺跡 B 区 全景
A 区 H - 16 号住居跡	B 区 W - 1 号溝跡
A 区 H - 16 号住居跡カマド遺物出土状況	B 区 W - 4・5・6 号溝跡
A 区 H - 17 号住居跡掘り方	B 区 W - 4・5・6 号溝跡断面
A 区 H - 17 号住居跡カマド	B 区 I 号畠跡完掘
A 区 H - 17 号住居跡カマド遺物出土状況	B 区 W - 11 号溝跡断面
PL. 4 A 区 H - 25 号住居跡	B 区深掘りトレンチ西壁
A 区 H - 25 号住居跡遺物出土状況	PL. 8 出土遺物 (1)
A 区 H - 27・33 号住居跡	PL. 9 出土遺物 (2)
A 区 H - 31 号住居跡遺物出土状況	PL. 10 出土遺物 (3)
A 区 H - 38 号住居跡遺物出土状況	PL. 11 出土遺物 (4)
A 区 D - 3・4・5 号土坑断面	PL. 12 出土遺物 (5)
A 区 D - 14 号土坑	
A 区 D - 2・76・77 号土坑断面	



## 第Ⅰ章 調査に至る経緯

開発人である株式会社エーコープ関東（代表取締役社長 織田 展男）による店舗建設が計画される当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「前橋市0285遺跡・前橋市0286遺跡」に該当する。また、隣接する道路建設工事時にあたっても、発掘調査の実績がある。

のことから、平成28年6月27日に文化財保護法第93条第1項届出が提出され、工事概要が示された。近隣の調査状況から「試掘・確認調査」の必要があると判断し、開発人との協議を経て平成28年7月19日～20日に試掘・確認調査を実施した。調査の結果、古墳～平安時代の住居跡等を検出した。同年7月26日、試掘・確認調査結果と文化財保護法第93条第1項の届出で示された工事計画から、遺跡に及ぼす影響が大きいことが予想された。また、遺跡保存のための工事計画変更は難しいとのことから、記録保存を目的とした発掘調査が必要な範囲を説明する。協議の後、一部設計変更されることとなり改めて工事計画が提出された。これにより発掘調査範囲を絞り込むことができた。

記録保存を目的とした発掘調査実施について開発人との間で合意に至り、事務手続きに着手した。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施していることから、直営による発掘調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになった。平成28年8月25日付けで開発人と民間調査組織である株式会社シン技術コンサル北関東支店・前橋市教育委員会との間で三者協定が締結され、同年9月1日から現地調査が開始された。



第1図 調査区位置図

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 遺跡の位置

前橋市は、群馬県の中央部やや南に位置する中核市である。地勢を概観すると市域の北部には上毛三山の一つである赤城山の南麓が広がり、南部は関東平野の北西端部の一角を占めている。市域の北東端部には、複成火山である赤城山の外輪山で最高峰となる黒檜山（1,828 m）がある。市域北部は北から南に緩斜し、市街地の広がる平野部は海拔 100 メートル前後である。市域やや西部を南流する利根川は、中世までは前橋市市街地の北東部を流れていたが、近世初頭にはば現在の流路に移動したとされる（早田他 1990）。

朝倉伊勢西遺跡（1）は、前橋市役所や前橋駅が所在する前橋の中心地から約 3km 南東に位置し、南方には水田地帯が、その他は市街地が広がる。地形は利根川左岸、前橋台地上の北東縁付近となり、遺跡から約 600m 東には利根川水系の広瀬川が南東流し、約 500m 西には本遺跡から約 2.6km 北で広瀬川から分流する端気川が南流している。なお、遺跡の約 900m 北には端気川から分岐する宮川用水が南東流している。現宮川用水は昭和 40 年代の土地改良および区画整理事業に伴って宮川中流域の流路を直線的に作り変えて造成された水路であり、旧流路は埋め立てられているが、現在は道路として痕跡が残存している（藤坂・前田他 2015）。

なお朝倉伊勢西遺跡は、調査年度によって No.1 遺跡、No.2 遺跡、No.3 遺跡と区別されており、No.1 遺跡は 2011 年、No.2 遺跡は 2012 年にそれぞれ報告書が刊行されている（福田・山田 2011、福田・小林 2012）。

### 第2節 歴史的環境

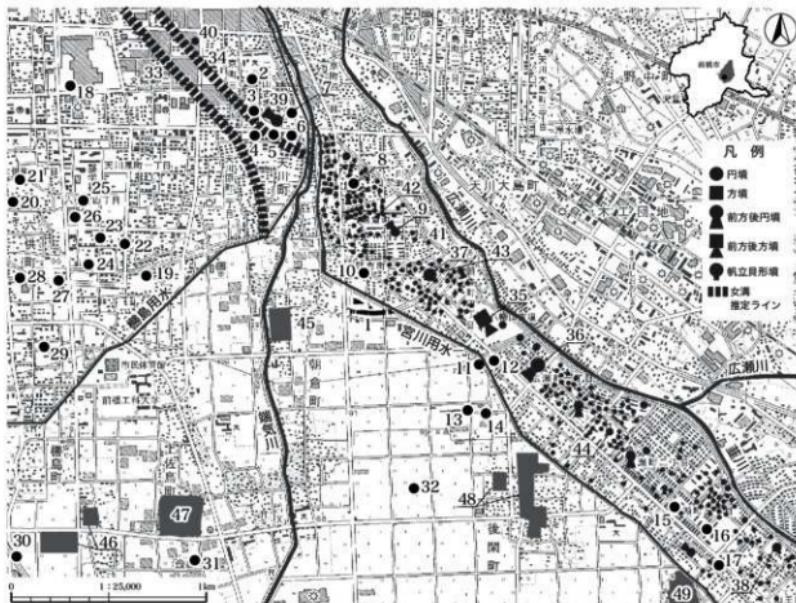
本遺跡の周辺において旧石器時代の遺跡の調査例はなく、続く縄文・弥生時代においても確認されている遺跡は少数である。櫛島川端遺跡（30）では縄文時代草創期後半の撫糸文系土器が出土しており、弥生時代中期の再葬墓と後期の集落が調査されている。

古墳時代以降は遺跡数が飛躍的に増加し、基本的には微高地に集落や墓域が展開され、低地に水田が広がっていたと考えられる。墓域としては、前橋市朝倉・広瀬・山王町にあたる広瀬川右岸の自然堤防上が県内有数の古墳密集地帯であり、古墳時代前期と後期を中心に形成された朝倉・広瀬古墳群として知られているが、戦後の開発によって多くの古墳が削平され失われている。代表的な古墳として、前橋台地上における古墳初現期の地域首長墓である八幡山古墳（35、前方後方墳、全長約 130m）と前橋天神山古墳（36、前方後円墳、全長約 129m）を筆頭に、5 世紀後半の鶴巣塚古墳（37、帆立貝形古墳、全長約 86m）、5 世紀末～6 世紀初頭の亀塚山古墳（38、帆立貝式古墳、全長約 60m）、6 世紀中頃の天川二子山古墳（39、前方後円墳、全長 104 m）、6 世紀後半の不二山古墳（第 2 図外、前方後円墳、全長約 54.5m）、6 世紀末の金冠塚古墳（第 2 図外、前方後円墳、全長約 53m）などが挙げられる。この他、かつて存在していたカロウト山古墳（40、円墳、直径推定 50m）は、近年終末期の可能性が指摘されている。

集落跡は、広瀬川右岸の自然堤防上などの戦後早い段階で宅地化が進んだ地域においては実態把握が困難だが、朝倉伊勢西遺跡や後閑团地遺跡（11）、後閑II遺跡（14）、広瀬木ノ宮遺跡（16）などにおいて古墳時代前期と古墳時代後期から平安時代までの集落が調査されている。特に朝倉伊勢西遺跡では、7 世紀末から 11 世紀前半まで継続的に集落が存続していたことがこれまでの調査で明らかにされている。この他、近年開発が進む六供町や公田町などの地域では古墳時代から平安時代の集落の調査例が増加しており、六供遺跡群 No.7（20）では 5 世紀後半の集落も確認されている。

生産関連としては、古墳時代の水田跡が、As-C 混土層や Hr-FA・Hr-FP のテフラや洪水・泥流層をてがかりとして六供下堂木II遺跡（23）、朝倉工業団地遺跡群、公田池尻遺跡、公田東遺跡などで確認されている。朝倉・後閇水田遺跡（32）では、古墳時代の生産遺構は検出されていないが、低地部の一画と河道跡から Hr-FA 洪水層と As-C 軽石一次堆積層が確認されている。この他、上野国が甚大な被害を受けた天仁元年（1108）の浅間山噴火時に降灰した As-B テフラで埋没した平安時代末期の水田跡が多数の遺跡で調査されており、朝倉・後閇水田遺跡や宮地中田遺跡などで条里地割が確認されている。また、「女溝」と呼ばれる 2 条の灌漑用水道構が平行して北西から南東方向に走行しており、調査成果から、溝の時期は 1 号女溝（33）が覆土中位に As-B の一次堆積層が確認できることから As-B 降下以前と判明しており、2 号女溝（34）が埋土の状況から中世頃であると推定されている。

中近世については、本遺跡から南方における微高地上に朝倉環濠遺構群（45）や、後閇環濠集落（48）、山王環濠集落（49）などが確認されており、城館跡としては、亀里町に位置する宿内城などが知られる。



1 朝倉伊勢西道路	2 青居道路	3 県立文書館遺跡	4 二子山前道路	5 二子山前II道路
6 二子山前III道路	7 二子山前IV道路	8 小丘那遺跡	9 長山遺跡	10 鶴守越り道路
11 後閇町地道路	12 坊山道路	13 後閇道路	14 後閇II道路	15 上川瀬鶴巣道路
16 広瀬川ノ宮遺跡	17 木ノ宮遺跡	18 文京町 No.1 道路	19 六供遺跡群	20 六供遺跡群 No.7
21 六供遺跡群 No.8	22 六供下堂木II遺跡	23 六供下堂木II遺跡	24 六供下堂木II遺跡	25 六供下堂木II遺跡
26 六供下堂木V遺跡	27 六供東京安寺道路	28 六供東京安寺道路	29 東京安寺道遺跡	30 鶴島川端遺跡
31 上佐島中原前道路	32 佐島中原前II・III道路	33 1号女溝	34 2号女溝	
35 八幡山古墳	36 前橋天神山古墳	37 鶴巣古墳	38 亀山古墳	39 天川二子山古墳
40 カロウト山古墳	41 朝倉 1号	42 朝倉 2号	43 朝倉 3号	44 飯玉神社古墳
45 朝倉環濠遺構群	46 福島屋敷	47 中沢屋敷	48 後閇環濠集落	49 山王環濠集落

第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

### 第III章 調査方針と経過

朝倉伊勢西 No.3 遺跡において、店舗建設工事に伴い調査対象となった総面積は 1,582m<sup>2</sup>であり、平成 28 年 9 月 1 日から 11 月 8 日まで発掘調査を実施した。

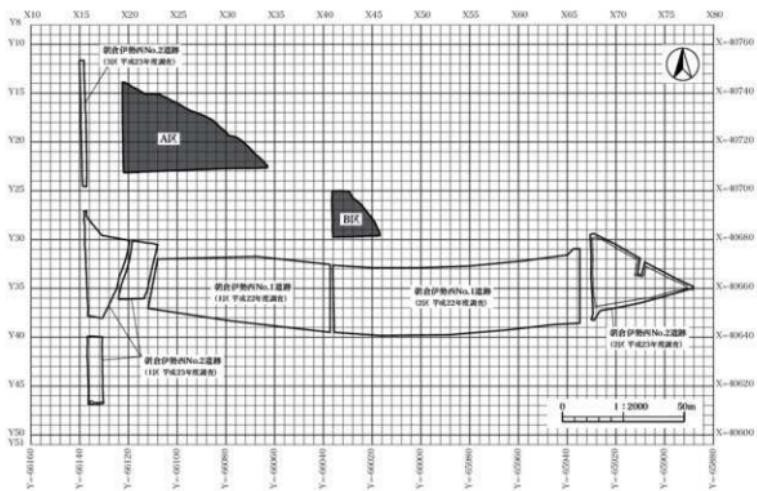
調査は 0.45m のバックホウを使用して表土を掘削した後、ジョレン・移植ゴテなどを用いて遺構確認・掘削を行った。調査区内の遺構は重複が激しいことから、確認面精査のみでは検出が困難であり、トレンチ掘削による断面確認を多用した。それでも確認が難しい場合はベルトを残し、平面的に掘り下げて遺構の把握に努めた。

写真記録は、35mm カラーリバーサルフィルム・同モノクロネガフィルムの 2 種類を使用し、デジタルカメラによる補足撮影も行った。空中写真撮影では、6×6 版モノクロネガフィルム、同カラーリバーサルフィルムも使用した。遺構の作図作業は、基本的にトータルステーション・電子平板を用いた機械測量で平・断面図を作成し、縦穴住居跡のカマドなどの断面図は手実測で行った。

グリッドは、平成 22 年に発掘調査が実施された朝倉伊勢西 No.1 遺跡（福田・山田 2011）に合わせて設定した（第 3 図）。このグリッドは日本測地系に基づく平面直角座標第 IX 系の座標軸を用い、X = 40,800.0m, Y = -66,200.0m を基点 Y0・X0 として 4m 方眼を組んで設定している。グリッドの基点は北西角であり、Y は北から南へ、X は西から東へアラビア数字が序列されている。

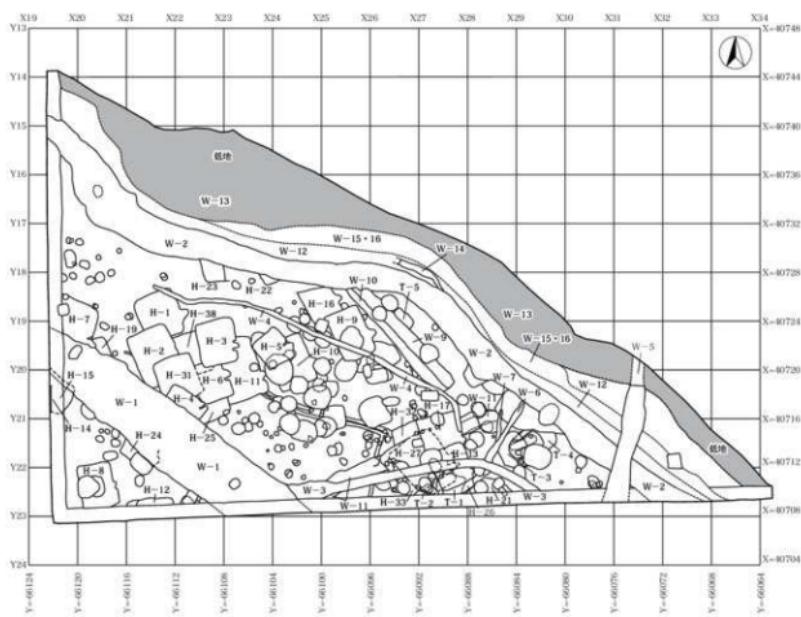
調査の経過は以下に記す。

9 月 1 日	調査開始。	9 月 26 日	A・B 区遺構調査開始。
9 月 9 日	駐車場設営、プレハブ・器材搬入。フェンス設置。	10 月 26 日	前橋市による終了確認。
9 月 12 日	B 区表土掘削開始。遺構検出開始。	11 月 2 日	UAV（ラジコンヘリ）による空中写真撮影。
9 月 15 日	B 区表土掘削終了。A 区表土掘削開始。	11 月 5 日	A・B 区遺構調査終了。調査区の埋め戻し開始。
9 月 22 日	A 区表土掘削終了。	11 月 7 日	器材搬出。
9 月 23 日	遺構検出終了。UAV（ドローン）による検出写真撮影。	11 月 8 日	調査区の埋め戻し終了。

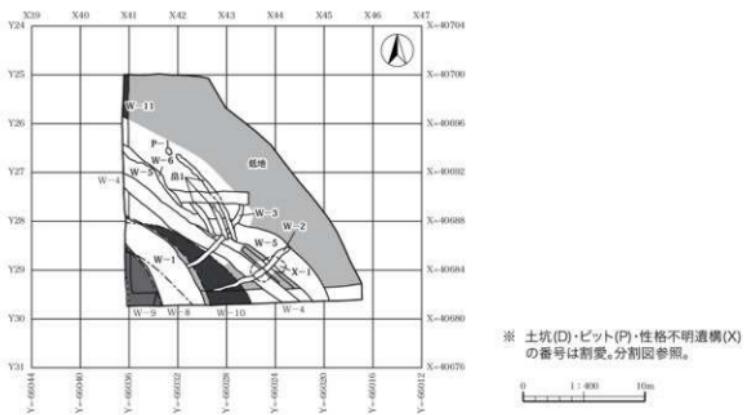


第 3 図 グリッド設定図

### A区全体図



### B区全体図



第4図 A・B区全体図

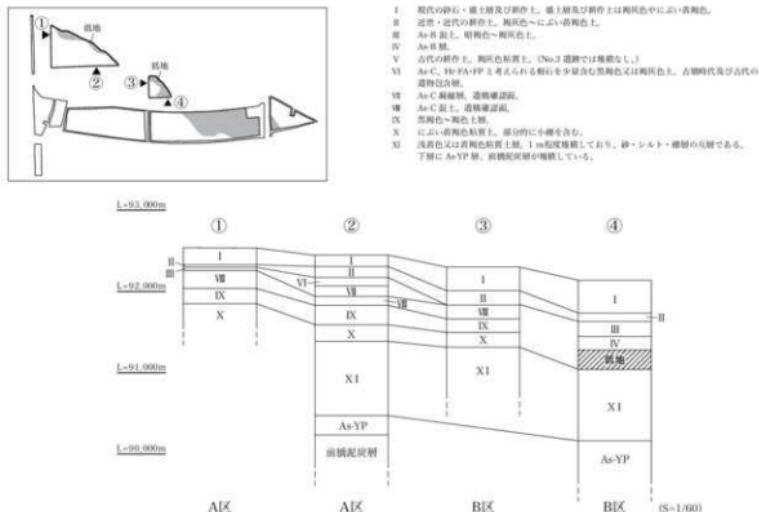
## 第IV章 基本層序

今回の調査における基本土層は、遺跡全体での層位的な理解を容易にするため、平成23年度に調査を実施した朝倉伊勢西No.2遺跡の土層と統一した。<sup>111</sup>

I層は現代の碎石盛土層及び耕作土、II層は近世・近代の耕作土である。III層はAs-Bが混入した耕作土、いわゆるAs-B混土である。IV層はAs-Bの一次堆積層であり、低地部や遺構の覆土中に確認されている。噴火の際最初に降下した灰色細粒火山灰ははつきりと確認できていないが、最終降下となる桃色細粒火山灰は確認できている。なお基本層序名は付さなかったが、低地ではAs-Bの上部に間層を挟んでAs-Kkが堆積している。V層はAs-B下の古代の耕作土であるが、今回の調査では確認できなかった。VI層は低地以外で堆積している黒褐色土であり、As-C及びHr-FA・Hr-FPと考えられる軽石が混入している。古墳時代及び古代の遺物包含層であり、場所によって遺物の包含量が異なる。古代の遺構は本層中から掘り込まれているものが多いと考えられるが、遺構覆土と色調・土質が近似していることから、VII・VIII層上面を遺構確認面とした。VII層はAs-C凝縮層であり、A区の微高地上に部分的に堆積している。VIII層はAs-Cと考えられる軽石が混入している黒色土、いわゆるAs-C混土である。IX層は黒褐色～褐色土層であり、X層の漸移層である。X・XI層は、XI層下位にAs-YP層が堆積していることから、As-YP噴火に関係する火山泥流堆積物と考えられる。X層にはぶい黄褐色粘質土で、朝倉伊勢西No.2遺跡の調査の際は多量の小礫を含んでいたが、今回の調査では含有量は比較的少ない。XI層は浅黄色または黄褐色の粘質土層で1m程度堆積しており、砂・シルト・礫層の互層である。XI層の下位には、上部火山灰、下部軽石から成るAs-YP層、その下位には前橋泥炭層が堆積している。

註1：遺構報告に基づき土層の細分が必要な場合は、各遺構図に細分した土層注記を記入している。

註2：早田勉氏からの御教示による。



第5図 基本土層柱状図

## 第V章 遺構と遺物

### 第1節 A区

#### (1) 壇穴住居跡 (第4・6～8・14～23・25～29図 第1・10～13表 PL.1～4・8～12)

壇穴住居跡は、29軒 (H-1～17・19・21～27・31～33・38) 検出された。全てA区のみで検出されており、重複が激しい。分布は西部及び南西部で特に密集しており、東部及び北部は希薄である。時期は、8世紀前半～中葉のH-32が最も古く、8世紀代が6軒 (H-17・19・24・27・32・33)、9世紀代が10軒 (I-6・8・10～12・15・21・25・26)、10世紀代が12軒 (H-2～5・7・9・13・16・22・23・31・38) 検出されている。H-14は断面のみでの検出のため、時期は不明である。8世紀代の住居跡は南東部に多く、9・10世紀代は中央部～西部にかけて多い。

壇穴住居跡の平面形状は、ほぼ方形基調である。カマドを基準とした主軸方向は、大半がN-35°E～N-88°E程度北東に傾いている。このほか、H-7・24はN-109°E (H-7)・N-126°E (H-24) 南東に傾いている。規模は、一辻3.0～4.0m程度のものが多く、4.5m以上のものが3軒 (H-2・11・33) ある。カマドは17軒 (H-1・3～11・13・16・17・24・26・27・33) から検出され、基本的に東壁に付設されており、例外としてH-4が北壁に付設されている。燃焼部はいずれもほぼ壁内に位置しているが、H-26は45cm以上、H-33は68cm程度壁外に張り出す。H-3では、カマドの芯材に加工跡や土器が用いられていた。その他の施設としては、貯蔵穴やカマドに関連すると考えられる土坑などがある。

#### (2) 壇穴状遺構 (第4・6～8・29図 第2・13表 PL.1・12)

壇穴状遺構は、5基 (T-1～5) 検出され、低地を除く西側に位置している。平面形状は、いずれも方形基調である。T-1・4は、床面が削平され掘り方のみが検出された壇穴住居跡の可能性がある。T-2は調査区の南壁で確認できなかったため、規模等から壇穴住居跡となかった。T-3・5は焼土や灰が確認されたため壇穴住居跡の可能性がある。時期は、T-1・2が遺物から8世紀中葉から後半、T-3は遺物や重複遺構から10世紀以降、T-4は重複遺構から10世紀以前、T-5は重複遺構から9世紀後半以前と推定される。

#### (3) 土坑・ピット (第4・6～8図 第3・4表 PL.1・4)

土坑は103基 (D-1～84・86～89・91・92・94～97・99～107)、ピットは102基 (P-1～102) 検出された。土坑・ピットとともに低地部を除く調査区全域で検出され、ピットは南部で特に密集している。中央部では住居より新しい同一の特徴をもつ土坑 (H-2・8・9・12・14・17・18・21) が検出された。平面形状は円形または梢円形で、長軸が1.47～2.66mと比較的大きく、深さは9～34cmで浅い。ピットには、柱痕跡があるものが5基 (P-8・9・14・25・73) 確認できたが、柱列や建物跡など規則的な配列はみられなかった。

#### (4) 井戸跡 (第4・6～8・23・24・29図 第5・13表 PL.1・5・12)

井戸は、3基検出された。I-3は調査区中央部、I-4が西側、I-6は東側に位置する。構造はI-3が石組み、I-4・6が素掘りである。平面形状はI-3とI-4が円形、I-6が隅丸方形である。断面形状はI-3が漏斗状、I-4はV字状、I-6が円筒状である。I-3は、平面隅丸方形の掘り方をもつ。時期は、I-3から虎渓山1号窯式期の灰釉陶器が出土していることから10世紀後半以降、I-4は検出面と覆土から10世紀以降、I-6は重複するH-7より古いことから10世紀後半以前と推定される。

### (5) 溝跡 (第4・6～11・29図 第6・13表 PL.1・5・6・12)

溝跡は、15条検出された。調査区全体で検出され、特に微高地と低地との境に複数の溝跡 (W-2・12・13・14・15・16) が重複している。このうち、W-14は、W-12の掘り直しの可能性がある。走行方向は、北一南が2条 (W-5・7)、東一西が1条 (W-3)、北西一南東が10条 (W-1・2・4・9・10・12～16)、北東一南西は2条 (W-6・11) である。時期は、重複関係からW-11が一番古く、8世紀以前と推定される。W-2は底面直上にAs-B純層が堆積していることから、1108年以降に埋没したと推定される。W-12・14・15は遺構の重複関係から1108年より古い。また、覆土および遺構の重複関係からW-1・3～6は近世で、このうちW-3・6は覆土の堆積状況から同時期に存在したと推定される。

### (6) 性格不明遺構 (第4・6・8・29図 第8・9・13表 PL.1・12)

性格不明遺構と判断したものは9基であり、いずれも低地を除く西側に位置している。X-2は、W-11の底面で検出しており、焼土や灰が堆積している。住居に伴う施設の可能性もあったが、住居跡が検出されなかつたため性格不明遺構の範疇とした。X-3・4・12・13は、平面形状が定まらず、底面に凹凸がみられた。X-5・6・8・10は、形状・性格などが判然としないため、性格不明遺構とした。これらの時期は、重複遺構や遺物からX-3が8世紀頃、X-12は9世紀以前、X-13が9世紀中葉、X-2が9世紀以降、X-4は10世紀頃、X-5・6・8・10が10世紀以前と推定される。

## 第2節 B区

### (1) ピット (第4・11図 第4表 PL.7)

B区で2基検出された。P-1は北西部に位置し、平面形状は梢円形である。長軸は63cm、深さが22cm、断面形は弧状である。時期は重複遺構や出土遺物がないため不明である。P-2は西壁で確認したのみである。時期は重複遺構から9～10世紀前半以降と推定される。

### (2) 溝跡 (第4・11～13・29図 第6・13表 PL.7・12)

溝跡は、調査区全体で10条検出した。走行方向は北西一南東が6条 (W-1・4～6・8・10)、北東一南西が2条 (W-2・3) である。W-9・11は壁面で確認したのみのため、詳細は不明である。これらのうち、W-1はA区W-2、W-8はA区W-12、W-9はA区W-15、W-10はA区W-16、W-11はA区W-13に相当する。時期は、遺構の重複関係からW-2・3が10世紀以降、遺物及び遺構の重複関係からW-4～6が9～10世紀前半以降と推定される。

### (3) 崩跡 (第4・11・24図 第7表 PL.7)

B区中央部に崩のサクと推定される小規模な溝状遺構が検出された。溝幅が15～30cm、深さ3～8cm、長さ3～9m程の溝跡が規則的に平行することから、崩跡と認識した。崩1～3は、ほぼ平行して掘られており、これらが一単位の崩とみられる。これらの方向は、N-24°～33°-Wである。

### (4) 性格不明遺構 (第4・11図 第9表 PL.7)

性格不明遺構と判断したものは、南部にあるX-1である。やはり形状・性格などが判然としない。時期は、遺構の重複関係から9世紀以前と推定される。

第1表 A区堅穴住居跡(H) 観察表

( )は推定値・既存値

番号	グリッド	平面 形状	主軸 方向	規模(m)		床 面積 (m <sup>2</sup> )	カマツ'(m)		時期		重複関係・備考		
				長軸	短軸		位置	崩行	時期	判断基準			
1	21-22	18-19	方形	N-66°E	3.82	3.51	0.29	13.41	東壁	1.01	0.30 9世紀 第4四半期	出土遺物 H-2, W-4より古い。	
2	21-22	19-20	長方形	N-64°E	4.58	3.55	0.15	16.26	—	—	10世紀前半	出土遺物 H-1より新しく、H-31-38, W-1より古い。	
3	22-23	18-19	方形	N-78°E	3.70	3.13	0.22	11.58	東壁	0.70	0.30 0.34	10世紀前半 出土遺物 H-6-11-38より新しく。	
4	21-22	20-21	方形か 長方形	N-35°E	3.37	(1.53)	0.20	(5.16)	北壁	0.60	0.24	10世紀後半 出土遺物 H-6-25-31より新しく、W-1より古い。	
5	23-24	19	方形	N-49°E	3.04	2.59	0.10	7.87	東壁	0.80	0.55 (0.65)	10世紀前半 出土遺物 H-10-11, D-14-52-64-106より新しく。	
6	22-23	19-20	方形	N-72°E	3.32	2.85	0.33	9.46	東壁	1.02	0.56 0.53	9世紀 第4四半期	出土遺物 H-11-25より新しく、H-34-41-38より古い。 壁上中央に炭化物集中帶あり。
7	19-20	18-19	方形か 長方形	N-109° -E	(3.48)	(3.26)	7.60, 12 7.60, 19	(11.34)	東壁	0.84	(0.48) (0.53)	10世紀後半 出土遺物 H-9, I-6より新しく、P-1, W-1より古い。	
8	19-20	21-22	長方形	N-80°E	3.74	3.01	0.25	11.26	東壁	0.37	0.33 0.37	9世紀 第2四半期	出土遺物 D-69より新しく、D-66より古い。
9	25-26	18-19	長方形	N-66°E	4.22	2.83	0.23	11.94	東壁	1.11	0.43 0.46	10世紀後半 出土遺物 H-16, D-22-62-85-90, P-66-68より新しく、 D-19, W-4より古い。 構造長 0.35m 構造幅 0.50m。	
10	23-24	19-20	長方形	N-68°E	4.08	3.20	0.27	13.06	東壁	0.90	0.44 0.44	9世紀前半 出土遺物 D-52-76より新しく、H-5, D-2-14-21-106よ り古い。	
11	22-23	19-20	長方形	N-75°E	5.16	(3.47)	0.21	(17.90)	東壁	(0.43)	0.50	9世紀前半 出土遺物 H-3-5-6-25, D-14-64-99より古い。	
12	21	22	方形か 長方形	N-88°E	3.04	(1.69)	0.17	(5.14)	—	—	9世紀 出土遺物 D-48より新しく。		
13	27-28	21-22	方形	N-67°E	3.29	3.04	0.30	10.00	東壁	0.70	0.29 0.29	10世紀 出土遺物 H-17-26-33, T-1, D-95-96, P-101より新しく、 D-25, W-3より古い。	
14	19	20	不明	—	(2.13)	—	0.20	—	—	—	不明	H-15より新しく。調査区壁でのみ確認。	
15	19	20	方形か 長方形	N-122° -E	(2.69)	(2.62)	0.30	(7.05)	—	—	9世紀 出土遺物 H-14, W-1より古い。		
16	24-25	18-19	長方形	N-61°E	(2.98)	(2.61)	0.12	(7.75)	東壁	(0.50)	0.50	10世紀中葉 出土遺物 P-62-66より新しく、H-9, D-19, W-2より古い。	
17	27	21	方形	N-67°E	(4.26)	3.38	0.25	(14.40)	東壁	0.90	(0.43) (0.45)	8世紀末 出土遺物 H-32, D-63, P-83-84, W-11より新しく、 H-3-13, D-25-39-44, P-40-70-71, W-4より古い。	
18	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
19	20	19	方形か 長方形	N-68°E	(1.90)	(0.95)	0.12	(1.81)	—	—	—	8世紀後半 出土遺物 H-7, W-1より古い。	
20	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
21	27-28	22	方形か 長方形	N-43°E	(2.34)	(2.19)	0.12	(5.12)	—	—	9世紀 出土遺物 X-12より新しく、D-27-32より古い。		
22	23-24	17-18	方形か 長方形	N-70°E	(1.20)	(1.10)	0.07	(1.42)	—	—	—	10世紀後半 出土遺物 W-2より古い。	
23	22-23	17-18	方形か 長方形	N-88°E	(1.94)	(1.76)	0.07	(3.41)	—	—	—	10世紀後半 出土遺物 W-2より古い。	
24	20-21	21	方形か 長方形	N-126° -E	(3.03)	(2.03)	0.33	(6.15)	東壁	(0.43)	—	8世紀末～ 9世紀初頭 出土遺物 D-51, W-1より古い。	
25	22-23	20-21	方形か 長方形	N-64°E	(3.50)	(2.40)	0.33	(8.40)	—	—	—	9世紀中葉 出土遺物 H-11より新しく、H-4-6-31, D-6-7, W-1より古い。	
26	27-28	22	方形か 長方形	N-64°E	(2.63)	(1.86)	0.28	(4.89)	東壁	(0.52)	(0.23) (0.43)	9世紀後半 出土遺物 H-1より新しく、H-13, D-40より古い。	
27	27-26	21-22	方形か 長方形	N-46°E	(4.29)	(4.02)	0.38	(16.88)	東壁	(0.33)	(0.46)	8世紀後半 出土遺物 H-32-33, T-1-2, D-91-92-95-96, P-65-81- 82-83-90-91-92-101-102より新しく、 H-13-17, D-24-25-26-44, W-3より古い。	
28	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
29	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
30	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
31	21-22	19-20	方形か 長方形	N-68°E	(3.67)	3.32	0.25	(12.18)	—	—	—	10世紀前半 出土遺物 H-2-6-25-38より新しく、H-4, W-1より古い。	
32	26-27	20-21	方形か 長方形	N-64°E	(2.20)	(1.16)	0.25	(2.59)	—	—	—	8世紀後半～中葉 出土遺物 P-81より新しく、H-17-27-33より古い。	
33	26	21	方形	N-55°E	(4.98)	4.41	0.36	(21.96)	東壁	0.98	0.32 0.50	8世紀後半 出土遺物 H-32, T-1-2, D-91-92-95-96, P-65-75-90 ～98-101-102-107, W-11より新しく、 H-13-26-27, D-23～26-44-96, P-39, W-3より古い。	
34	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
35	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
36	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
37	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
38	21-22	19	方形か 長方形	N-70°E	(2.74)	(1.98)	0.32	(4.90)	—	—	—	10世紀前半 出土遺物 H-2-6より新しく、H-3-31より古い。	

第2表 A区堅穴状遺構(T)観察表

区 域	番号	グリッド X Y	平面 形状	壠形状	長軸 長軸	規模(m)			時期	重複関係・備考	
						長軸	短軸	深さ			
A 区	1	27	22	(楕丸形)	斜め	N-7-E	2.26	(1.72)	0.21	8世紀中葉～後半	D-05より新しく、H-13-26-27-33、T-2、P-65より古い。
	2	26-27	22	(楕丸形)	斜め	N-38-W	(1.70)	(1.31)	0.21	8世紀後半	T-1、D-107、P-91～95より新しく、H-13-33、D-24より古い。
	3	26-29	21	(楕丸形)	斜め	N-27-W	3.11	2.37	0.22	10世紀以降	D-89、P-76-77、X-5-6-8-10より新しく、D-28、I-4、W-6より古い。
	4	29	21	(楕丸形)	斜め	—	(2.60)	(2.09)	0.15	10世紀以前	X-6-8より新しく、T-3、P-72、I-4、X-3より古い。
	5	26	18-19	(楕丸形)	斜め	N-39-E	1.89	(0.81)	0.10	9世紀後半以前	W-9より古い。

第3表 A区土坑(D)観察表

区 域	番号	グリッド X Y	平面 形状	壠形状	規模(m)			底面 標高 (m)	時期	重複関係・備考	
					長軸	短軸	深さ				
A 区	1	27-28	19-20	(楕円形)	逆台形状	2.11	(1.35)	0.48	91.39	—	—
	2	24-25	19-20	円形	楕状	1.46	1.29	0.14	91.96	56	24 20 円形 逆台形状 1.30 (1.29) 0.30 91.78
	3	23	21	円形	楕状	1.01	0.98	0.10	91.94	57	26 20 (楕円形) 逆台形状 2.08 0.69 0.10 91.97
	4	23	20-21	円形	楕状	0.93	0.88	0.17	91.90	58	30 22 (楕円形) U字状 0.57 0.57 0.35 91.66
	5	23	21	(楕円形)	半円形	0.83	(0.69)	0.42	91.65	59	23-24 20 円形 逆台形状 0.99 0.86 0.14 91.93
A 区	6	22-23	20-21	円形	楕状	0.79	0.76	0.08	91.95	60	23-24 20 (円形) 逆台形状 (1.02) 0.67 0.12 91.96
	7	22-23	20	円形	楕状	0.55	0.36	0.14	91.91	61	29 19 (楕円形) 逆台形状 0.81 0.51 0.26 91.70
	8	24	20-21	円形	楕状	1.73	1.60	0.27	91.84	62	29 19 (円形) 逆台形状 1.89 (1.84) 0.33 91.55
	9	24	21	(楕円形)	逆台形状	1.90	1.73	0.29	91.83	63	27-28 20-21 (円形) 逆台形状 (1.87) 1.48 0.14 91.82
	10	24	21	角丸方	U字形	0.58	(0.56)	0.46	91.66	64	23 19 (楕円形) 逆台形状 (1.50) 0.72 0.08 91.98
A 区	11	26	18	円形	逆台形状	1.29	1.17	0.43	91.68	65	23 18 (楕円形) 逆台形状 0.78 0.57 0.30 91.70
	12	26	18	円形	楕状	1.47	1.23	0.17	91.90	66	29 22 円形 逆台形状 1.82 1.78 0.35 91.44
	13	19	17	楕円形	楕状	1.46	0.89	0.12	91.96	67	24 18-19 円形 逆台形状 0.92 0.92 0.19 91.97
	14	23-24	19-20	円形	楕状	2.66	2.29	0.25	91.80	68	24 18 (楕丸長方型) 逆台形状 (0.60) 0.42 0.29 91.78
	15	24	19	(楕円形)	逆台形状	1.15	1.06	0.41	91.68	69	29 22 (楕円形) 逆台形状 1.71 (0.99) 0.15 91.51
A 区	16	24-25	19	(楕円形)	楕状	1.38	(1.26)	0.41	91.69	70	29 20 (円形) 逆台形状 1.02 (0.85) 0.07 92.00
	17	27	19	(円形)	逆台形状	1.61	1.58	0.34	91.69	71	26 19-20 (楕円形) 逆台形状 (0.69) 0.49 0.21 91.95
	18	24-25	20	円形	楕状	2.28	2.10	0.25	91.84	72	26 19-20 (楕円形) 逆台形状 (0.36) 0.32 0.06 92.00
	19	24-25	18-19	円形	逆台形状	1.06	0.98	0.46	91.62	73	26 19 (楕円形) 逆台形状 (0.66) 0.46 0.20 91.88
	20	25-26	19-20	(楕円形)	楕状	1.08	0.87	0.13	91.96	74	25-26 19-20 (楕丸丸形) 逆台形状 1.83 1.12 0.27 91.81
A 区	21	24	20	円形	楕状	1.58	1.54	0.08	91.99	75	24-25 20 (円形) 逆台形状 1.45 (1.20) 0.11 91.97
	22	25	19-20	(楕円形)	楕状	0.94	(0.64)	0.12	91.97	76	24-25 20 — 逆台形状 (1.33) 0.65 0.12 91.96
	23	26	22	円形	逆台形状	1.10	1.01	0.22	91.72	77	25-26 20 (円形) 逆台形状 (1.33) 0.65 0.12 91.57
	24	27	22	楕円形	逆台形状	1.25	0.99	0.33	91.59	78	24 20 (長方形) V字形 0.65 (0.39) 0.41 91.68
	25	27	21	(円形)	逆台形状	1.82	1.45	0.52	91.44	79	24 18 (楕円形) 逆台形状 (0.54) (0.43) 0.33 91.37
A 区	26	26	21-22	(円形)	楕状	1.30	(0.64)	0.23	91.44	80	28 20 (楕円形) 逆台形状 1.30 0.98 0.12 91.80
	27	28	22	(円形)	逆台形状	1.13	0.98	0.28	91.63	81	28 20-21 (円形) 逆台形状 1.50 (1.82) 0.12 91.81
	28	29	21-22	(楕円形)	逆台形状	1.11	0.99	0.39	91.64	82	24 19 (楕円形) 逆台形状 (0.68) (0.42) 0.10 91.95
	29	24-25	21	(楕円形)	楕状	1.34	0.89	0.22	91.89	83	24 16-19 円形 逆台形状 1.29 (1.30) 0.48 91.59
	30	24-25	20-21	(円形)	楕状	1.73	1.66	0.26	91.83	84	25-26 19 (楕円形) 逆台形状 0.80 0.68 0.27 91.58
A 区	31	25	20-21	(方形)	楕状	0.21	0.18	0.15	92.00	85	欠番 — — — —
	32	28	22	角丸方	逆台形状	0.90	0.77	0.23	91.71	86	28 20 円形 逆台形状 1.22 1.14 0.26 91.81
	33	20	21	(楕円形)	逆台形状	0.71	0.5	0.29	91.81	87	28 21 (円形) 逆台形状 (1.02) (0.90) 0.38 91.53
	34	20	21	楕円形	楕状	0.74	0.62	0.31	91.79	88	26 19-20 (楕丸長方型) 逆台形状 (1.02) (0.63) 0.16 91.94
	35	20	21	楕丸丸形	逆台形状	1.19	0.74	0.34	91.74	89	29 21-22 (楕円形) 逆台形状 0.81 (0.66) 0.40 91.59
A 区	36	26	20-21	(楕円形)	逆台形状	1.51	(1.09)	0.34	91.74	90	欠番 — — — —
	37	27-28	20	円形	楕状	0.92	0.86	0.13	91.86	91	27 22 (円形) 逆台形状 0.72 (0.63) 0.13 91.39
	38	26-27	20	円形	楕状	0.89	(0.84)	0.10	91.95	92	26 21-22 (楕円形) 逆台形状 (0.88) (0.66) 0.15 91.41
	39	27	20-21	円形	逆台形状	1.12	1.04	0.24	91.64	93	欠番 — — — —
	40	28	21-22	(楕円形)	楕状	0.87	(0.68)	0.20	91.72	94	32 21-22 方形 逆台形状 1.24 1.13 0.14 91.77
A 区	41	28	22	(楕円形)	逆台形状	0.54	(0.37)	0.25	91.67	95	27 22 (楕円形) 逆台形状 (0.45) (0.41) 0.15 91.38
	42	27-28	21	(楕円形)	楕状	1.02	0.85	0.31	91.66	96	27 21-22 (楕円形) 逆台形状 1.21 0.86 0.22 91.31
	43	28	21	円形	楕状	1.24	(1.18)	0.28	91.66	97	22 22 (円形) 手平状 (0.50) (0.39) 0.24 91.85
	44	26-27	21	長方形	楕状	0.88	0.63	0.10	91.43	98	欠番 — — — —
	45	22	22	(楕円形)	逆台形状	1.49	0.93	0.18	91.88	99	23 19-20 円形 逆台形状 0.70 0.65 0.29 91.73
A 区	46	22	22	(楕円形)	逆台形状	0.03	0.45	0.21	91.84	100	30 22 (楕円形) 逆台形状 (1.17) 0.78 0.14 91.98
	47	26	22	(楕円形)	逆台形状	1.06	(0.67)	0.16	91.85	101	29 21 (楕円形) 斜段状 (1.98) 1.46 0.52 91.14
	48	21	22	(楕円形)	逆台形状	0.07	0.46	0.23	91.90	102	23 22 (楕円形) 逆台形状 (0.93) (0.62) 0.49 91.00
	49	20	21	(楕円形)	逆台形状	0.91	0.63	0.34	91.77	103	22 22 (楕円形) 逆台形状 (1.36) (0.76) 0.03 90.68
	50	21	22	(楕円形)	逆台形状	0.93	0.72	0.28	91.80	104	19-20 19 (楕円形) 斜段状 (1.26) (0.76) 0.03 90.68
A 区	51	21	21-22	長方形	逆台形状	1.88	1.22	0.37	91.71	105	20 16 (楕円形) 逆台形状 (0.98) (0.72) 0.36 91.07
	52	23-24	19	円形	逆台形状	0.71	(0.66)	0.17	91.66	106	24 19 円形 逆台形状 0.92 0.80 0.16 91.42
	53	30	21-22	(円形)	楕状	0.99	0.96	0.11	91.83	107	27 22 円形 逆台形状 0.66 0.62 0.13 91.43
	54	25-26	21	円形	楕状	0.81	0.72	0.08	91.88		
	55	25-26	21	楕円形	逆台形状	0.02	0.51	0.13	91.98		

第4表 A・B区ピット(P) 観察表

区	番号	グリッド		平面形状	断面形状	規則(m)			底面 標高 (m)	基点 標高 (m)			
		X	Y			長軸	短軸	深さ			長軸	短軸	
A	1	19	18	円形	連台形状	0.47	0.46	0.17	91.89	53	24	18	円形
	2	20	18	円形	平内状	0.34	0.32	0.18	91.85	54	25	21	円形
	3	20	18	(円形)	V字状	0.32	0.25	0.17	91.85	55	25	21	円形
	4	23	20	円形	連台形状	0.28	0.24	0.11	91.95	56	25	21	(円形)
	5	23	21	円形	連台形状	0.21	0.20	0.09	91.97	57	24	21	(横円形)
	6	23	21	横円形	連台形状	0.43	0.37	0.15	91.95	58	25	20	(横円形)
	7	24	21	円形	U字状	0.38	0.33	0.29	91.82	59	24	20	(横円形)
	8	19	18	円形	連台形状	0.61	0.51	0.26	91.82	60	24	20	(円形)
	9	20	18	楕円形	連台形状	0.78	0.58	0.53	91.84	61	23	18	(円形)
	10	20	17	椭円形	連台形状	0.85	0.62	0.15	91.94	62	24	18	円形
	11	19-20	17	円形	連台形状	0.65	0.55	0.10	91.99	63	24	21	(横丸方形)
	12	20	17-18	円形	楕状	0.86	0.77	0.20	91.84	64	27	19	円形
	13	20	17-18	円形	楕状	0.61	0.52	0.21	91.85	65	27	22	横丸方形
	14	20	17	円形	椭4字状	0.42	0.38	0.43	91.66	66	25	18	(円形)
	15	20	17	円形	U字状	0.40	0.37	0.43	91.66	67	28	21	円形
	16	23	20-21	横丸方形	平内状	0.54	0.43	0.19	91.77	68	25	18	(横円形)
	17	24	21	円形	連台形状	0.38	0.32	0.18	91.92	69	26	20	横丸方形
	18	23-24	21	円形	U字状	0.26	0.26	0.18	91.89	70	27	20	(横円形)
	19	24	21	円形	連台形状	0.36	0.31	0.26	91.85	71	27	20-21	(横円形)
	20	24	21	横円形	連台形状	0.55	0.38	0.40	91.72	72	29	21	横丸方形
	21	19	17	横円形	連台形状	0.41	0.25	0.15	91.95	73	26	20	(横円形)
	22	23-24	21-22	円形	平内状	0.50	0.44	0.31	91.69	74	19	18	(円形)
	23	23	21	(円形)	V字状	0.23	0.14	0.22	91.75	75	26	22	(円形)
	24	24	22	横円形	U字状	0.69	0.41	0.41	91.66	76	29	21	(横円形)
	25	24	22	(横円形)	U字状	0.69	0.36	0.41	91.66	77	29	21	(横円形)
	26	19	17	(横円形)	U字状	0.48	0.35	0.70	91.41	78	26	20	(横丸方形)
	27	24	21	横円形	U字状	0.40	0.26	0.31	91.75	79	26	21	(横円形)
	28	26	20-21	円形	平内状	0.36	0.32	0.18	91.77	80	26	21	横丸方形
	29	24	21	(横円形)	平内状	0.56	0.40	0.13	91.86	81	26	21	円形
	30	25	21	円形	楕状	0.81	0.76	0.07	92.03	82	27	21	横丸方形
	31	25	21	(横円形)	U字状	1.05	0.66	0.53	91.56	83	27	21	円形
	32	19	17	(円形)	連台形状	0.33	0.31	0.32	91.77	84	27	21	横丸方形
	33	20-21	18	円形	連台形状	0.46	0.45	0.28	91.73	85	26	21	(横円形)
	34	21	18	(横円形)	連台形状	0.56	0.46	0.57	91.43	86	26	21	(横円形)
	35	21	18	円形	連台形状	0.44	0.38	0.48	91.58	87	26	21	(横円形)
	36	21	18	(円形)	連台形状	0.51	0.44	0.43	91.63	88	25	20	(円形)
	37	20	21	円形	連台形状	0.34	0.31	0.28	91.82	89	30	22	(横円形)
	38	20	21	横丸形	連台形状	0.49	0.33	0.23	91.88	90	29	22	(円形)
	39	26	22	円形	V字状	0.22	0.19	0.31	91.62	91	27	22	(円形)
	40	26-27	20	横円形	U字状	0.70	0.49	0.30	91.68	92	27	22	(円形)
	41	30	21-22	円形	楕状	0.46	0.42	0.13	91.98	93	27	22	(円形)
	42	30	22	(横円形)	V字状	0.53	0.43	0.54	91.49	94	27	22	(横丸方形)
	43	20	19	円形	楕状	0.44	0.42	0.25	91.72	95	27	22	(横円形)
	44	26	22	(横丸方形)	U字状	0.50	0.47	0.57	91.35	96	26	21	横丸方形
	45	25	21	円形	楕状	0.56	0.55	0.19	91.99	97	26	21	連台形状
	46	25	21	横円形	楕状	0.68	0.51	0.51	91.61	98	26	21	(横丸方形)
	47	25-26	21	(横円形)	平内状	0.30	0.25	0.16	91.88	99	27	22	連台形状
	48	25	21	(横円形)	平内状	0.49	0.32	0.39	91.64	100	23	21	円形
	49	25-26	21	(横円形)	連台形状	0.54	0.37	0.38	91.72	101	27	22	横円形
	50	25	19	横円形	連台形状	0.40	0.32	0.23	91.86	102	27	22	円形
	51	23	18	横円形	楕状	0.52	0.42	0.13	91.86				
	52	29	22	円形	楕状	0.25	0.25	0.14	91.91				

B	1	41	26	椭円形	楕状	0.63	0.44	0.22	91.43
	2	27	40	不明	U字状	0.20	不明	0.44	91.41

第5表 A区井戸跡(I) 観察表

区	番号	グリッド		構造	断面形状	平面形状	規則(m)			底面 標高 (m)	時期		
		X	Y				長軸	短軸	深さ			長軸	短軸
A	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	25-26	20-21	石組み	楕4字状	円形	2.39	2.27	1.89	90.18	10世紀後半以降	D-57より古い。振り方の平面形状は横丸方形。	
	4	29	21-22	素掘り	V字状	円形	2.29	1.90	1.87	90.17	10世紀以降	T-3-4, D-80, P-76, X-5-6より新しい。	
	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6	19	18	素掘り	円筒状	(横丸方形)	0.91	(0.90)	1.60	90.07	10世紀後半以前	H-7より古い。	

( )は推定値・残存値

第6表 A・B区溝跡(W)観察表

区	番号	グリッド	断面形状	走行方向	規模(m)			底面標高(m)	時期・備考	
					X	Y	横出長	幅	深さ(約)	
	1	20 ~ 24	19 ~ 22	透台形状	北西~南東(N-54°W)		27.04	3.89 ~ 5.32	0.48 ~ 0.96	91.11 ~ 91.52 道世
	2	19 ~ 32	14 ~ 22	弧状	北西~南東(N-59°W)		59.96	1.42 ~ 3.76	0.19 ~ 0.64	91.19 ~ 91.50 1108年以前 As-Bで埋没
	3	24 ~ 29	21~22	幅状	西~東(N-78°E) / 北西~南東(N-60°W)	15.38 / 5.28	0.68 ~ 1.44	0.28 ~ 0.52	91.52 ~ 91.72 道世	
	4	21 ~ 27	18 ~ 21	弧状	北西~南東(N-66°W) / 北西~南東(N-11°W)	26.49 / 2.41	0.24 ~ 0.61	0.10 ~ 0.18	91.91 ~ 92.10 道世か	
	5	30~31	20 ~ 22	V字状	北東~南西(N-9°E)		12.35	1.34 ~ 1.85	0.68 ~ 0.91	90.98 ~ 91.24 道世
	6	28~29	20~21	透台形状	北東~南西(N-31°E)		5.82	0.27 ~ 0.61	0.05 ~ 0.13	91.77 ~ 91.77 道世
	7	28	20~21	透台形状	北東~南西(N-6°E)		2.09	0.20 ~ 0.34	0.06 ~ 0.11	91.80 ~ 91.89 古代~道世
A	8	欠番	—	—	—		—	—	—	—
	9	25 ~ 27	18 ~ 20	透台形状	北西~南東(N-44°W)		11.46	0.89 ~ 1.13	0.08 ~ 0.37	91.62 ~ 91.89 1108年以前
	10	25 ~ 27	18 ~ 20	(透台形 状)	北西~南東(N-42°W)		11.56	0.99以上	0.08 ~ 0.34	91.71 ~ 91.83 1108年以前
	11	25 ~ 28	20 ~ 22	弧状	北東~南西(N-67°E)		4.98	1.29 ~ 1.35	0.36 ~ 0.44	91.65 ~ 91.71 8世紀以前
	12	19 ~ 33	14 ~ 22	弧状	北西~南東(N-58°W)		63.34	2.72以上	0.64 ~ 0.68	91.29 ~ 91.47 1108年以前
	13	19 ~ 33	14 ~ 22	不明	北西~南東(N-55°W)		42.85	2.87以上	1.20以上	90.43以下 9 ~ 10世紀~ 1108年以前
	14	26~27	17~18	透台形状	北西~南東(N-68°W) / 北西~南東(N-30°W)	2.97 / 1.44	0.24 ~ 0.61	0.04 ~ 0.11	91.74 ~ 91.79 1108年以前	
	15	23 ~ 33	17 ~ 22	不明	西~東(N-79°W) / 西北~南東(N-50°W)	31.95 / 9.87	4.02以上	0.92以上	90.90以下 9 ~ 10世紀~ 1108年以前	
	16	23 ~ 33	17 ~ 22	不明	西~東(N-70°W) / 北西~南東(N-50°W)	31.95 / 9.87	2.42以上	0.92以上	90.90以下 9 ~ 10世紀~ 1108年以前	
B	1	40 ~ 42	27 ~ 29	弧状	北西~南東(N-46°W)		9.76	2.05 ~ 3.45	0.46 ~ 0.66	91.08 ~ 91.20 1108年以前 A区W-2と同~遺構
	2	42 ~ 44	28~29	透台形状	北東~南西(N-59°E)		7.34	0.24 ~ 0.49	0.06	91.25 10世紀以前
	3	42~43	27~28	透台形状	北東~南西(N-41°E)		6.89	0.32 ~ 0.48	0.06 ~ 0.14	91.49 ~ 91.55 10世紀以前
	4	40 ~ 44	27 ~ 29	透台形状	北西~南東(N-53°W)		15.94	1.12 ~ 2.17	0.32 ~ 0.66	90.89 ~ 91.24 9 ~ 10世紀前半以降
	5	40 ~ 45	26 ~ 29	透台形状	北西~南東(N-56°W)		19.73	1.34 ~ 1.98	0.45 ~ 0.69	90.37 ~ 91.37 9 ~ 10世紀前半以降
	6	40 ~ 42	26~27	不明	北西~南東(N-55°W) / 北西~南東(N-33°W)	3.67 / 3.03	0.57以上	0.25	91.54	9 ~ 10世紀前半以降
	7	欠番	—	—	—		—	—	—	—
	8	40 ~ 42	27 ~ 29	弧状	北西~南東(N-38°W)		7.98	0.51 ~ 4.02	0.70	91.00 ~ 91.23 A区W-12と同~遺構
	9	40 ~ 42	29	不明	不明		3.64	3.6以上	0.55以上	91.02 ~ 91.05 A区W-15と同~遺構
	10	40 ~ 43	28~29	弧状	北西~南東(N-53°W)		9.91	4.79以上	0.78以上	90.3 ~ 90.91 A区W-16と同~遺構
	11	40	25	不明	不明		不明	3.4以上	0.5以上	91.1以下 A区W-13と同~遺構

第7表 B区島跡観察表

区	番号	グリッド	断面形状	規模(m)			底面標高(m)	時期	重複関係・備考	
				X	Y	横出長	幅	深さ(約)		
B	1-1	41~42~43	26~27~29	弧状	8.58	0.27 ~ 0.42	0.03	91.62	10世紀以降	W-3~5より新しい。
B	1-2	42~43	27~28	透台形状	(3.30)	0.25 ~ 0.44	0.07	91.59	10世紀以降	W-3~5より新しい。
B	1-3	42	27~28	不定形	(3.36)	0.21 ~ 0.49	0.08	91.62	10世紀以降	W-5~6より新しい。

第8表 A・B区性格不明遺構(X)観察表(1)

区	番号	グリッド	平面形状	断面形状	規模(m)			底面標高(m)	時期	重複関係・備考	
					X	Y	長軸	短軸	深さ		
A	1	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	
	2	26	21	不明	弧状	(0.64)	(0.25)	0.55	92.06	9世紀以降	W-2より新しい。
	3	28~29	20~21	(梢円形)	不明	(5.93)	(2.16)	(0.46)	(91.48)	8世紀頃	T-4, D-81, X-4-10-11より新しい。D-101, W-2-G-7より古い。
	4	28	20	不明	不明	(1.72)	(1.02)	(0.55)	(91.48)	10世紀頃	D-1, W-2より古い。
	5	28~29	21	(長梢円形)	透台形状	(0.46)	0.40	0.14	91.58	10世紀以降	X-6より新しい。T-3, I-4より古い。

第9表 A・B区性格不明遺構(X) 観察表(2)

区 域 番 号	グリッド		断面 形状	断面 形状			幅員(m) 長軸	幅員(m) 短軸	底面 標高(m)	時期	蓄積範囲・備考
	X	Y		長軸	短軸	深さ					
A 区	6	28-29	Z1	(長軸円形)	弧状	2.82	1.60	0.41	91.19	10世紀以前	X-8・10より詳しく。T-3・4より古い。
	7	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8	28-29	Z1	(長軸円形)	弧状	2.32	0.72	0.24	91.50	10世紀以前	T-3・4、X-6より古い。
	9	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	10	28-29	Z1	(長軸円形)	弧状	1.68	0.49	0.24	91.52	10世紀以前	T-3・4、X-3・6より古い。
	11	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12	28	22	(長軸円形)	弧状	(1.28)	0.76	0.30	91.34	9世紀以前	H-21、D-32より古い。
	13	25-26	19+20	不定形	弧状	3.66	1.95	0.33	91.67	9世紀中葉	D-84より詳しく。H-9、D-20-22-74より古い。
B 区	1	28-29	43-44	(長軸円形)	弧状	2.51	1.70	0.53	90.60	9世紀以前	W-2・4・5より古い。

第10表 遺物観察表(1)

出土地番号	出土位置	種類	法量(cm <sup>3</sup> )			現存	地成	色調	胎土 (胎土色/含有物)	特徴 調査 文様 等	
			口径	底径	器高					( )	
1 A区 H-1	覆土 カマド	重窓器 耳	14.7	6.6	4.9	口縁～底部 2/3	中や良好	浅黄色	長石 石英 赤色粒	クロコ成形(右)。熟化焰地成。 底部赤陶質。高台胎土。	
2 A区 H-1	覆土	重窓器 耳	13.4	6.8	4.1	口縁～底部 1/2	中や良好	褐灰色	長石 角閃石 チャート 赤色粒	クロコ成形(右)。熟化焰地成。 底部赤陶質。	
3 A区 H-1	床面	重窓器 耳	—	7.0	(3.9)	底部～底部 1/2	中や良好	にぶい 黄褐色	長石 石英 角閃石 赤色粒 白色粒	クロコ成形(右)。熟化焰地成。 底部へ切抜(ア)。	
4 A区 H-1	カマド	土器器 耳	(11.6)	(5.5)	3.6	底部～底部 1/4	良好	にぶい 赤褐色	長石 石英 赤色粒	外：口縁部ヨコナデ。体部斜面粗面。 内：ナデ。	
5 A区 H-1	覆土 カマド 側り方	土器器 耳	(21.0)	—	(8.4)	口縁～底部 1/2	良好	暗色	長石 石英 チャート 赤色粒	外：口縁部ヨコナデ。制部ケズリ。 内：口縁部ヨコナデ。制部ヘラナデ。	
6 A区 H-2	覆土	重窓器 耳	(12.5)	5.7	4.1	口縁～底部 1/3	中や良好	浅黄色	長石 石英 赤色粒	クロコ成形(右)。熟化焰地成氣味。 底部赤陶質ナデ。体部に墨渦(シロ)。内面底部に焼付着。	
7 A区 H-2	覆土	土器器 耳	11.4	6.11	3.8	口縁～底部 1/6	良好	にぶい 白色	長石 石英	外：ナデ。体部指面粗面。底部無調性。 内：ナデ。	
8 A区 H-2	床面	重窓器 耳	—	—	(9.9)	底部～底部 端片	中や良好	外：黒褐色 内：にぶい 白色	長石 石英 赤色粒	クロコ成形。外：制部下位ケズリ。	
9 A区 H-2	覆土	重窓器 耳	(39.5)	—	(10.1)	口縁部 端片	良好	灰	長石 白色粒	クロコ成形(右)。外：制部横筋波状文3段。	
10 A区 H-3	床面	重窓器 耳	12.0	5.7	5.1	完形	中や良好	青灰色	長石 石英 粘結片岩 赤色粒	クロコ成形(右)。熟化焰地成。 底部赤陶質。高台胎土。	
11 A区 H-3	床面 貯藏穴	重窓器 耳	13.6	—	(4.5)	口縁～体部 4/5	中や良好	浅黄色	長石 石英 赤色粒	クロコ成形(右)。熟化焰地成。 底部赤陶質。高台胎土。	
12 A区 H-3	覆土 床面	重窓器 耳	13.0	6.0	5.6	口縁～底部 3/4	中や良好	暗色	長石 石英 赤色粒	クロコ成形(右)。熟化焰地成。 底部赤陶質。高台胎土。	
13 A区 H-3	覆土	重窓器 耳	(5.4)	4.2	2.8	3/4	中や良好	暗色	長石 石英 チャート 赤色粒	クロコ成形。熟化焰地成。 底部焰地前穿孔1ヶ所。	
14 A区 H-3	カマド	直窓器 耳	—	10.0	(17.7)	底部～底部 2/3	中や良好	灰褐色	長石 赤色粒 白色粒	クロコ成形。外：制部下位ケズリ。高台胎土。	
15 A区 H-3	床面	重窓器 耳	—	—	(14.9)	底部	中や良好	暗色	長石 石英 粘結片岩 チャート	クロコ成形。熟化焰地成。 外：把手1ヶ所残る。制部打ち欠け再利用か。	
16 A区 H-3	カマド 床面 貯藏穴	重窓器 耳	(15.7)	—	(25.0)	口縁～制部 1/2	中や良好	にぶい 白色	長石 石英 粘結片岩 チャート	クロコ成形。熟化焰地成。内面削面。 外：底部から穿孔1ヶ所。	
17 A区 H-3	カマド	重窓器 耳	(30.9)	—	(14.4)	口縁～制部 1/5	中や良好	灰白色	石英 赤色粒 白色粒	クロコ成形。熟化焰地成氣味。	
18 A区 H-3	床面	重窓器 耳	—	21.2	(8.6)	底部～底部 端片	中や良好	にぶい 黃褐色	長石 石英 小體	クロコ成形。熟化焰地成。 外：制部下位～底部ケズリ。	
19 A区 H-3	カマド 床面 貯藏穴	重窓器 耳	—	13.2	18.0	底部～底部 2/3	中や良好	灰褐色	長石 石英 小體	クロコ成形。熟化焰地成氣味。 外：制部下位～底部ケズリ。	
20 A区 H-3	カマド 床面 貯藏穴	重窓器 耳	—	16.3	(19.5)	底部～底部 1/8	良好	明黄色	長石 石英 赤色粒	クロコ成形。熟化焰地成。 外：制部下位～底部ケズリ。	
21 A区 H-3	カマド 床面 羽釜	重窓器 耳	18.4	(7.1)	(23.3)	口縁～底部 4/5	良好	にぶい 黃褐色	長石 石英 粘結片岩 チャート 赤色粒	クロコ成形。熟化焰地成。 外：制部下位ケズリ。	

第11表 遺物観察表(2)

測量番号	出土遺構	出土位置	被覆 器種	法量(cm・g)			現存	焼成	色調	胎土 (胎土色/有物)	特徴 潜伏 文様 等
				口様	底径	器高					
22	A区 H-3	カマド	羽釜	(19.1)	—	(21.9)	口縁～胴部 1/5	良好	褐色	長石 石英 チャート 小礫	クロ成形、酸化焰焼成。 外：胴部下位に下位ケズリ。
23	A区 H-3	床面	羽釜	(23.0)	—	(15.3)	口縁～胴部 1/6	良好	に赤い褐色	長石 石英 角閃石 白色粒	酸化焰燒成。 外：ナヂ、指印圧痕。 内：ナヂ、指印圧痕。
24	A区 H-3	床面	砥石	長：7.0	幅：3.4	厚：2.5	周縁一部 欠損	—	—	石材：凝灰岩 重量：69.7g	加熱状況なし。下端は上端の2倍ほどの厚さ。背面に 擦及び打撲凹凸には、鉄工道具を用いた抜き切りによる 空孔があります。被覆により全体が黒色に変化。
25	A区 H-4	覆土	須恵器 片	(9.0)	4.8	3.6	口縁～底部 1/2	やや良好	灰白色	赤色粒	クロ成形、酸化焰焼成。 底盤系切削。
26	A区 H-4	床面	羽釜	(24.0)	—	(7.3)	口縁～胴部 底盤片	やや良好	褐色	長石 石英 チャート 赤色粒	クロ成形 (右)、酸化焰焼成。
27	A区 H-5	カマド横 床面	須恵器 片	—	(5.4)	(3.2)	底部～胴部 1/2	やや良好	灰褐色	長石 石英 チャート 赤色粒	クロ成形 (右)、酸化焰焼成。 高台貼付。
28	A区 H-5	カマド	羽釜	(20.4)	—	(6.1)	口縁部 底盤片	やや良好	褐色	長石 石英 チャート 赤色粒	クロ成形、酸化焰焼成。
29	A区 H-6	覆土	須恵器 片	14.7	7.0	5.6	口縁～底部 1/2	やや良好	浅黄色	石英 赤色粒	クロ成形 (右)、酸化焰焼成。 底盤系切削。高台貼付。
30	A区 H-6	床面	土師器 片	11.6	6.2	4.1	口縁～底部 3/4	良好	に赤い褐色	長石 石英 角閃石	外：口縁部ヨコナヂ、底盤ナヂ。 内：ナヂ。
31	A区 H-6	カマド	土師器 片	19.8	—	(17.3)	口縁～胴部 1/2	良好	褐色	石英 角閃石 赤色粒	外：口縁部ヨコナヂ、指印圧痕。胴部ケズリ。 内：口縁部ヨコナヂ、胴部ヘラナヂ、指印圧痕。
32	A区 H-6	挖藏穴	土師器 片	20.4	—	(16.6)	口縁～胴部 2/3	良好	に赤い褐色	石英 白色粒	外：口縁部ヨコナヂ、指印圧痕。 内：ナヂ、ヘラナヂ。
33	A区 H-6	カマド 床面	土師器 片	19.2	—	(19.0)	口縁～胴部 1/2	良好	明赤褐色	石英 白色粒	外：口縁部ヨコナヂ、胴部ケズリ。 内：口縁部ヨコナヂ、胴部ナヂ。
34	A区 H-6	カマド 床面	須恵器 片	(41.9)	(16.0)	(11.4)	口縁～底部 底盤片 (19.2)	良好	灰黑色	長石 石英	大體。 外：口縁部錐脚状又3段。胴部平行タキ。 底盤ナヂ有り。 内：胴部当て具痕。
35	A区 H-6	カマド	土師	長3.8	幅2.2	孔径0.3	3/4	良好	に赤い 黄褐色	石英 白色粒	ナヂ。
36	A区 H-7 b	カマド	須恵器 片	11.2	(7.2)	4.9	口縁～底部 1/2	やや良好	に赤い 黄褐色	長石 石英 赤色粒	クロ成形、酸化焰焼成。 高台貼付。
37	A区 H-7 b	床面	須恵器 片	12.8	6.2	3.6	口縁～底部 2/3	やや良好	褐色	長石 赤色粒 白色粒	クロ成形 (右)、酸化焰焼成。 底盤系切削。
38	A区 H-7 b	床面	灰陶器 片	(3.9)	5.2	9.3	ほぼ完形	良好	灰白色	長石	自然灰陶。虎斑山段階。
39	A区 H-7 b	カマド	土器	(24.5)	—	(7.1)	口縁～胴部 破片	良好	褐色	長石 石英 角閃石 赤色粒 白色粒	外：口縁部ヨコナヂ、胴部ケズリ。 内：ヘラナヂ
40	A区 H-7	覆土	羽釜	(18.6)	—	(4.9)	口縁部 底盤片	良好	に赤い褐色	赤色粒	クロ成形、酸化焰焼成。
41	A区 H-8	床面	須恵器 片	(13.9)	8.0	3.3	口縁～底部 1/2	やや良好	灰白色	石英 チャート	クロ成形 (右)、酸化焰焼成。 底盤系切削ナヂ。体部外側墨書き「□」
42	A区 H-8	床面	須恵器 片	11.8	6.5	3.3	口縁～底部 2/3	良好	無色	長石 白色粒	クロ成形 (右)。 底盤系切削。
43	A区 H-8	床面	土師器 片	12.4	8.6	3.6	完形	良好	褐色	石英 角閃石 白色粒	外：口縁部ヨコナヂ、体部ナヂ。指印圧痕。 内：ナヂ、指印圧痕。口部に埋付有。
44	A区 H-8	カマド	土師器 片	12.1	8.3	3.5	ほぼ完形	良好	褐色	石英 角閃石 白色粒	外：口縁部ヨコナヂ、体部ナヂ。指印圧痕。 内：ナヂ、指印圧痕。
45	A区 H-8	覆土	土師器 片	11.2	—	(5.9)	口縁～胴部 1/3	良好	に赤い 赤褐色	石英 角閃石 白色粒	外：口縁部ヨコナヂ、胴部ケズリ。 内：ナヂ。
46	A区 H-8	床面	土師	長5.4	幅1.6	孔径0.5	完形	良好	に赤い褐色	赤色粒 白色粒	ナヂ。
47	A区 H-9	床面	土師器 高台付片	11.5	7.0	5.9	ほぼ完形	やや良好	褐色	石英 重母 角閃石 赤色粒 白色粒	外：指印圧痕。体部下位ケズリ。高台貼付。
48	A区 H-9	カマド	七釜	(19.0)	—	(8.5)	口縁～胴部 底盤片	良好	褐色	長石 石英 赤色粒 白色粒	外：口縁部ヨコナヂ、胴部ケズリ。 内：口縁部ヨコナヂ、胴部ナヂ。
49	A区 H-9	カマド	土器	(21.4)	—	(13.2)	口縁～胴部 1/6	良好	外：褐色 内：明赤褐色	長石 石英 角閃石 赤色粒 白色粒	外：口縁部ヨコナヂ、胴部ケズリ。 内：口縁部～胴部下位ヘラナヂ、胴部ナヂ。
50	A区 H-9	覆土	須恵器 片	(20.0)	—	(7.1)	口縁～胴部 底盤片	やや良好	に赤い 黄褐色	長石 石英 白色粒	クロ成形、酸化焰焼成。
51	A区 H-10	野狐穴	須恵器 片	(12.1)	(7.0)	3.5	口縁～底部 1/3	やや良好	灰白色	赤色粒	クロ成形 (右)、酸化焰燒成氣味。 底盤ヘアカットナヂ。

第12表 遺物観察表(3)

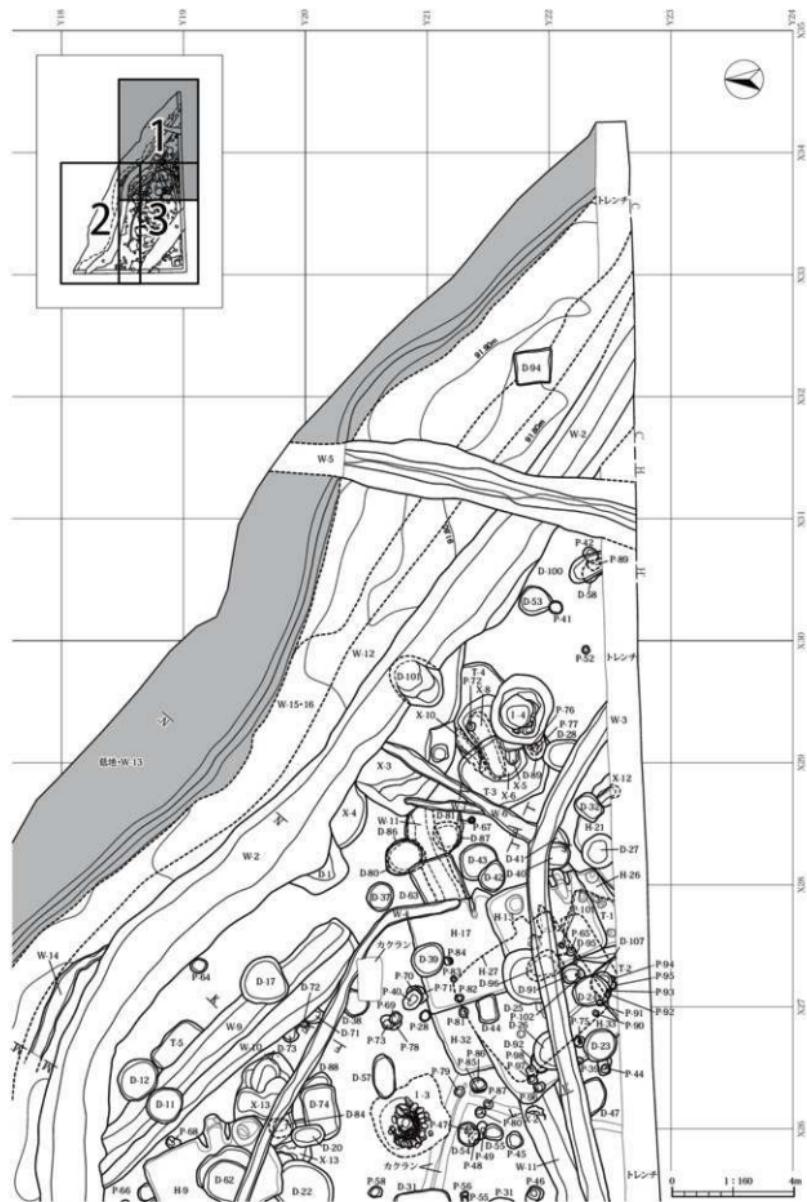
( )は推定値・残存値

番号	出土構造	出土位置	縦横 器種	法量(cm·g)			残存	焼成	色調	胎土 (胎土色/含有物)	特徴 調整 文様 等
				口径	底径	高さ					
52	A区 H-10	野廻穴	土縦器 平	(12.1)	(6.4)	(3.2)	口縫～底部 1/6	良好	褐色	長石	外：口縫部ヨコナデ。体部ナデ。底部ケズリ。 内：ナデ。
53	A区 H-11	床面	重窓器 平	(17.0)	ツマミ 径2.9	3.5	3/4	良好	灰褐色	長石 小窓	ロクロ成形(右)。 天井部断面ヘラケズリ(左)。
54	A区 H-11	H-3カマド 側り方	重窓器 平	(14.1)	7.6	3.3	口縫～底部 1/2	やや良好	外：黄褐色 内：灰白色	長石	ロクロ成形(右)。焼成始地成気味。 底部赤斑。
55	A区 H-11	P-1 覆土	重窓器 平	12.8	6.0	3.5	口縫～底部 4/5	良好	黃褐色	長石	ロクロ成形(右)。 底部赤斑。
56	A区 H-11	H-25 側り方	重窓器 平	(13.0)	8.0	4.0	口縫～底部 1/2	やや良好	灰褐色	長石 赤色粒	ロクロ成形(右)。焼成始地成。 底部赤斑。体部隙間開き。
57	A区 H-11	側り方	土縦器 平	(14.0)	10.3	2.6	口縫～底部 1/5	良好	明赤褐色	長石 石英	外：口縫部ヨコナデ。体部ケズリ強ナデ。底部ケズリ。 内：ナデ。
58	A区 H-11	野廻穴	土縦器 平	(20.0)	11.3	9.2	口縫～底部 1/2	良好	褐色	長石 角閃石	外：口縫部ヨコナデ。体部上位ナデ。体部下位ケズリ。 底部ケズリ強ナデ。体～底部ナデ。
59	A区 H-11	覆土	土縦器 平	(12.5)	—	(5.0)	口縫～脚部 1/2	良好	にじむ 赤褐色	石英	外：口縫部ヨコナデ。脚部ケズリ。 内：ナデ。
60	A区 H-11	野廻穴	土縦器 平	(18.5)	—	8.9	口縫～脚部 破片	良好	褐色	長石 石英 赤色粒	外：口縫部ヨコナデ。脚部ケズリ。 内：ナデ。
61	A区 H-13	カマド 側り方 D-25	風呂場器 平	(15.2)	(6.6)	5.0	口縫～底部 1/3	良好	聖母像	灰白色	ロクロ成形。鹿鳴山殿跡。
62	A区 H-13	カマド	重窓器 平	(12.2)	(6.9)	5.4	口縫～底部 1/3	やや良好	灰白色	長石 石英	ロクロ成形(右)。 底部赤斑。高台貼付。
63	A区 H-13	カマド 側り方	重窓器 平	10.1	5.1	2.5	口縫～脚部 1/2	やや良好	褐色	長石 赤色粒 白色粒	内：ナデ。 内：ナデ。
64	A区 H-16	カマド	重窓器 平	11.9	5.1	4.2	完形	やや良好	にじむ 桔梗	長石 石英 脚窓粒 小窓	ロクロ成形(右)。 底部赤斑。
65	A区 H-16	野廻穴	重窓器 平	11.8	5.0	3.6	ほぼ完形	やや良好	褐灰色	長石 石英 角閃石 赤色粒	ロクロ成形(右)。焼成始地成気味。 底部赤斑。
66	A区 H-16	カマド	羽釜	(17.0)	—	(5.1)	口縫破 片	良好	にじむ 桔梗	長石 石英 赤色粒	ロクロ成形。
67	A区 H-16	側り方	土縦器 平	(20.0)	(3.2)	口 (7.6) 脚部 (15.3)	口縫～底部 破片	良好	にじむ 桔梗	石英 赤色粒	外：口縫部ヨコナデ。脚部ケズリ。 内：口縫部ヨコナデ。脚部上位ヘラナデ。 脚部下位ナデ。
68	A区 H-17	覆土	土縦器 平	(12.0)	(8.9)	2.6	口縫～底部 1/3	良好	にじむ 桔梗	石英	外：口縫部ヨコナデ。体部ナデ。底部ケズリ。 内：ナデ。
69	A区 H-17	カマド	土縦器 平	13.2	8.1	4.2	ほぼ完形	良好	褐色	長石 石英 赤色粒	外：口縫部ヨコナデ。体～底部ケズリ。ナデ。 内：ナデ。放状状記文。口縫に施墨付着。 證明記入記用。
70	A区 H-17	カマド	土縦器 平	20.9	6.3	29.0	口縫～底部 2/3	やや良好	褐色	長石 石英 赤色粒	外：口縫部ヨコナデ。脚部ケズリ。 内：ナデ。
71	A区 H-23	覆土	重窓器 平	(14.8)	7.9	5.8	口縫～底部 2/3	やや良好	浅黄色	長石 赤色粒	ロクロ成形(右)。焼成始地成。 高台貼付。
72	A区 H-24	覆土	重窓器 平	(12.1)	7.2	3.6	口縫～底部 1/2	良好	灰白色	長石	ロクロ成形(右)。 底部赤斑。
73	A区 H-24	カマド	土縦器 平	25.2	8.8	16.2	ほぼ完形	良好	明赤褐色	長石 石英 角閃石 赤色粒	外：口縫部ヨコナデ。体部ケズリ。 内：口縫部ヨコナデ。体～底部ナデ。
74	A区 H-25	側り方	重窓器 平	16.0	天井7.1	2.8	口縫～天井 1/2	良好	褐灰色	長石 小窓 赤色粒	ロクロ成形(右)。 天井部切削。口縫部折り返し。肥厚。壁の可動性あり。
75	A区 H-25	側り方	重窓器 高台付	(13.0)	(8.8)	5.0	口縫～底部 1/3	やや良好	灰白色	長石 赤色粒	ロクロ成形(右)。焼成始地成。 底部赤斑。高台貼付。
76	A区 H-25	覆土	重窓器 平	12.5	5.8	3.8	ほぼ完形	良好	灰白色	長石	ロクロ成形(右)。 底部赤斑。
77	A区 H-25	床面	重窓器 平	12.3	5.8	3.8	完形	やや良好	灰褐色	長石 石英 粘晶片岩 赤色粒	ロクロ成形(右)。焼成始地成。 底部赤斑。
78	A区 H-25	床面	重窓器 平	11.7	5.7	3.1	完形	良好	灰白色	長石 石英 白色粒	ロクロ成形(右)。 底部赤斑。ナデ。口縫部塗装材。
79	A区 H-25	床面	土縦器 平	11.9	8.0	3.5	完形	良好	にじむ 桔梗	長石 石英 チャート 白色粒	外：口縫部ヨコナデ。体部ナデ。ナデ。 内：口縫部ヨコナデ。ナデ。口縫部塗装材。
80	A区 H-25	野廻穴	土縦器 平	11.7	7.8	3.4	口縫～底部 2/3	良好	にじむ 桔梗	長石 石英 角閃石 白色粒	外：口縫部ヨコナデ。体部ケズリ。 内：口縫部ヨコナデ。ナデ。
81	A区 H-25	覆土	土縦器 平	13.0	(8.4)	3.6	口縫～底部 1/5	良好	にじむ 桔梗	長石 角閃石 白色粒	外：口縫部ヨコナデ。体部ケズリ。 内：ナデ。放状状記文。
82	A区 H-25	野廻穴	土縦器 平	(19.9)	—	5.4	口縫～脚 破片	良好	にじむ 桔梗	長石 石英 角閃石	外：口縫部ヨコナデ。脚部ケズリ。 内：口縫部ヨコナデ。脚部ナデ。

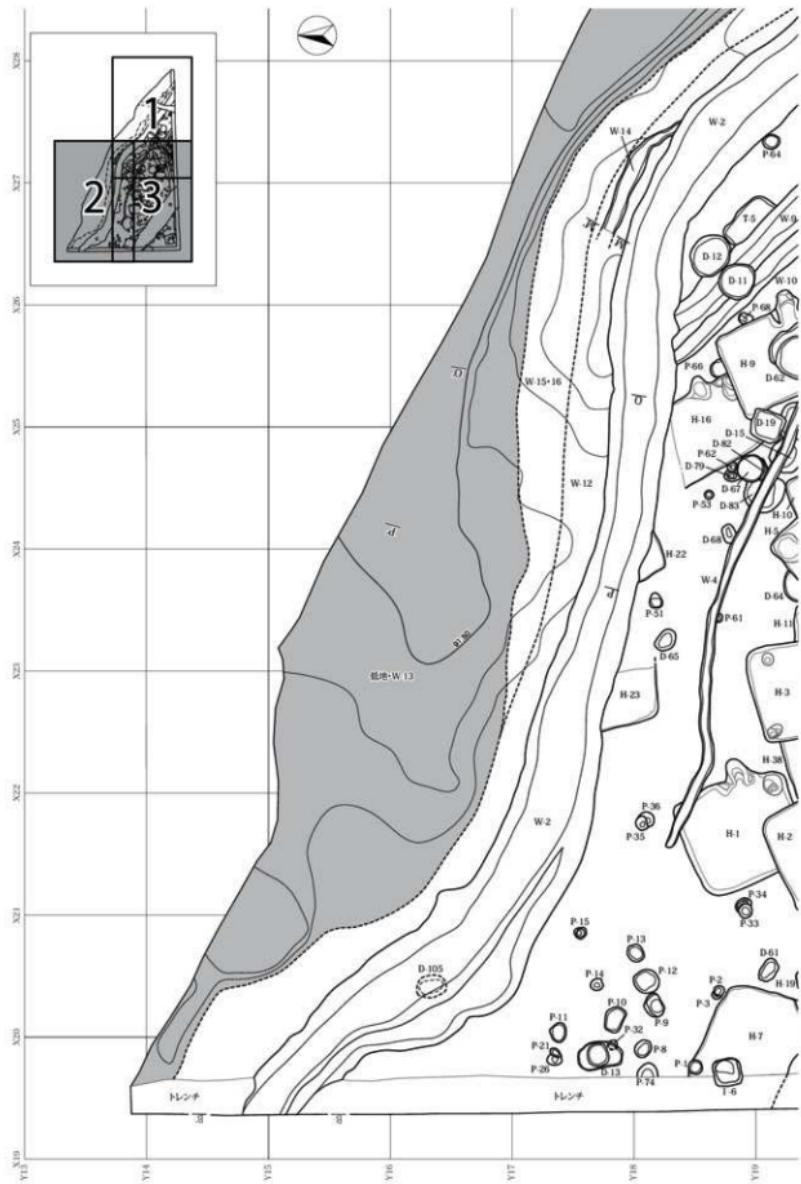
第13表 遺物観察表(4)

( )は推定値・残存値

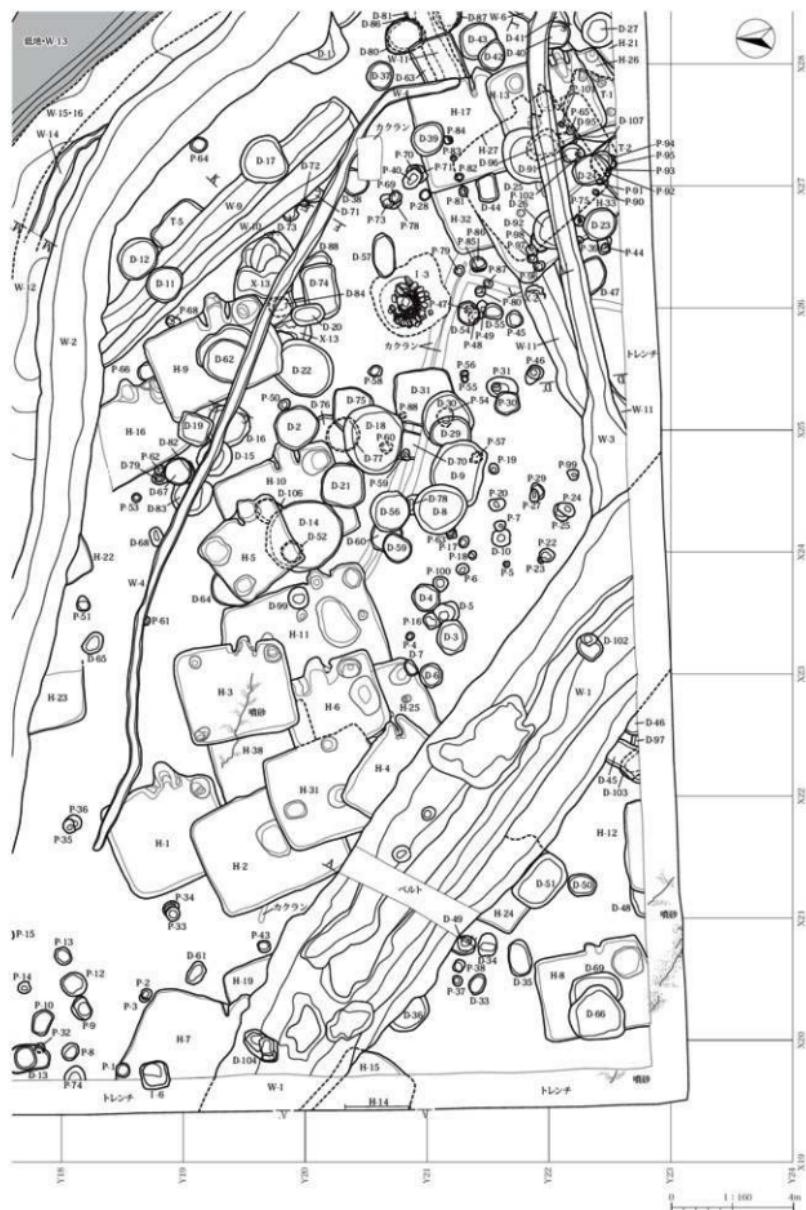
測量番号	出土遺構	出土位置	被覆器種	法量(cm <sup>3</sup> g)			現存	焼成	色調	胎上 (胎土色/含有物)	特徴・調査・文様等
				口径	底径	高さ					
83	A区 H-26	野狐穴 上面	灰釉陶 瓶	17.8	—	(6.4)	口縁～底部 4/5	やや良好	黄褐色	長石 石英 赤色粒	クロコ形(右)、焼化粧燒成味。 高台付。
84	A区 H-26	カマド	灰釉陶 瓶	(12.0)	—	(4.4)	口縁～全体 1/3	やや良好	灰褐色	長石 白色粒	クロコ形(右)。 内:口縁部下位側面ケズリ。高台付。口縁～全体施釉 剥げ。
85	A区 H-31	床面	灰釉陶 瓶	15.4	7.5	5.1	口縁～底部 2/3	良好	灰褐色	断面:灰褐色	内:口縁部切削痕。高台付。 内:口縁～全体施釉。大差段階。
86	A区 H-31	床面	灰釉陶 瓶	10.4	6.1	4.1	口縁～底部 3/4	良好	褐色	長石 石英 赤色粒 白色粒	クロコ形(左)、焼化粧燒成。
87	A区 H-31	床面	灰釉陶 瓶	14.0	5.6	5.8	ほぼ完形	やや良好	灰褐色	石英 津波粒	クロコ形(左)、焼化粧燒成。 底面部切削痕。高台付。
88	A区 H-31	カマド	灰釉陶 瓶	(13.2)	7.0	5.6	口縁～底部 2/3	やや良好	灰褐色	長石 石英 角閃石 赤色粒 白色粒	クロコ形(左)、焼化粧燒成。 底面部切削痕。
89	A区 H-31	床面	土器	長4.6	径2.2	孔径0.5	完形	良好	浅黃褐色	砂粒	ナデ。
90	A区 H-32	H-20 壁上	土器罐 环	(12.2)	—	2.5	口縁～底部 1/6	良好	褐色	石英	外:摩滅。 内:ナデ。
91	A区 H-33	H-27 壁上	灰釉陶 环	—	(8.5)	(3.7)	体～底部 1/2	やや良好	淡黃褐色	長石	クロコ形(右)、焼化粧燒成。 底面部切削痕。摩滅不明瞭。
92	A区 H-33	掘り方	土器罐 环	(12.8)	(8.5)	3.5	口縁～底部 1/4	良好	褐色	長石 石英 角閃石	外:口縁部ヨコナヂ。体部ケズリ。底部ケズリ。 内:ナデ。
93	A区 H-33	D-2	土器罐 环	(16.6)	(7.8)	4.0	口縁～底部 1/4	良好	褐色	長石 石英	クロコ形(左)、焼化粧燒成。 底面部切削痕。高台付。外側に漆付有。
94	A区 H-38	壁上	灰釉陶 瓶	13.7	6.2	5.2	完形	やや良好	浅黃褐色	長石 石英 小謹	クロコ形(左)、焼化粧燒成。 底面部切削痕。高台付。外側に漆付有。
95	A区 H-38	壁上	灰釉陶 瓶	19.0	—	(6.0)	口縁～底部 4/5	やや良好	黄褐色	長石 石英 赤色粒 砂粒	クロコ形。熊袋地成味。 底面部切削痕。高台付。内側に軋み有。
96	A区 H-38	壁上	土器罐 环	(12.6)	(7.7)	3.5	口縁～底部 1/2	良好	明赤褐色	長石 石英	外:口縁部ヨコナヂ。体～底部ケズリ後ナデ。 底面部切削痕。
97	A区 T-1	底面	土器罐 环	12.6	—	3.8	口縁～底部 3/4	良好	褐色	長石 角閃石	外:口縁部ヨコナヂ。体部指痕压痕。ナデ。底部ケズリ。 内:ナデ。指痕压痕。
98	A区 T-2	底面	灰釉陶 环	13.3	(8.0)	4.2	口縁～底部 1/3	良好	灰褐色	赤色粒 白色粒	クロコ形(右)。 底面部切削痕。
99	A区 I-3	壁上	灰釉陶 瓶	15.0	7.5	4.8	完形	良好	灰褐色	断面:灰褐色	外:口縁～全体施釉剥げ。内:口縁～全体施釉。底面部剥離。
100	A区 I-4	壁上	円筒罐 环	—	最大径 (18.0)	(12.7)	破片	良好	褐色	長石 石英 赤色粒	明瞭な横筋。 外:突起2段。ハケ付。円筒形孔か。 内:ナデ。ハケ付。
101	A区 W-1	壁上	灰釉陶 瓶	(14.2)	6.8	4.3	口縁～底部 2/3	良好	オーバーブ 回色	断面:灰白	外:口縁～全体施釉。半施釉剥げ。 内:口縁～全体施釉。大差段階。
102	A区W- 12-13	壁上	灰釉陶 环	9.3	6.1	3.1	口縁～底部 3/4	やや良好	浅黃褐色	細砂粒	クロコ形(右)、焼化粧燒成。 底面部切削痕。
103	A区 W-15	壁上	灰釉陶 耳皿	長(6.9)	幅(7.6)	2.6	口縁～底部 1/2	良好	オーバーブ 回色	断面:灰白色	クロコ形。底部切削痕。 外:口縁部自然剥離。 内:見えぬ施釉。
104	A区 X-1	壁上	灰釉陶 器蓋	13.9	7.6	2.7	口縁～底部 3/4	良好	オーバーブ 回色	断面:灰白色	底部切削痕。 外:施釉剥げ。縫合部。 内:口縁部施釉。底面部剥離。
105	B区 W-4	壁上	土器罐 环	(13.9)	9.4	4.1	口縁～底部 1/2	良好	褐色	長石 石英 細砂粒	外:口縁部ヨコナヂ。体部ナデ。底部ケズリ。 内:ナデ。放射状裂紋。
106	B区 W-4	壁上	土器罐 环	12.0	7.9	3.6	口縁～底部 1/2	良好	にじむ白褐色	長石 石英 白色粒	外:口縁部ヨコナヂ。体部ナデ。底部ケズリ。 内:ナデ。
107	遺構外	A区 H-10	石器	長:2.2	幅:1.2	厚:0.4	完存	—	—	石材:チャート 重量:0.63g	断面形を呈し、基部を山形状に大きく抉る無茎石器。 連續する細かな押圧痕が基部中央にあり、左右対称で2つが一定した隠れな山形。
108	遺構外	A区 H-9	石器	長:4.3	幅:2.6	厚:0.5	完存	—	—	石材:黑色安山岩 重量:3.2g	典型的な無茎石器。断面をレンズ状に薄く仕上げ。両端の上方には斜面機械を意識したと思われる突起が伴う。
109	遺構外	A区 H-8	打制石斧	長:7.7	幅:3.8	厚:1.2	下平頂	—	—	石材:黑色頁岩 重量:41.42g	断面が自然面を多く残し、側面は横方向からの鋸歯によって薄く仕上げる。側面の凹凸性もあり得る。
110	遺構外	A区 X-4	刮削器	長:11.4	幅:8.1	厚:2.3	完存	—	—	石材:黑色頁岩 重量:214.57g	断面が自然面を薄く2分割する。鋸歯的な周辺部分に断面の双方から削離を施して刃部とする。
111	遺構外	A区 H-11	石器	長:11.8	幅:8.6	厚:3.15	完存	—	—	石材:砂質頁岩 重量:526.25g	断面が自然面の表面面に凹を残す。鋸歯の一部に敲打痕あり。
112	B区 W-5	壁上	骨質 器	長:6.2	幅:1.6	厚:0.8	破片	—	—	重量:6.0g	ウマガ。 開示なし。写真のみ掲載。



第6図 A区分潮図1

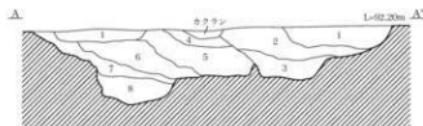


第7図 A区分割図2



第8図 A区分割図3

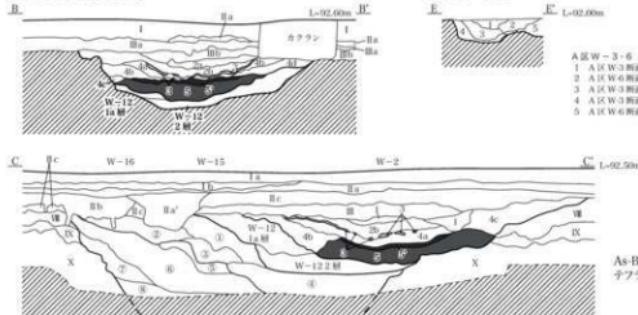
### A区 W-1



#### A区 W-1

- 1 黒褐色 (7.5YR3/2) しまり・粘性や中層。
- 2 にじく黄褐色 (10YR5/4) 砂質シルト。Ae非常に砂粗がラミナ状に複数。しまりや中層。粘性や中層。
- 3 にじく黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト。Ae・砂質シルトがラミナ状に複数。しまりや中層。粘性や中層。
- 4 にじく黄褐色 (10YR4/4) 黏土とシルトがラミナ状に複数。しまりや中層。粘性や中層。
- 5 にじく黄褐色 (10YR4/4) 黏土とシルトがラミナ状に複数。しまりや中層。粘性や中層。
- 6 にじく黄褐色 (10YR4/4) 黏土とシルトがラミナ状に複数。しまりや中層。粘性や中層。
- 7 にじく黄褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。砂とシルトがラミナ状に複数。しまりや中層。粘性や中層。
- 8 桃色 (10YR4/1) 砂粗。しまりや中層。

### A区 W-2-12-15-16



#### A区断面B・C

- 1a 桃色 (10YR4/1) 過去の堆積。
- 1b 黄褐色 (10YR5/1) Aeを多く含む。現代の堆積。
- 2a 黄褐色 (10YR5/1) しまりや中層。粘性や中層。過度の堆積。
- 2b 黄褐色 (10YR5/1) 黏土シルト。
- 3 黄褐色 (10YR6/1) 過度の堆積。
- 4 黄褐色 (10YR6/2) Aeを多く含む。全体的に細粒化。
- 5 黄褐色 (10YR3/1) Aeを多く含む。細粒化している部分。
- 6 黄褐色 (10YR4/1) Aeを多く含む。

#### A区 W-2

- 1 黄褐色 (10YR5/1) Aeを少し含む。
- 2d 初期灰褐色 (5YR4/1) Aeを多く含む。じわり・粘性。
- 2b 黄褐色 (10YR6/1) Aeをやや多く含む。細化している部分あり。しまり・粘性や中層。
- 3a As-Kk
- 4a 黄褐色 (10YR4/1) Aeを少し含む。じわり・粘性や中層。
- 4b 黄褐色 (10YR2/2) Aeを少し含む。白色粗がラミナ状で複数あり。しまりや中層。粘性弱。
- 4c 黄褐色 (10YR3/1) Aeを少し含む。白粗がやや多く。じわり・粘性や中層。
- 4d 黄褐色 (10YR6/2) Aeを多く含む。じわりや中層。粘性弱。
- 5 細粒粉粒状火成岩 一塊塊。IVV粗粒。
- 5a Ae-B

### A区 W-4



#### A区 W-4

- 1 黄褐色 (10YR8/1) 砂。しまり・粘性弱。
- 2 黄褐色 (10YR3/1) 砂。Aeを多く含む。じわり・粘性。
- 3 黄褐色 (10YR7/3) 砂質シルト。Aeを多く含む。じわり・粘性や中層。
- 4 黄褐色 (10YR3/4) 砂質シルト。Aeを多く含む。じわり・粘性。
- 5 黄褐色 (10YR3/3) 砂質シルト。Aeを多く含む。じわり・粘性や中層。

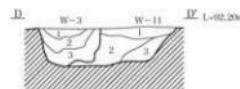
### A区 W-6



#### A区 W-6

- 1 黄褐色 (2.5YR5/1) シルトへ砂質シルト。灰暗色シルトブロックを少量含む。
- 2 初期灰褐色 (10YR3/3) シルト。しまりや中層。粘性や中層。
- 3 黄褐色 (10YR7/3) 砂質シルト。灰暗色シルトブロックを少量含む。しまりや中層。粘性や中層。
- 4 黄褐色 (10YR3/4) 砂質シルト。Aeを多く含む。ラミナ状に複数。しまりや中層。粘性や中層。
- 5 黄褐色 (10YR3/3) 砂質シルト。Aeを多く含む。しまりや中層。粘性や中層。

### A区 W-3-11



#### A区 W-3

- 1 黄白色 (10YR8/1) シルトへ砂質シルト。砂を多量含む。しまり弱。粘性弱。
- 2 黄褐色 (2.5YR6/2) 白灰色色土ブロックを多少含む。砂質・砂質シルトを少量含む。しまりや中層。粘性や中層。
- 3 にじく黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルト。砂質シルトを少量含む。ラミナ状に複数。しまりや中層。粘性や中層。

#### A区 W-11

- 1 黑褐色 (10YR3/2) 白灰色土を少量含む。じわりや中層。
- 2 灰褐色 (10YR2/3) 砂質・砂質シルトを少量含む。しまりや中層。粘性や中層。
- 3 黑褐色 (10YR4/2) 白灰色土を微量含む。しまりや中層。粘性や中層。

### A区 W-3-6



#### A区 W-3-6

- 1 A区 W-3断面D. 1層上部。
- 2 A区 W-3断面D. 2層上部。
- 3 A区 W-3断面D. 2層上部。
- 4 A区 W-3断面D. 3層上部。
- 5 A区 W-6断面H. 2層上部。

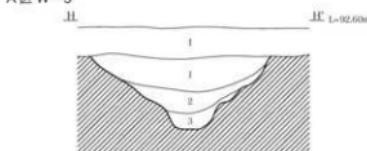
#### A区 W-12

- 1a 灰褐色 O-Pの「la層」と同。
- 2 灰褐色 O-Pの「la層」と同。

#### A区 W-15-16

- ① 黑褐色 (10YR3/1) 白灰色土を微量含む。しまり・粘性や中層。W-15の層上。白灰色土を微量含む。しまり・粘性や中層。W-15の層上。
- ② 黑褐色 (10YR3/1) 白灰色土を微量含む。しまり・粘性や中層。W-15の層上。白灰色土を微量含む。しまり・粘性や中層。W-15の層上。
- ③ 黑褐色 (10YR3/1) 白灰色土を微量含む。しまり・粘性や中層。W-15の層上。
- ④ 黑褐色 (10YR6/1) 白灰色土を微量含む。しまり・粘性や中層。W-16の層上。
- ⑤ 黑褐色 (10YR8/1) 浅灰色土をやや多量含む。しまり・粘性や中層。W-16の層上。
- ⑥ 黑褐色 (10YR3/1) 白灰色土を微量含む。しまり・粘性や中層。W-16の層上。
- ⑦ 黑褐色 (10YR6/1) 小礫を少量含む。しまり・粘性や中層。W-16の層上。

### A区 W-5

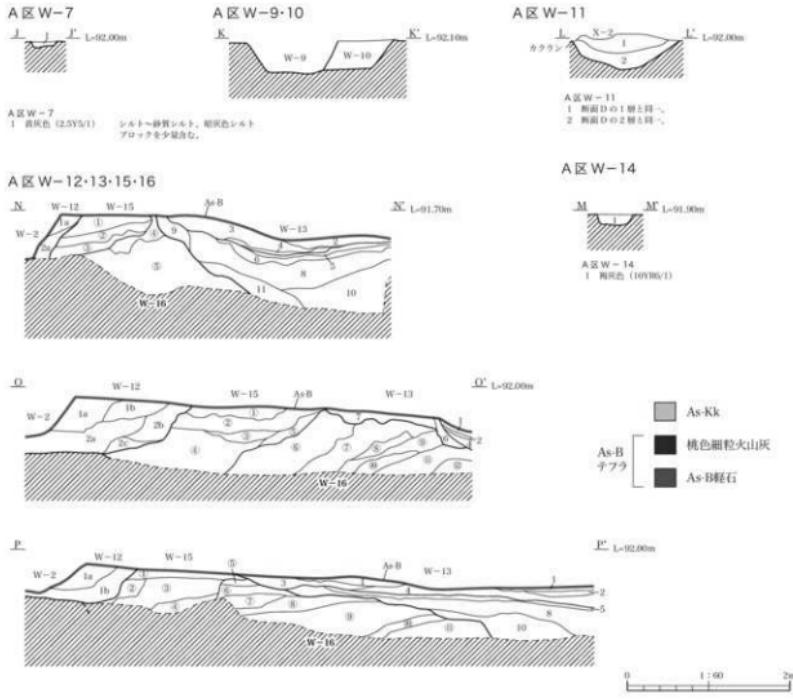


#### A区 W-5

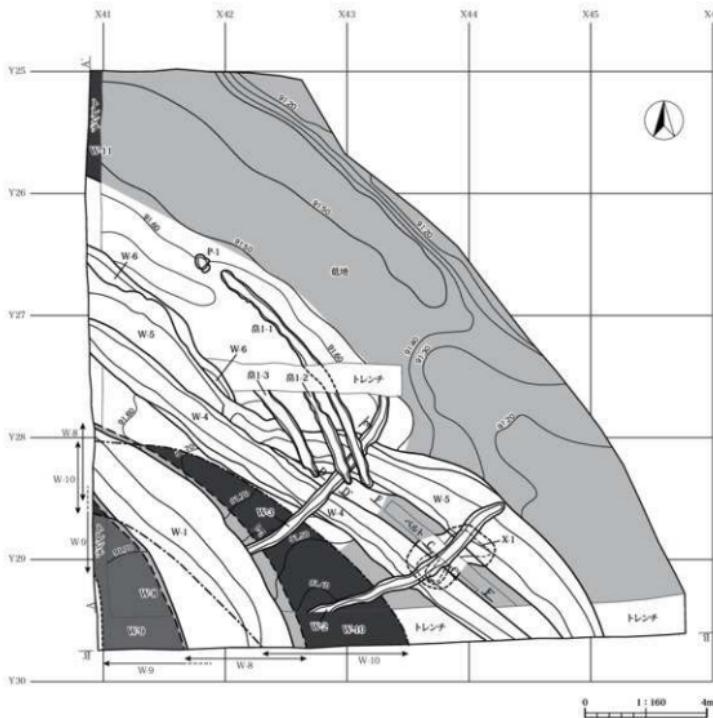
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 深褐色土ブロックを微量。灰白色土ラミナ状に含む。
- 2 桃色 (10YR3/1) 白色・灰白色シルトがラミナ状に複数。深褐色を含む。
- 3 黄褐色 (10YR8/1) 白色・灰白色シルト。灰白色土ラミナ状に複数。

0 1:60 2m

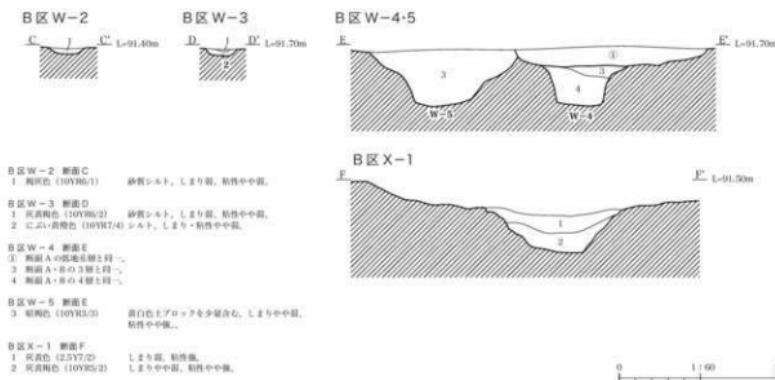
第9図 A区 W-1~6・11・12・15・16号調跡断面図



第10図 A区 W=7:9≈16号灌漑断面図

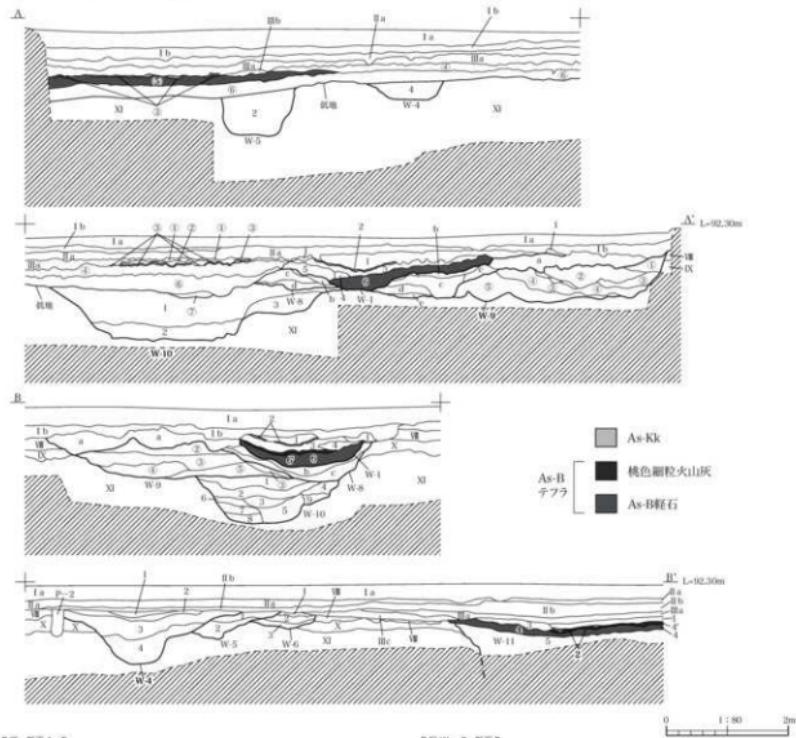


第11図 B区分割図1



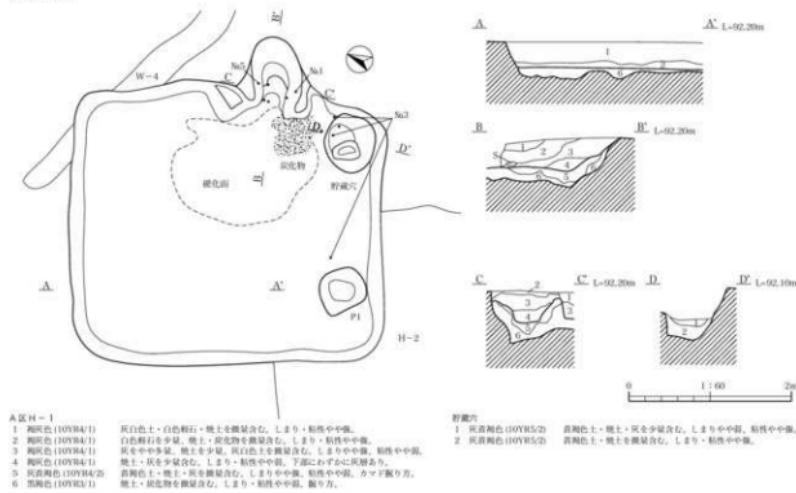
第12図 B区W-2~5号調跡、X-1号性格不明遺構断面図

B区W-1·4~6·8~11·低地

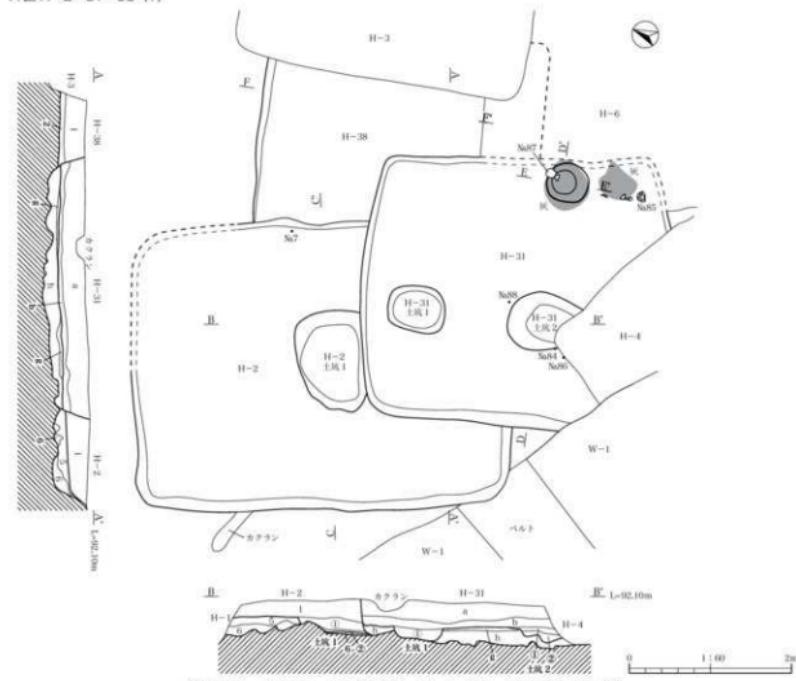


第13図 B区W=1・4~6・8~11号溝跡、低地断面図

A区 H-1

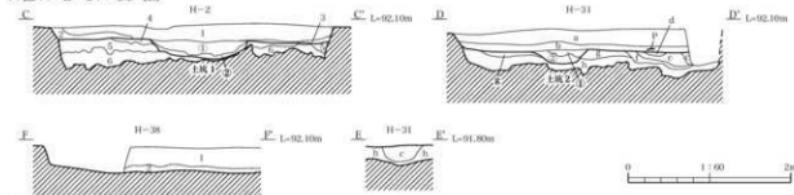


A区 H-2・31・38 (1)



第14図 A区 H-1号住居跡、H-2・31・38号住居跡(1)

A区 H-2・31・38 (2)



A區 H-2

- 1 黄褐色(10YR4/2)
- 2 黄褐色(10YR4/1)
- 3 黄褐色(10YR4/1)
- 4 黄褐色(10YR4/1)
- 5 黑褐色(10YR4/1)
- 6 黄褐色(10YR4/1)

A區 H-2 土机 1

- (1) 黑褐色(10YR4/2)
- 地上、灰を微量含む。しまり・粘性や中弱。
- (2) 黑褐色(10YR4/1)
- 黒土。黑色土少量含む。

A區 H-38

- 1 黄褐色(10YR4/2)
  - 2 黄褐色(10YR4/1)
- 白色粘土・板状・微量含む。しまり・中弱・粘性や中弱。

A區 H-31

- 1 黄褐色(10YR4/2)
  - 2 黄褐色(10YR4/1)
- 白色粘土・板状・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性や中弱。

A區 H-31

- a 黄褐色砂(10YR4/2)
  - b 白色粘土(10YR4/1)
  - c 黑褐色(10YR4/2)
  - d 白色粘土(10YR4/2)
  - e 黄褐色砂(10YR4/2)
  - f 黄褐色砂(10YR4/2)
  - g 黄褐色砂(10YR4/2)
  - h 黄褐色(10YR4/1)
- 白色粘石・板状・灰を微量含む。しまり・粘性や中弱。
- 白色粘土・灰土・灰を微量含む。しまり・粘性・カマド裂り方。
- 白色粘土・灰土・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性弱。
- 白色粘土・灰土・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性弱。
- 白色粘土・灰土・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性弱。
- 白色粘土・灰土・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性弱。
- 白色粘土・灰土・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性弱。

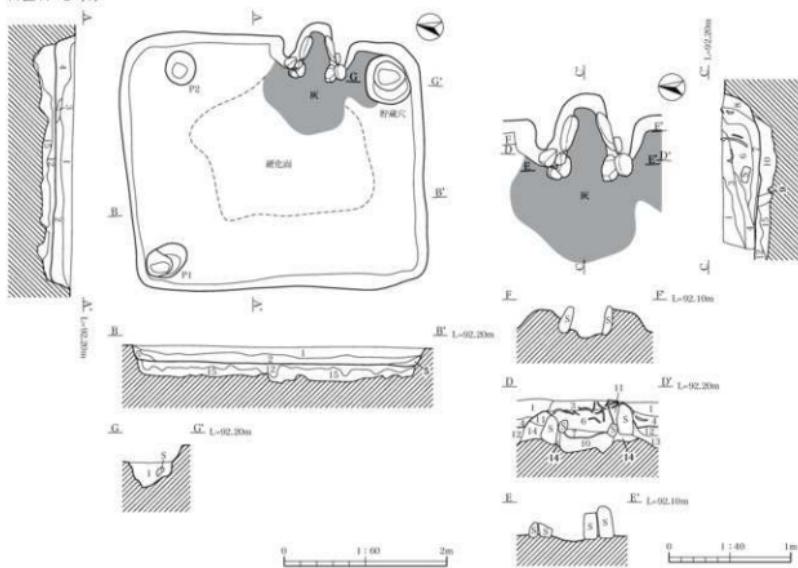
A區 H-31 土机 1

- (1) 黄褐色(10YR4/1)
- 白色粘石・板状・灰を微量含む。しまり・粘性や中弱。

A區 H-31 土机 2

- (1) 黄褐色砂(10YR4/2)
  - (2) 黄褐色砂(10YR4/2)
- 白色粘石・灰土を微量含む。しまり・粘性や中弱。
- 灰を微量含む。しまり・粘性弱。

A区 H-3 (1)



A區 H-3

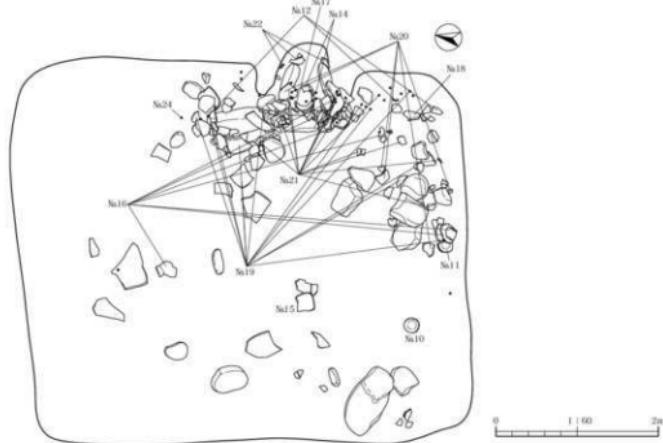
- 1 黄褐色(7.5YR2/3)
  - 2 黑褐色(7.5YR3/2)
  - 3 黄褐色(7.5YR3/2)
  - 4 黑褐色(7.5YR3/2)
  - 5 黄褐色(7.5YR3/2)
  - 6 黄褐色(10YR5/2)
  - 7 黄褐色(10YR5/2)
  - 8 黄褐色(10YR5/2)
  - 9 黑褐色(10YR5/2)
  - 10 黄褐色(10YR4/2)
- 白色粘石少量含む。しまりや中強。粘性や中弱。
- 白色粘石を微量含む。地主・灰を微量少量含む。しまりや中弱。
- 地主・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性や中弱。
- 地主・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性や中弱。
- 地主・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性や中弱。
- 白色粘石・灰土を微量含む。しまり・中弱。
- 白色粘石・灰土を微量含む。しまり・中弱。
- 白色粘石・灰土を微量含む。しまり・中弱。
- 地主・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性や中弱。
- 黄褐色砂。地主・灰を微量含む。しまりや中強。粘性や中弱。

- 11 黄褐色砂(10YR5/2)
  - 12 黑褐色(10YR4/1)
  - 13 黄褐色(10YR5/2)
  - 14 黑褐色(10YR5/2)
  - 15 黄褐色(10YR4/1)
- 地主・灰を微量含む。しまりや中強。粘性や中弱。
- 黄褐色砂を少量。白色粘石を微量含む。しまりや中強。粘性や中弱。
- 地主・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性や中弱。
- 地主・灰を微量含む。しまり・中弱・粘性や中弱。
- 地主・灰を微量含む。しまりや中強。粘性弱。

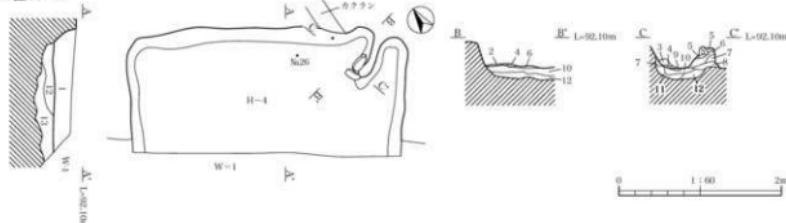
- 野嘴穴  
1 黄褐色(10YR3/1)
- 地主・灰を微量含む。しまり弱。粘性や中弱。

第15図 A区 H-2・31・38号住居跡 (2)、H-3号住居跡 (1)

A区 H-3 (2)



A区 H-4

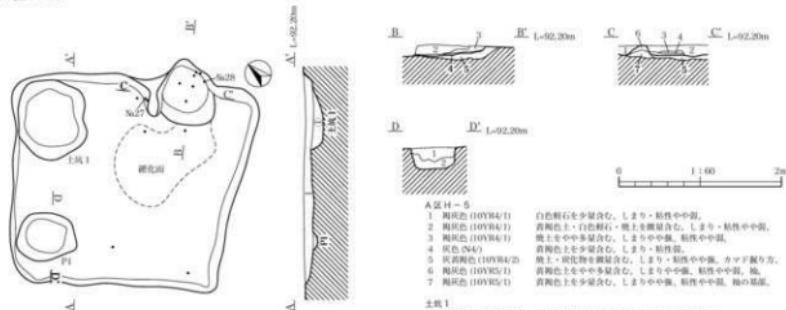


A区 H-4

- 1 白色軽石 (10YR4/1)
  - 2 黄白色 (10YR4/2)
  - 3 穗白色 (5YR6/8)
  - 4 死ぬ (N4)
  - 5 黄褐色 (10YR3/3)
  - 6 黄褐色 (10YR3/2)
  - 7 黑褐色 (10YR3/3)
  - 8 黑褐色 (10YR3/2)
- 白色軽石・地土を微混含む。しまり、粘性や中弱。
- 褐色土上を多量含む。しまり、粘性や中強。
- 穂白色・地土を多量含む。しまりやや強く、粘性やや弱。
- 死ぬ (N4)。
- 黄褐色土を多量含む。しまりやや強、粘性弱。
- 黄褐色土を多量含む。しまりやや強、粘性弱。
- 黑褐色土を多量含む。しまりやや強、粘性や中弱。
- 黑褐色土を微混含む。しまりやや強、粘性や中弱。

- 9 穗白色 (5YR6/8)
  - 10 海底色 (10YR4/1)
  - 11 こいの白褐色 (10YR7/3)
  - 12 黑褐色 (10YR4/1)
  - 13 海底色 (10YR4/1)
- 地土・海底色土を微量含む。しまりやや弱く、粘性弱。
- 地土・海底色土を微量含む。しまりやや強く、粘性や中弱。
- 地土を多量含む。しまりやや強、粘性や中強。
- 地土・硫化物を微量含む。しまりやや強、粘性や中弱。
- しまり、粘性や中弱。

A区 H-5



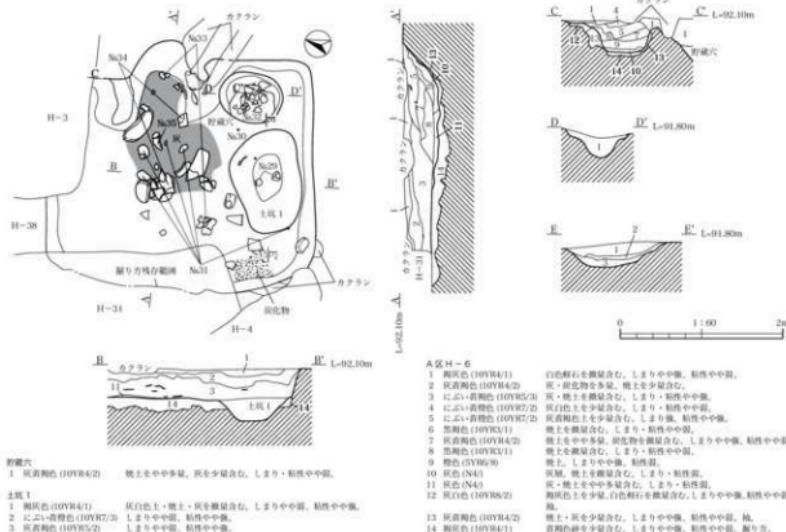
- 1 黄褐色 (10YR4/1)
  - 2 黄褐色 (10YR4/2)
  - 3 穗白色 (10YR6/7)
  - 4 黑褐色 (N4)
  - 5 黄褐色 (10YR4/2)
  - 6 黑褐色 (10YR3/1)
  - 7 黑褐色 (10YR3/1)
- 白色軽石を少量含む。しまり、粘性や中弱。
- 黄褐色土・白色軽石・地土を微量含む。しまり、粘性や中弱。
- 穂白色土を多量含む。しまりやや中強、粘性や中弱。
- 地土を多量含む。しまりやや強、粘性弱。
- 黄褐色土を多量含む。しまりやや強、粘性や中強。
- 地土を多量含む。しまりやや強、粘性や中強。
- 地土を少量含む。しまりやや強、粘性や中弱。

- 土壤 I  
 ① 黄褐色 (10YR4/2) 黑色土・地土を微量含む。しまり、粘性や中弱。

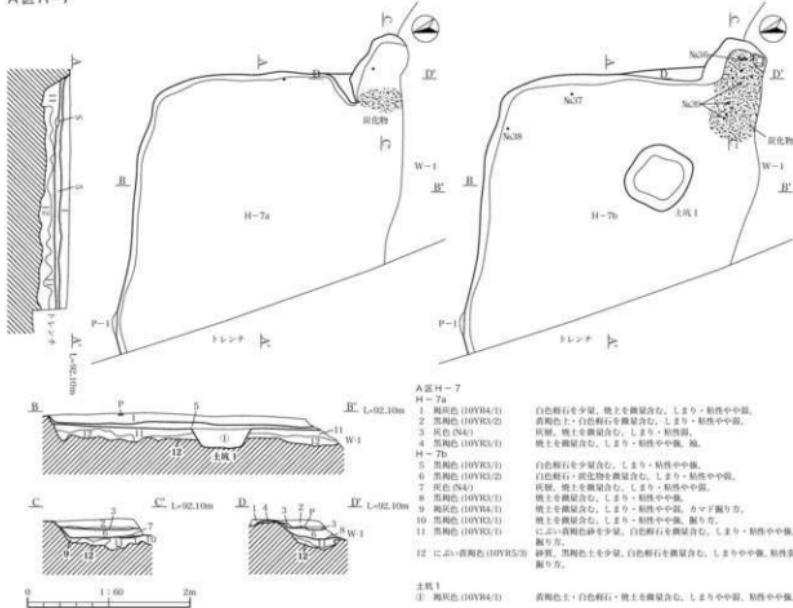
- P1  
 1 黄褐色地土上 (10YR4/2) 白色軽石・地土を微量含む。しまり、粘性や中弱。
- 2 黑色地土上 (10YR3/1) 黄褐色地土を微量含む。しまり、粘性や中弱。

第16図 A区 H-3号住居跡(2)、H-4号住居跡、H-5号住居跡

A区H-6

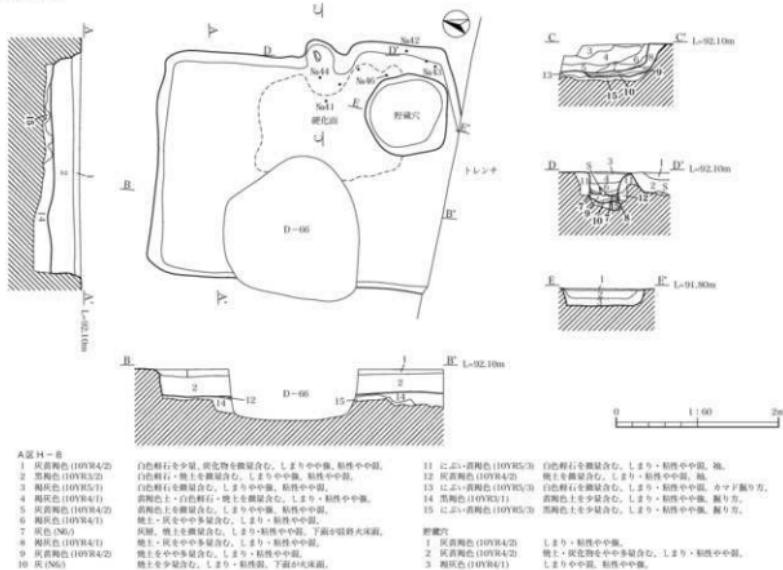


A区 H=7

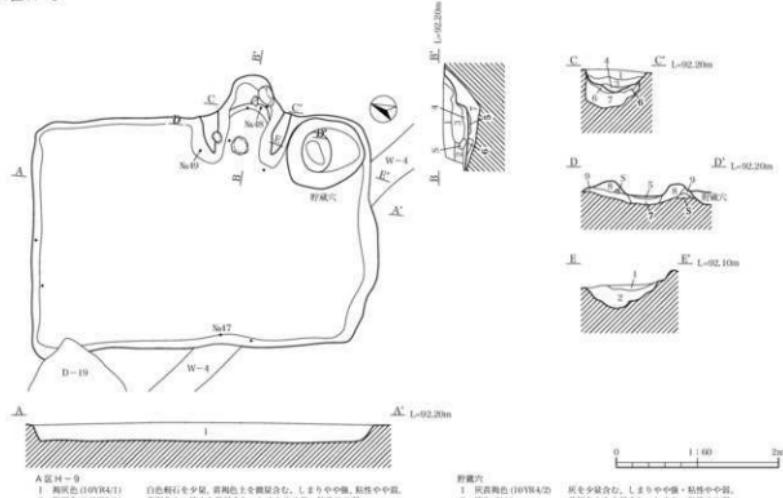


第17図 A区H-6号住居跡、H-7号住居跡

A区H-8

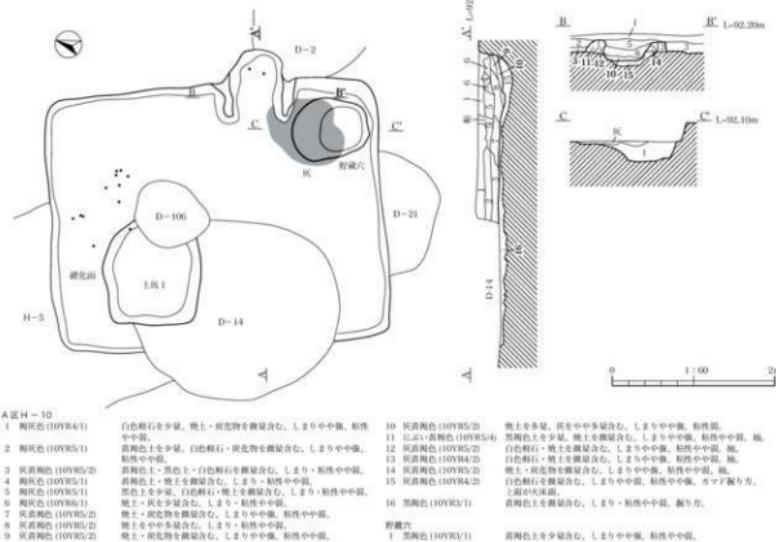


A区H-9

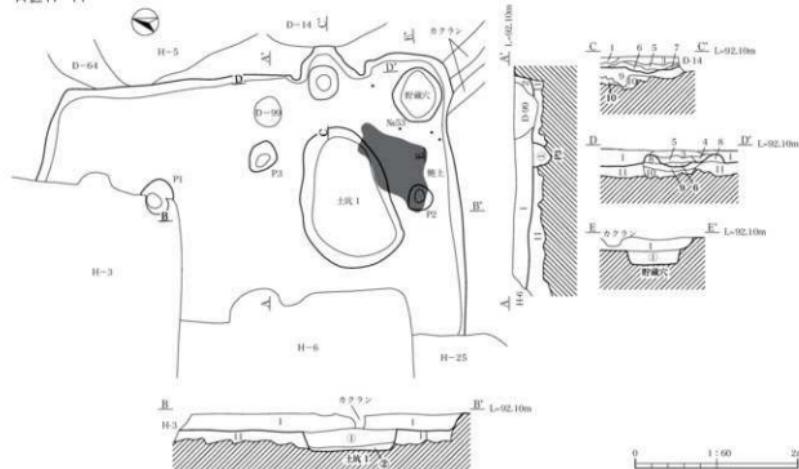


第18圖 A區H=8号住居跡 H=9号住居跡

A区 H-10



A区 H-11

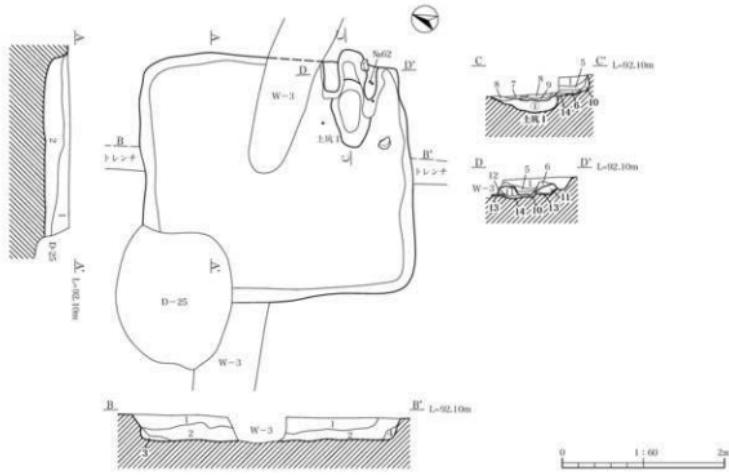


A区 H-11

- 1 黑陶色 (10YR4/1) 白色鮮石を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
- 2 黑陶色 (10YR5/2) しまりや中層、粘性や中层。
- 3 黄褐色土 (10YR4/1) 白色鮮石・灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
- 4 黄褐色土 (10YR4/1) 灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
- 5 黄褐色土 (10YR4/1) 地上、灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
- 6 黄褐色土 (10YR4/1) 灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
- 7 黄褐色土 (10YR4/1) 灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
- 8 黄褐色土 (10YR4/1) 灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
- 9 黄褐色土 (10YR4/1) 灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
- 10 黑陶色 (10YR5/2) 灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
- 11 黑陶色 (10YR4/1) 黑陶色を少含む。白色鮮石を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
- Legend:**
- ① 黑陶色 (10YR4/2)
  - ② 黑陶色 (10YR4/1)
  - ③ 黄褐色土を少含む。白色鮮石を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
  - ④ 黑陶色を少含む。白色鮮石を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
  - ⑤ 黄褐色土を少含む。白色鮮石・灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
  - ⑥ 黄褐色土を少含む。白色鮮石・灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
  - ⑦ 黄褐色土を少含む。白色鮮石・灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
  - ⑧ 黄褐色土を少含む。白色鮮石・灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
  - ⑨ 黄褐色土を少含む。白色鮮石・灰化物を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
  - ⑩ 黑陶色 (10YR4/2) 黑陶色を少含む。白色鮮石を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。
  - ⑪ 黑陶色 (10YR4/1) 黑陶色を少含む。白色鮮石を微量含む。しまりや中層、粘性や中层。

第19図 A区 H-10号住居跡、H-11号住居跡

A区H-13



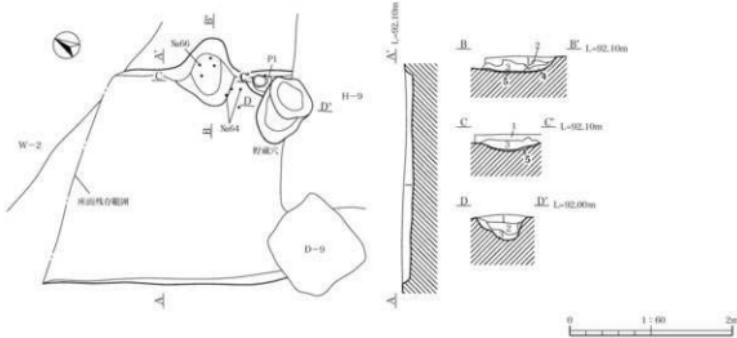
A款H-13

- 1 鹿角(10YR3/3)  
2 鹿角(10YR3/2)  
3 鹿角(10YR3/1)  
4 云に鹿角(10YR5/6-4)  
5 云に鹿角(10YR5/6-4)  
6 鹿角(10YR3/2)  
7 鹿角(10YR4/1)  
8 云に鹿角(10YR5/5)  
9 鹿角(10YR4/1)

白鶴石。地白。植物化すやや多含む。  
白鶴石を含む。植物化すやや多含む。  
しまりや中細、粒状。  
白鶴石を含む。しまりや中細、粒状中細。  
白鶴石を含む。しまりや中細、粒状中細。  
地化度より上。白鶴石を含む。しまりや中細。  
白鶴石を含む。しまりや中細。  
白鶴石を含む。しまりや中細。  
白鶴石を含む。しまりや中細。

- |                      |  |
|----------------------|--|
| 10 黒開セ (10YR2/2)     | 黄褐色調離合む。カマド耐り方。                          |
| 11 にふ・黒開セ (7.5YR6/3) | 黒褐色上プロック・泥化物・白色和筋、斑点を少量含む。しまりや中弱、堅柔性強。   |
| 12 黒開セ (10YR4/2)     | 黒褐色上プロック・泥化物・白和筋。地土を離合含む。強。              |
| 13 黒開セ (10YR4/1)     | 黒褐色上土紹合含む。カマド耐り方。                        |
| 14 黒開セ (10YR3/1)     | 黒褐色上ロッキ含む。泥化物を離合含む。しまりや中弱、堅柔性や中弱、カマド耐り方。 |

A区H-16



A3H-16

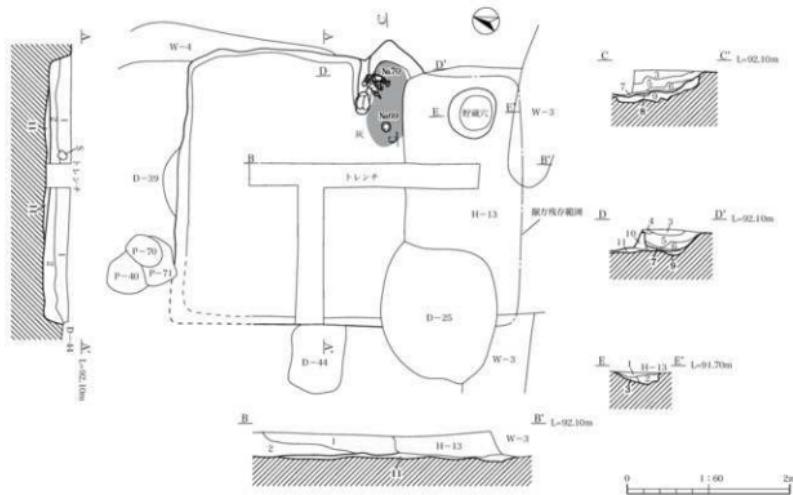
- |                   |                                |
|-------------------|--------------------------------|
| 1 黄褐色 (10YH4/3)   | 白灰色花被片少星。蒴果花被合瓣。しまりや中弱。粘性や中弱。  |
| 2 黄褐色 (10YH4/2)   | 地上部少星合瓣。しまり・粘性や中弱。             |
| 3 黄褐色 (10YH5/2)   | 茎頂開花部を少星合瓣。しまり・粘性や中弱。          |
| 4 黑褐色 (10YK3/1)   | 地上部全被合瓣。しまり・粘性や中弱。             |
| 5 暗紫褐色 (10BYH4/2) | 葉上・枝上全被合瓣。しまりや中弱。粘性や中弱。カマド振り方。 |

- 九四

- 1 茶灰色 (10V84/1)  
2 茶灰色 (10YR5/1)  
3 黑褐色 (10N8P3/1)

第20図 A区 H-13号住居跡、H-16号住居跡

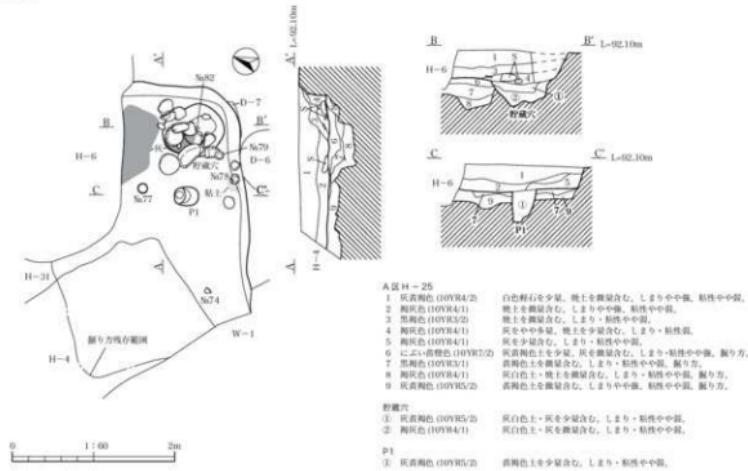
A区H-17



A区H-17

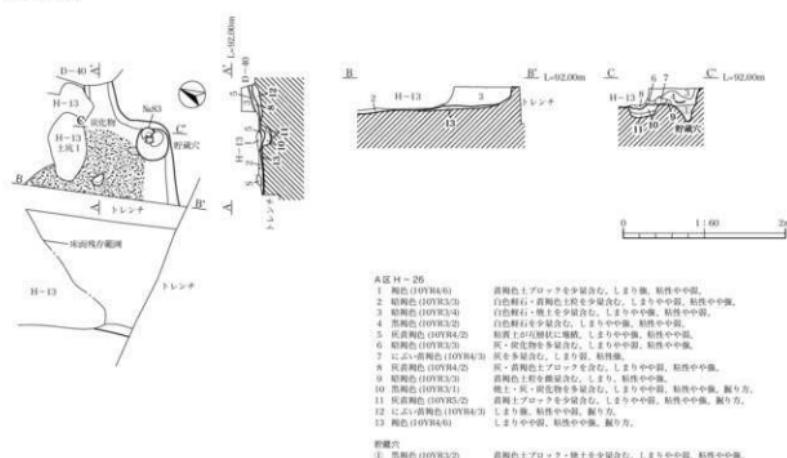
- |                   |                               |                     |                                 |
|-------------------|-------------------------------|---------------------|---------------------------------|
| 1 黒面石(3)YRV2(2)   | 白珊瑚・桃色を含む。しまりや中間、粗粒や中。        | 10 黒面石(10)YRV3(3)   | 青面石・桃・土色を少混合。しまりや中間。粗粒や中。       |
| 2 黒面石(3)YRV2(2)   | 白珊瑚・桃・地に褐色化物を混在。しまりや中間、粗粒や中。  | 11 黑面石(10)YRV4(2)   | 黑粗面石・ブロッケ・白色珊瑚を多混合。しまりや中間。粗粒や中。 |
| 3 黄面石(10)YRV2(2)  | 白珊瑚・桃色を含む。しまりや中間、粗粒や中。        |                     |                                 |
| 4 黄面石(10)YRV2(2)  | 白珊瑚・桃色を含む。                    |                     |                                 |
| 5 黄面石(10)YRV2(2)  | 白珊瑚・桃色を含む。                    |                     |                                 |
| 6 黄面石(10)YRV2(2)  | 地に・褐色物を多く含む。しまりや中間、粗粒や中。      | 約6穴                 |                                 |
| 7 黄面石(10)YRV2(2)  | 黄・オフ・桃・土色を少し含む。しまりや中間。        | 1 黄面石(10)YRV4(2)    | 白色珊瑚・桃色を少混合。                    |
| 8 黄面石(10)YRV2(1)  | アメジスト・桃色を少含む。しまりや中間。          | 2 黄面石(10)YRV3(2)    | 白色珊瑚・桃色を少混合。                    |
| 9 黄面石(10)YRV4(1)  | アメジスト・桃色を少含む。しまりや中間。          | 3 に近い黄面石(10)YRV4(3) | 白色珊瑚・桃色を少混合。                    |
| 10 黄面石(10)YRV4(1) | 高品質アメジスト・桃色・白珊瑚・桃色を少混合。カット強め。 |                     |                                 |

A区 H-25

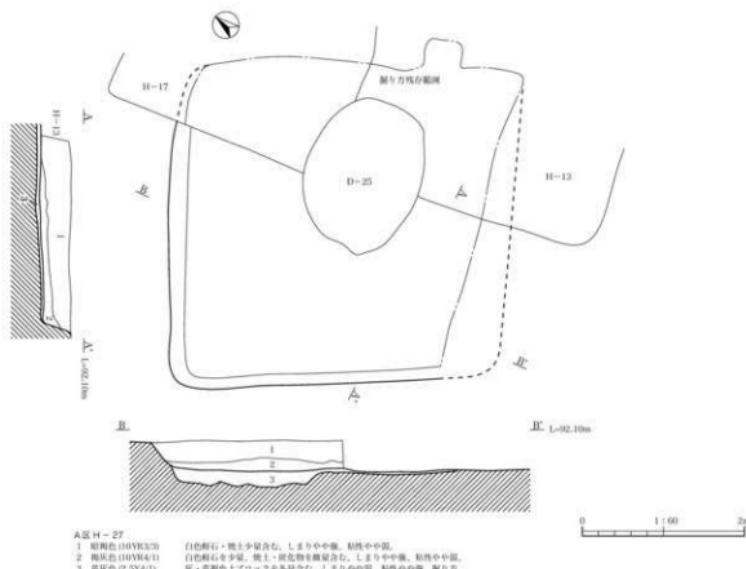


第21図 A区H-17号住居跡、H-25号住居跡

A区H-26

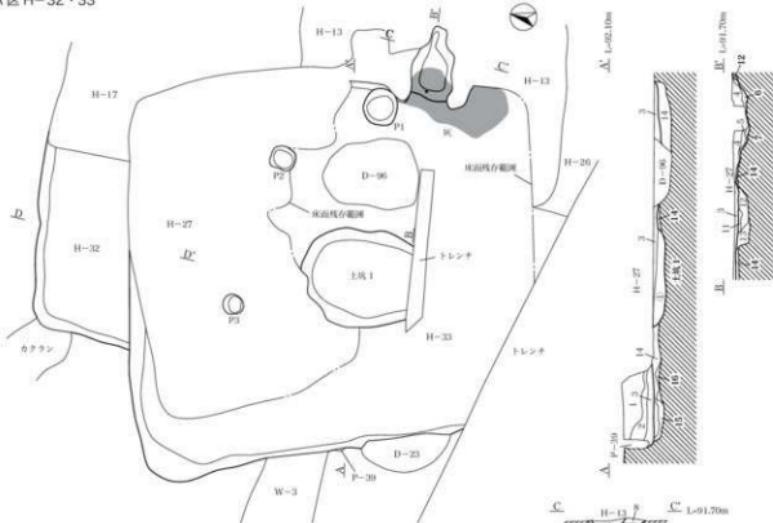


A区H-27



第22図 A区 H=26号住居跡、H=27号住居跡

A区 H-32・33



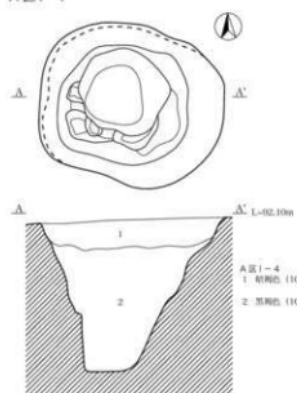
A區 H-33

- 1 白色鮮石 (10YR4/1) 白色鮮石を少量。桃土・炭化物を微量含む。しまりや中粗。粘性やや弱。
- 2 青褐色 (2.5Y4/1) 桃土・青褐色上ブロックを多量含む。しまりや中弱。粘性やや強。
- 3 黑褐色 (10YR3/1) 白色鮮石・桃土・炭化物を微量含む。しまりや中粗。粘性やや弱。
- 4 黑褐色 (10YR3/1) 地上・灰を含む。しまりや中粗。粘性やや強。
- 5 にじみ青褐色 (10YR4/2) 黑褐色上ブロックを少量。桃土・炭化物を微量含む。しまりや中弱。粘性やや強。
- 6 朝青色 (10YR4/3) 桃土上ブロックを少量。灰・炭化物を少量。白色鮮石微量含む。しまりや中粗。粘性やや強。
- 7 黑褐色 (10YR2/2) 白色鮮石微量含む。白色鮮石を微量含む。しまり弱。粘性弱。
- 8 にじみ青褐色 (10YR4/2) 白色鮮石・桃土・炭化物を微量含む。しまりやや強。粘性やや弱。地。
- 9 にじみ青褐色 (10YR4/3) 黑褐色上ブロックを多量含む。地。
- 10 灰褐色 (10YR4/2) 白色鮮石・桃土・灰を少量含む。しまり、粘性やや強。地。
- 11 黑褐色 (10YR4/2) 白色鮮石・桃土・炭化物を微量含む。しまり弱。粘性やや強。
- 12 朝青色 (10YR4/2) 地上ブロックを多量。白色鮮石・桃土色上部を少量含む。しまり、粘性やや中粗。輪切り方。
- 13 灰褐色 (10YR4/2) 白色鮮石・青褐色上部を少量含む。しまり、粘性やや強。輪切り方。
- 14 にじみ青褐色 (10YR4/2) 地上部を少量。青褐色上部を微量含む。しまり弱。輪切り方。
- 15 黑褐色 (10YR3/1) 黑褐色上ブロックを多量含む。輪切り方。
- 16 黑褐色 (10YR3/1) 黑褐色上ブロックを多量含む。輪切り方。

A區 H-32

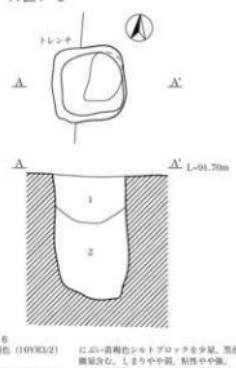
- a 黑褐色 (7.5YR2/2) 白色鮮石・桃土を少量含む。しまりやや強。粘性やや弱。
- b 朝青色 (10YR3/3) しまりや中粗。粘性やや強。輪切り方。
- c にじみ青褐色 (10YR4/2) 白色鮮石・青褐色上部を微量含む。

A区 I-4

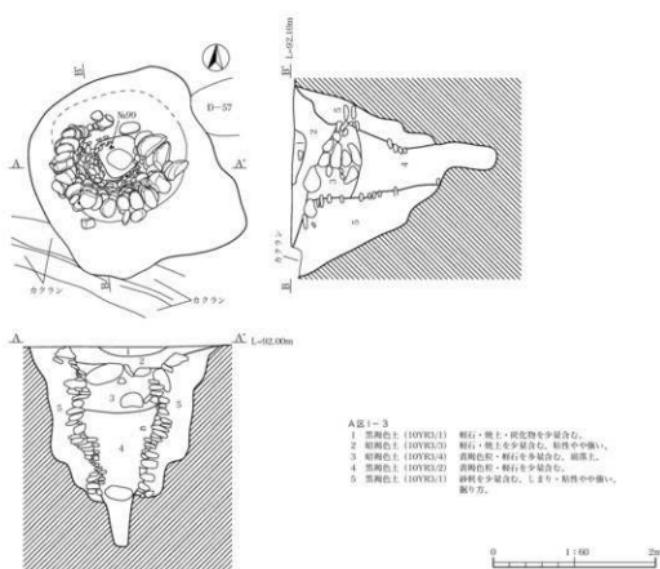


第23図 A区 H-32・33号住居跡、I-4・6号井戸跡

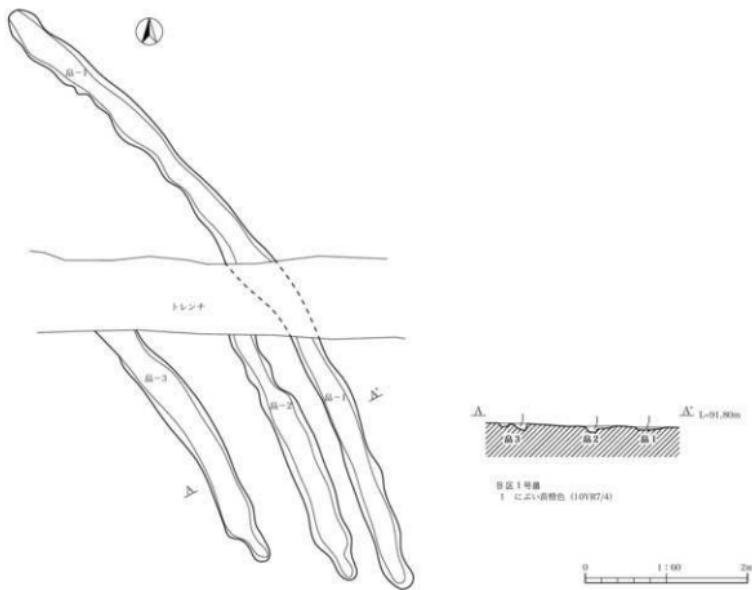
A区 I-6



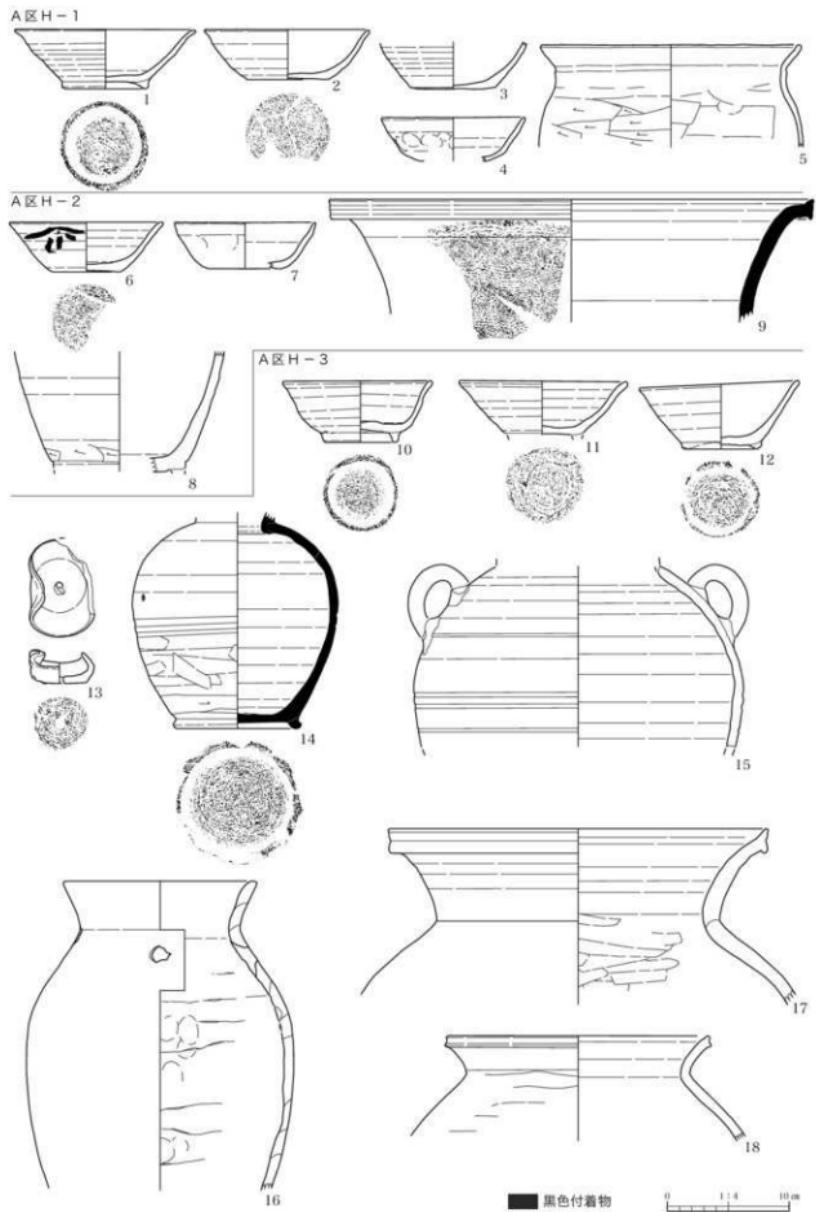
A区1-3



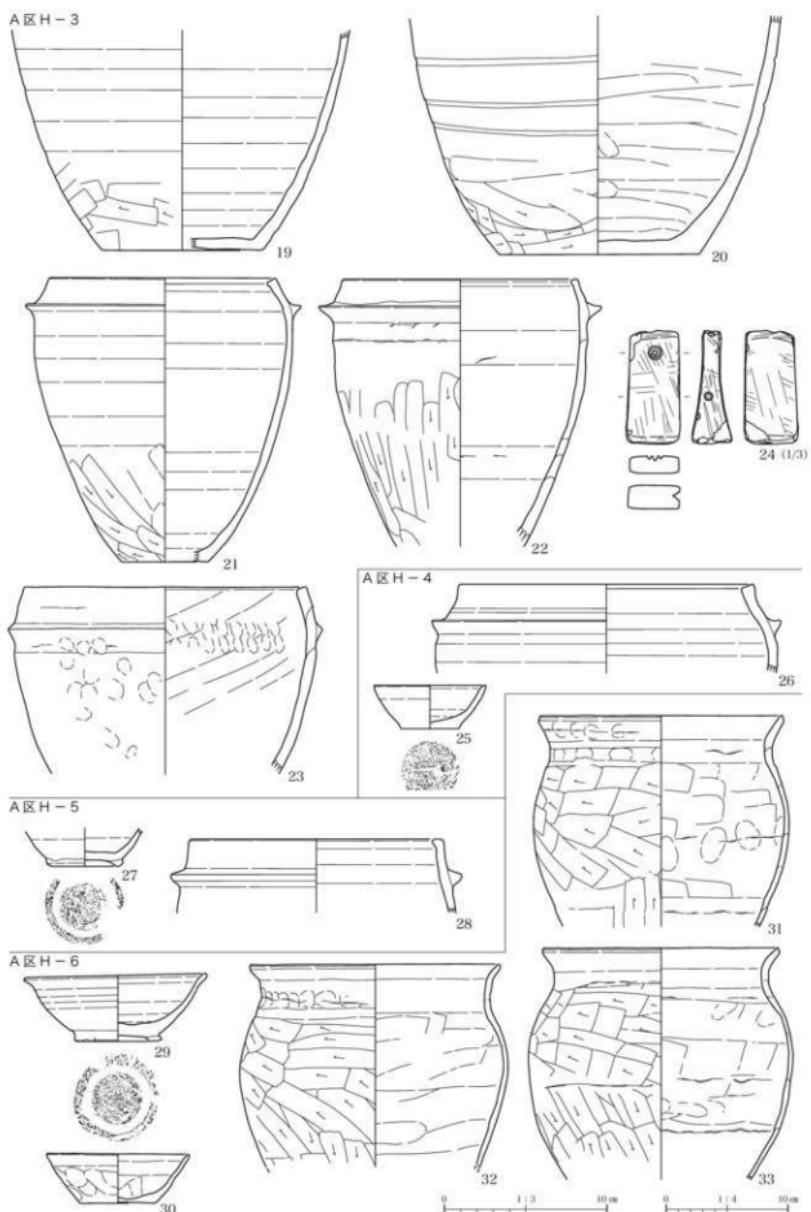
B区1号盘



第24図 A区I-3号井戸跡、B区1号畠跡

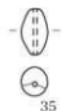
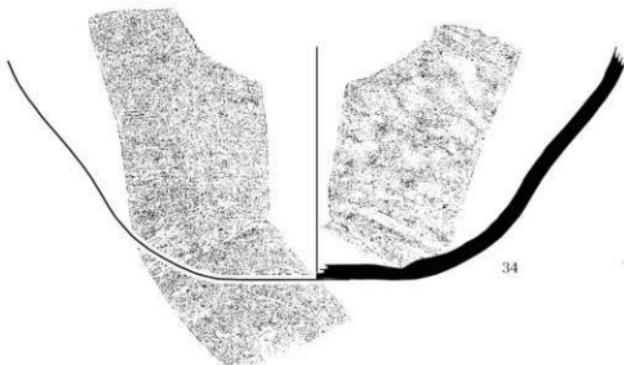
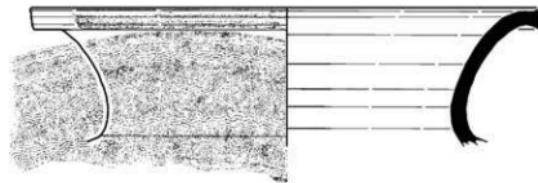


第25図 A区 H-1~3号住居跡出土遺物

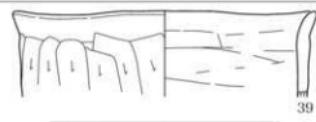
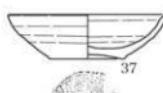
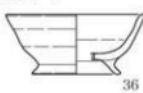


第26図 A区 H-3~6号住居跡出土遺物

## A区H-6



## A区H-7

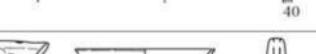
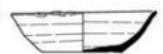


39

36

37

## A区H-8



40

41

42



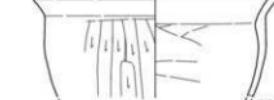
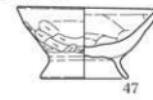
43

44

45

46

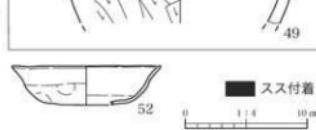
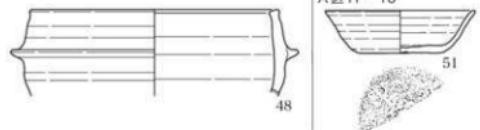
## A区H-9



47

48

49



50

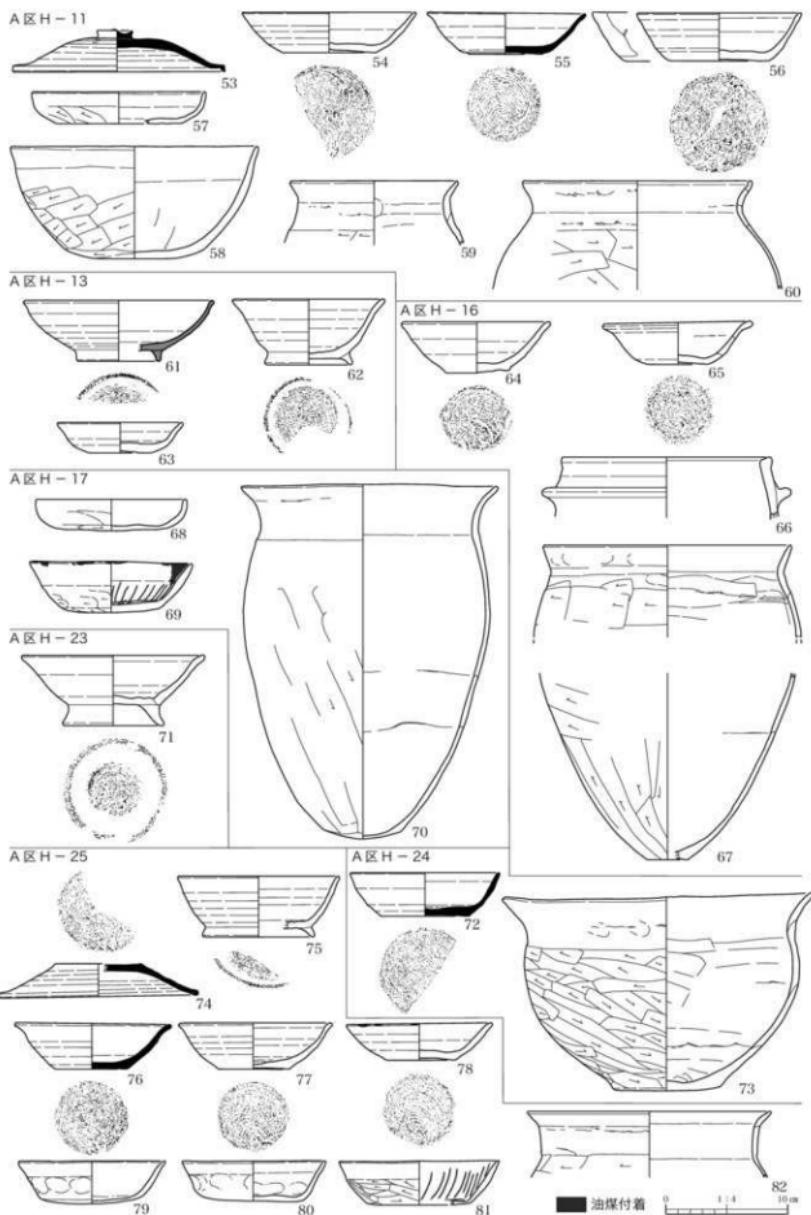
51

52

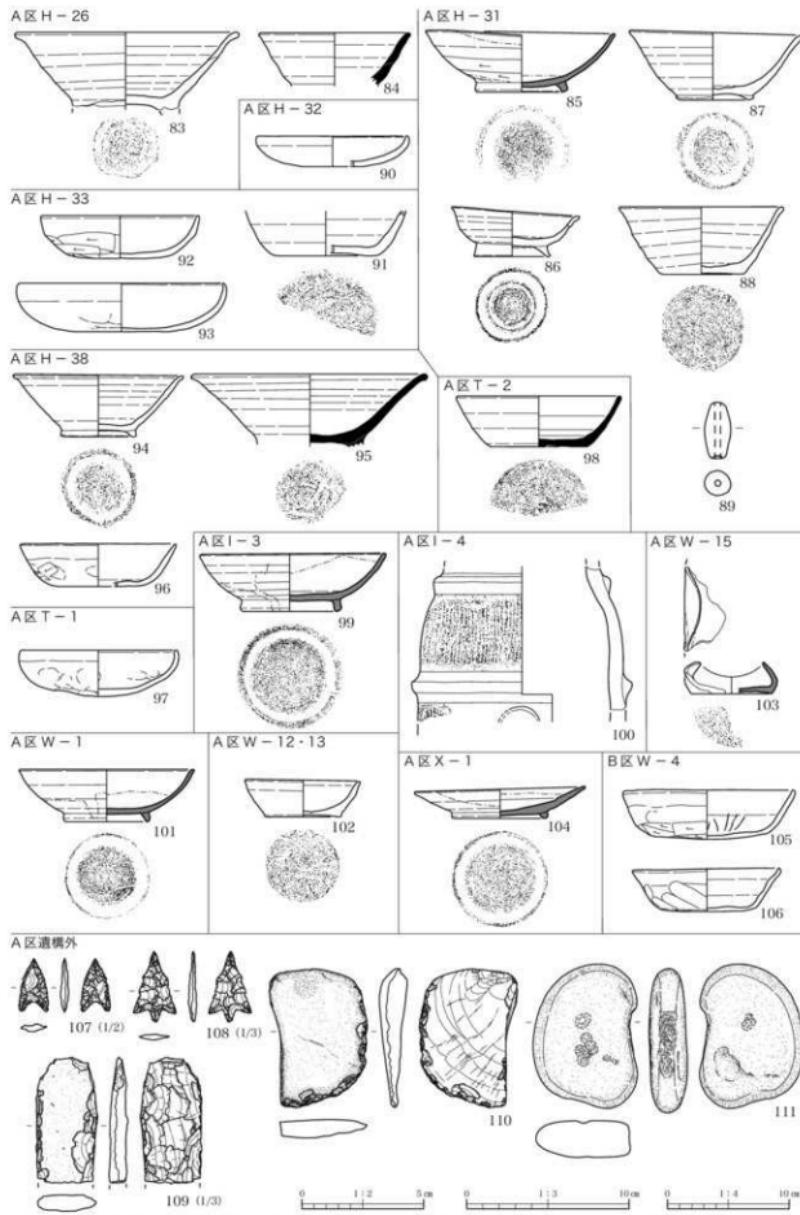
53



第27図 A区H-6~10号住居跡出土遺物



第28図 A区 H-11・13・16・17・23~25号住居跡出土遺物



第29図 A区 H-26・31~33・38号住居跡、T-1・2号竪穴状遺構、I-3・4号井戸跡、W-1・12・13・15号溝跡、X-1号性格不明遺構、遺構外、B区 W-4号溝跡出土遺物

第VI章 朝倉伊勢西 No.3 遺跡テフラ分析

## 第1節 はじめに

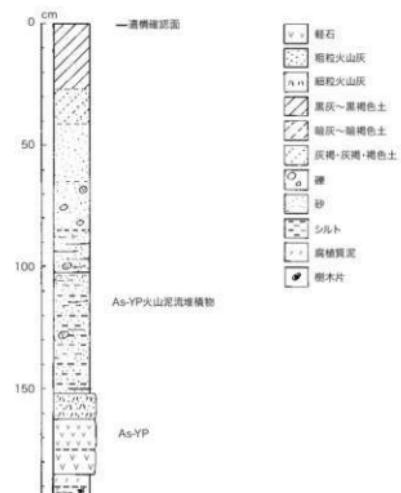
関東地方北西部に位置する前橋市域とその周辺には、赤城、浅間、榛名など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方や中国地方さらには九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が数多く降灰している。とくに後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらには岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（たとえば町田・新井、2011）などに収録されており、考古遺跡などで調査分析を行いテフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古学的な遺物や遺構の年代などに関する研究を実施できるようになっている。

前橋市朝倉伊勢西 No.3 遺跡における発掘調査でも、層位や年代が不明な土層や遺構とともにテフラ層などが認められたことから、地質調査を実施して土層の層序やテフラ層の記載を行うとともに、高純度で分析試料を探取し、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析）を実施して、土層や遺構の層位・年代に関する資料を得ることになった。調査分析の対象は、A 区 I - 3 号井戸跡壁面、A 区 D - 97 号土坑、A 区 W - 1 号溝跡、A 区 W - 2 号溝跡、B 区 W - 1 号溝跡、B 区北東壁の 6 地点である。

## 第2節 土層の層序

(1) A区I-3号井戸跡壁面

A区で検出されたI-3号井戸跡の壁面では、下位より腐植質灰色泥層（層厚3cm以上）、黒褐色泥炭層（層厚5cm）、成層したテフラ層（層厚37cm）、層理が発達した黄灰色の砂泥互層（層厚49cm）、円磨された黄色



第30図 A区1-3号共豆跡跡面の土網柱状圖

軽石を含む層理が発達した灰色砂層（層厚17cm、  
軽石の最大径38mm）、円磨された黄色軽石混じり  
褐色灰色砂層（層厚20cm、軽石の最大径38mm）、  
やや褐色がかった灰色砂層（層厚24cm）、褐色灰  
色砂質土（層厚14cm）、黒灰褐色土（層厚27cm）  
が認められる（第30図）。

このうち成層したテフラ層は、下部のやや黄色がかった白色軽石層（層厚22cm）と、上部の細かく成層した桃色砂質細粒火山灰層（層厚15cm）からなる。下位の軽石層の下部10cmはより粗粒で、最大径22mmの軽石や、最大径3mmの石質岩片を含む。このテフラ層は、層相から約1.5～1.65万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP、新井、1962、町田・新井、1992、2003など）に同定される。

(2) A区D-97号土坑

倒木痕の可能性がある A 区 D-97 号土坑の断

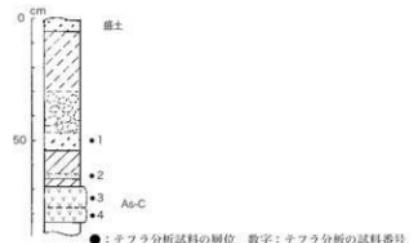
面では、下位より、かすかに成層したテフラ層（層厚 14cm）、黒褐色土（層厚 3cm）、黄色砂層（層厚 2cm）、黒褐色土（層厚 9cm）、黄灰色土（層厚 7cm）黒褐色土ブロック混じり暗灰褐色土（層厚 17cm）、灰白色軽石混じり暗灰褐色土（層厚 25cm、軽石の最大径 5mm）、盛土（層厚 23cm）が認められる（第 31 図）。このうち、成層したテフラ層は、やや細粒のわずかに褐色がかった灰色軽石層（層厚 5cm、軽石の最大径 6mm、石質岩片の最大径 2mm）と、上位の灰白色軽石層（層厚 9cm、軽石の最大径 8mm、石質岩片の最大径 2mm）からなる。

### (3) A 区 W - 1 号溝跡

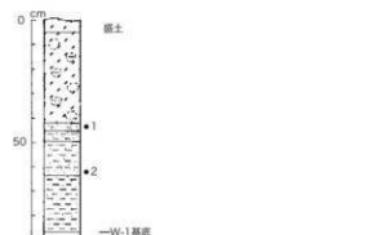
A 区 W - 1 号溝跡では、下位より層理が発達した灰色砂質シルト層（層厚 23cm）、褐色砂層（層厚 3cm）、かすかに成層した灰色砂質シルト層（層厚 11cm）、かすかに成層した灰色シルト層（層厚 4cm）、白色粗粒火山灰を多く含む褐色土層（層厚 3cm）、色調がとくに暗い暗灰褐色と灰色シルトブロックを含むやや褐色がかった灰色土（層厚 37cm）からなる（第 32 図）。

### (4) A 区 W - 2 号溝跡

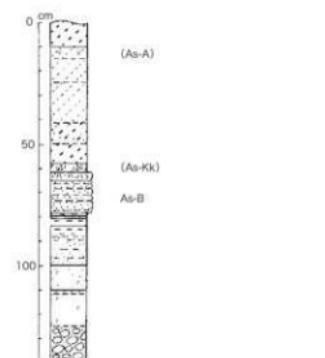
A 区 W - 2 号溝跡では、亜円礫混じり褐灰色砂礫層（層厚 15cm、礫の最大径 28mm）の上位に、下位より灰色泥層（層厚 15cm 以上、礫の最大径 28mm）、灰色泥層（層厚 14cm）、黒灰色泥層（層厚 1cm）、砂混じり灰色泥層（層厚 10cm）、灰色シルト質砂層（層厚 12cm）、褐灰色砂質シルト層（層厚 4cm）、黄灰色シルト層（層厚 3cm）、黒泥層（層厚 0.3cm）、黄灰色シルト層（層厚 0.3cm）、成層したテフラ層（層厚 15.2cm）、青灰色細粒火山灰ブロック混じり暗灰褐色土（層厚 4cm）、やや暗い灰色土（層厚 8cm）、灰色粗粒火山灰混じりやや暗い灰色土（層厚 9cm）、灰色粗粒火山灰を多く含む灰褐色土（層厚 16cm）、上部 5cm に灰白色軽石を含むやや暗い褐灰色土（層厚 15cm、軽石の最大径 5mm）、灰色土（層厚 27cm）が認められる（第 33 図）。



第 31 図 A 区 D - 97 号土坑の土層柱状図



第 32 図 A 区 W - 1 号溝跡の土層柱状図



第 33 図 A 区 W - 2 号溝跡の土層柱状図

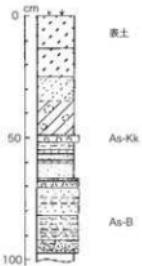
このうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色砂質細粒火山灰層（層厚 0.2cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、黃灰色粗粒火山灰層（層厚 3cm）、橙褐色粗粒火山灰層（層厚 2cm）、灰色がかった黄色粗粒火山灰層（層厚 3cm）、かすかに成層した灰色粗粒火山灰層（層厚 2cm）、黃灰色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、桃色砂質細粒火山灰層（層厚 3cm）からなる。このテフラ層は、層相から 1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間 B テフラ（As-B、荒牧、1968、新井、1979）に同定される。また、その上位の土層中にブロック状に認められる青灰色細粒火山灰は、層位や層相から 1128（大治 3）年に浅間火山から噴出した可能性が指摘されている浅間柏川テフラ（As-Kk、早田、1991、1996、2004）に同定される。

また、上位より 2 層目の褐灰色土中に含まれる灰白色軽石は、その層位や岩相から、1783（天明 3）年に浅間火山から噴出した浅間 A 軽石（As-A、荒牧、1968、新井、1979）と思われる。

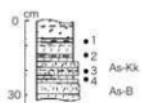
#### (5) B 区 W - 1 号溝跡

B 区 W - 1 号溝跡とその周辺では、下位より成層したテフラ層（層厚 24.4cm）、灰色砂層（層厚 6cm）、黒泥層（層厚 0.3cm）、灰色砂層（層厚 3cm）、黒泥層（層厚 0.3cm）、灰色砂質シルト層（層厚 3cm）、青灰色砂質細粒火山灰層（層厚 2cm）、黄灰色土ブロック混じり黒灰褐色土（層厚 14cm）、灰色粗粒火山灰混じり灰褐色土（層厚 10cm）、黄灰色土（層厚 12cm）、灰色土（層厚 13cm）が認められる（第 34 図）。

このうち、成層したテフラ層は、下位より灰色砂質細粒火山灰層（層厚 0.3cm）、青灰色細粒火山灰層（層厚 0.1cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、青灰色細粒火山灰層（層厚 0.2cm）、褐色細粒軽石層（層厚 2cm、軽石の最大径 2mm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、橙褐色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚 2cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚 2cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、やや灰色がかった黄色粗粒火山灰層（層厚 5cm）、かすかに成層した暗灰色粗粒火山灰層（層厚 2cm）、かすかに成層したやや黄色がかった褐色粗粒火山灰層（層厚 4cm）、桃色砂質細粒火山灰層（層厚 2cm）、灰白色粗粒火山灰層（層厚 0.8cm）からなる。このテフラ層は、層相から As-B に同定される。また、As-B の上位の青灰色砂質細粒火山灰層は、層位や層相から As-Kk に同定される。



第 34 図 B 区 W - 1 号溝跡の土層柱状図



●：テフラ分析試料の層位。数字：テフラ分析の試料番号。

第 35 図 B 区北東壁の土層柱状図

#### (6) B 区北東壁

B 区北東壁では、As-B のすぐ上位の土層をよく観察できた。ここでは、As-B 最上部を構成する桃色砂質細粒火山灰層（層厚 4cm）と灰白色粗粒火山灰層（層厚 0.6cm）の上位に、下位より暗褐色泥層（層厚 0.5cm）、成層したテフラ層（層厚 3.2cm）、黒褐色泥層（層厚 1cm）、黄色凝灰質シルト層（層厚 0.7cm）、黒褐色泥層（層厚 3cm）、黄白色凝灰質シルト層（層厚 1cm）、黒褐色泥層（層厚 0.5cm）、灰色細粒軽石混じりでやや暗い灰色土（層厚 5cm、軽石の最大径 3mm）、灰色細粒軽石を多く含む灰色土（層厚 2cm 以上、軽石の最大径 3mm）が認められる（第 35 図）。

このうち、成層したテフラ層は、下位より灰白色砂質細粒火山灰層（層厚 0.2cm）、青灰色粗粒火山灰層（層厚 1cm）、青灰色砂質細粒火山灰層（層厚 2cm）からなる。このテフラ層は、層相から As-Kk に同定される。

## 第3節 テフラ検出分析

### (1) 分析試料と分析方法

A区D-97号土坑、A区W-1号溝跡、B区北東壁において採取したテフラ分析用試料のうちの8点を対象に、軽石やスコリア、さらに火山ガラスや遊離結晶などのテフラ粒子の特徴や量を定性的に把握するテフラ検出分析を行って、テフラの検出を実施した。分析方法は次のとおりである。

- 1) 砂分の量に応じて試料4~8 gを電子天秤で秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 恒温乾燥器により80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察。

### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表14に示す。検出されたテフラには次の4種類がある。

タイプ1：塊状の淡灰色や無色透明の中間型ガラス。

タイプ2：スポンジ状に良く発泡した灰白色の軽石（最大径13.8mm）や軽石型ガラス。強磁性鉱物以外の班晶として、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

タイプ3：さほど発泡が良くない白色のスポンジ状軽石型火山ガラス。班晶鉱物として、強磁性鉱物以外に角閃石や斜方輝石を含む。

タイプ4：比較的良く発泡した細粒の淡灰色や淡褐色の軽石（最大径2.1mm）や、淡灰色、淡褐色、褐色のスポンジ状軽石型火山ガラス。班晶鉱物として、強磁性鉱物以外に斜方輝石や単斜輝石を含む。

第14表 朝倉伊勢西No.3遺跡におけるテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			重鉱物 (不透明鉱物以外)
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
A区D-97号土坑	1				*	md	淡灰、無色透明	opx, cpx, (am)
	2				*	pm (sp), md	白、灰白、淡灰、無色透明	opx, cpx, (am)
	3	***	灰白	13.8	**	pm (sp)	灰白	opx, cpx
A区W-1号溝跡	1				(*)	pm (sp), md	白、淡灰	opx, cpx, (am)
	2				*	pm (sp)	淡灰、淡褐色、褐、白、灰白	opx, cpx, (am)
B区北東壁	1				*	pm (sp)	淡灰	opx, cpx
	2	(*)	淡灰	2.1	**	pm (sp)	淡灰、淡褐色、褐	opx, cpx
	3	(*)	淡褐色	2.1	(*)	pm (sp)	淡灰、淡褐色	opx, cpx

\*\*\*\*：とくに多い、 \*\*\*：多い、 \*\*：中程度、 \*：少ない、 (\*)：非常に少ない。

bw：バブル型、 md：中間型、 pm：軽石型、 sp：スポンジ状、 fb：纖維束状。

opx：斜方輝石、 cpx：単斜輝石、 am：角閃石、 重鉱物の( )は、非常に量が少ないと示す。

## 第4節 考察

### (1) 指標テフラとの同定

タイプ1：火山ガラスの形態や色調から、As-YPで代表される後期更新世末期の浅間火山軽石流期（荒牧、1968）のテフラに由来する可能性が非常に高い。

タイプ2：軽石や火山ガラスの岩相や班晶鉱物の組み合わせから、3世紀後半に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 坂口, 2010)に由来すると考えられる。

タイプ3：火山ガラスの岩相や班晶鉱物の組み合わせから、古墳時代の榛名系テフラに由来すると考えられる。

それは、下位より5世紀の榛名有馬火山灰(Hr-AA, 町田ほか, 1984)、6世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 2011など)、そして6世紀中葉の榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP, 新井, 1962, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 2011など)である。Hr-FAの降灰がもっとも多いことから、降下テフラ起源の場合には、Hr-FA起源の可能性がもっとも多い。

タイプ4：軽石や火山ガラスの岩相や班晶鉱物の組み合わせから、As-Bで代表される平安(～鎌倉?)時代に浅間火山から噴出した浅間系テフラに由来すると考えられる。

## (2) 指標テフラとの関係からみた特徴的な堆積物や遺構の層位

A区I-3号戸跡壁面において厚い堆積が認められた円滑された軽石を含む砂質堆積物は、地質調査によりAs-YPの直上にあることがわかった。伊勢崎市域では、As-YPの軽石層とそれを覆う砂質細粒火山灰層の間に火山泥流堆積物が認められており(早田, 未公表)、この層位はAs-YPの噴火で発生した大規模な火砕流と一致すると考えられる。今回発見された砂質堆積物は、大規模な火砕流堆積物とは若干時期を異にするものの、直上に層位があることから、火山噴火の影響で発生した火山泥流(ラハール)堆積物と考えて良い。この堆積物は、本遺跡の基盤をなすものである。

本遺跡付近から南東方向には、微高地が続いており、その上に大規模な古墳群が多く分布しているものの、これまで地形学的、自然史的背景については詳しく語られていない。今後は、As-YP火山泥流(ラハール)堆積物の堆積地形という観点でも調査分析が行われると良い。

倒木痕跡の可能性も考えられているA区D-97号土坑断面で認められた軽石層(試料3)は、層相観察とテフラ検出分析の結果から、As-Cと考えられる。そのすぐ上位の砂層中からは、古墳時代の榛名系テフラが検出されており、Hr-AA降灰以降の堆積物と考えられる。これまでの周辺遺跡での調査からは、Hr-FAまたはHr-FPの噴火に伴う火山泥流(ラハール)堆積物(早田, 1989, 坂口, 2013など)の可能性を指摘できよう。さらに上位に認められる黄色土と直上の黒褐色土ブロックを多く含む暗灰褐色土に関しては、人為や倒木による可能性のほかに、層位を考えると、818(弘仁9)年地震に伴う地変に関係する可能性があるのかも知れない。

A区W-1号溝跡において、指標テフラが含まれる可能性が考えられた試料2および試料1からは、As-C、古墳時代の榛名系テフラ、As-Bなどに由来する火山ガラスなどが検出されたものの、As-Aは認められなかった。As-A降灰後かなり時間が経った後の遺構の可能性も否定はできないが、テフラの産状からは通常As-BとAs-Aの間に層位があると推定される。

B区では、As-BやAs-Kkを挟む腐植質堆積物を詳しく観察できた。分析者はこれまで多く地点で記載しているが、As-Bの最上部には、通常色調が明るい軽石質粗粒火山灰層が堆積している。その一方で、上位のAs-Kkには黒色や黒灰色の多孔質の岩片が多く含まれている。As-B主体部に多く含まれている、淡灰色や淡褐色の軽石型ガラスもわずかに含まれているものの、As-B最上部に認められるような明色のものは認められなかった。また、As-Kkの上位の凝灰質の複数の薄層に関して、浅間火山の小規模噴火に由来する可能性を考えたが、特徴的なテフラ粒子は認められなかった。今後、今回のようにAs-Bの上位の堆積物の状況が良い場合には、これまで知られていないテフラの有無について確かめる必要がある。なお、A区W-1号溝跡、A区W-2号溝跡、B区W-1号溝跡では、このAs-Bの堆積が認められたことから、いずれもAs-Bより下位の遺構と考えられる。



写真1 A区D-97号土坑・試料3 (As-C)  
やや黄色に風化した灰白色軽石を多く含む。  
背景は1 mm メッシュ。



写真2 B区北東壁・試料3 (As-KK)  
多孔質の黒褐色や黒灰色の岩片を多く含む。  
背景は1 mm メッシュ。

## 第5節 まとめ

前橋市朝倉伊勢西No.3遺跡において、地質調査を行って、土層層序やテフラの産状に関する記載を行うとともに、高純度で採取した試料を対象にテフラ分析（テフラ検出分析）を実施した。その結果、浅間板鼻黃色軽石（As-YP、約1.5～1.65万年前）、浅間C軽石（As-C、3世紀後半）、榛名ニッカ岳渋川テフラ（Hr-FA、6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B、1108年）、浅間柏川テフラ（As-Kk、1128年）、浅間A軽石（As-A、1783年）などを検出できた。さらには、そのほかにAs-YP火山泥流堆積物や、Hr-FA火山泥流堆積物あるいはHr-FP火山泥流堆積物なども検出できた。今回の調査分析の成果は、今後、広瀬川低地沿いに分布している古墳群の立地の問題のみならず、前橋台地上の微高地の形成史解明にも参考となるものである。

### 文献

- 新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年、群馬大学紀要自然科学編、10, p.1-79.
- 新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層、考古学ジャーナル、no.53, p.41-52.
- 荒牧重雄（1968）浅間火山の地質、地図研報專、no.14, p.1-45.
- 町田 洋・新井房夫（1992）「火山灰アトラス」、東京大学出版会、276p.
- 町田 洋・新井房夫（2003）「新編火山灰アトラス」、東京大学出版会、336p.
- 町田 洋・新井房夫（2011）「新編火山灰アトラス（第2刷）」、東京大学出版会、336p.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦夫・杉原重夫（1984）テフラと日本考古学－考古学研究と関係するテフラのカタログ、古文化財編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」、p.865-928.
- 坂口 一（1986）榛名ニッカ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器、群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」、p.103-119.
- 坂口 一（2010）高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向－中居町一丁目道路H22の水田耕作地と周辺集落との関係－、群馬県埋蔵文化財調査事業団編「中居町一丁目遺跡3」、p.17-22.
- 坂口 一（2013）榛名ニッカ岳渋川テフラ（Hr-FA）・榛名ニッカ岳伊香保テフラ（Hr-FP）およびそれらに起因する火山泥流の堆積期間と季節に関する考古学的検討、第四紀研究、52, p.97-109.
- 早田 勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害、第四紀研究、27, p.297-312.
- 早田 勉（1991）浅間火山の生き立ち、佐久考古通報、no.53, p.2-7.
- 早田 勉（1996）関東地方へ東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて－、名古屋大学加速器質量分析計業績報告書、7, p.256-267.
- 早田 勉（2004）火山灰編年学からみた浅間火山の噴火史－とくに平安時代の噴火について－、かみつけの里博物館編「1108－浅間火山－中世への軌跡」、p.45-56.
- 早田 勉（2016）浅間板鼻褐色軽石群（As-BP Group）の層序と前橋泥流堆積物の層位、2016年度岩宿フォーラム要旨集、p.6-14.

## 第VII章　まとめ

今回の調査された朝倉伊勢西 No.3 遺跡は、平成 23・24 年度に調査された朝倉伊勢西 No.1・No.2 遺跡（福田・山田 2011、福田・小林 2012）の北に位置する。No.3 遺跡 A 区・B 区は概ね微高地に立地し、両区内には、No.1・No.2 遺跡より発見された低地が連続する。検出された遺構は、A・B 区合わせて竪穴住居跡 29 軒、住居跡と確定できない竪穴状遺構 5 基、土坑 103 基、ピット 104 基、井戸跡 3 基、溝跡 25 条、畠跡 1 面、性格不明遺構 10 基である。主となる調査成果としては、古代の集落と古代及び近世・近代の用水路が検出されたことが挙げられる。本章では、これらを過去の朝倉伊勢西遺跡の調査成果と併せて概観し、まとめとしたい。

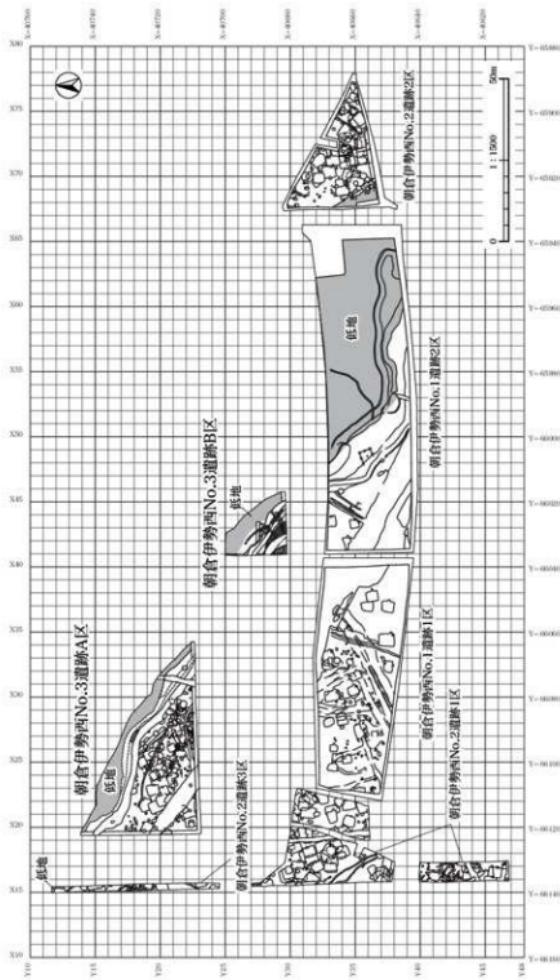
### 第 1 節　朝倉伊勢西遺跡における集落の様相

朝倉伊勢西遺跡における集落は、北西から南東にかけて広がる低地の両側に形成された微高地上に展開している。No.1 遺跡、および No.2 遺跡で調査された低地南西方の微高地上に展開する集落を西部集落、No.2 遺跡東区（2 区）で調査された低地東方の微高地上に展開する集落を東部集落としている（福田・小林 2012）。

西部集落は 7 世紀末から 8 世紀初頭に営まれ始め、9 世紀から 10 世紀をとおして存続し、11 世紀にて消滅する。No.2 遺跡の様相は、集落形成当初は遺跡南部及び中央部に分布の中心があり、徐々に北（No.1 遺跡及び No.2 遺跡北東・北西部）に拡大・移動する。10 世紀以降になると遺跡南部は集落域外となり、用水路と考えられる溝が構築され、As-B が降下する段階では畠となっている。

今次調査の朝倉伊勢西 No.3 遺跡で検出された住居跡群は、西部集落の北縁にあたり、No.2 遺跡 1・3 区で検出された集落に統くものとみられる（第 36 図）。集落の存続時期は 8 世紀中葉から 10 世紀後半まで、9 世紀中葉から遺構数が増加し、最盛期は 10 世紀前半である。8 世紀代の住居跡は A 区の微高地上にやや散漫に分布しているが、9 世紀代になると A 区西半に集中する傾向が看取される。10 世紀代になるとその集中は A 区中央～東半へと移動し、時期によって住居の立地に偏りがあることがわかる。なお、No.2 遺跡でも、集落が南西から北東へ、微高地中央から辺縁へと展開する様相がうかがわれる。

遺物は、奈良～平安時代の灰釉陶器・須恵器・土師器・羽釜・土釜が出土している。形態的にもっとも古く位置づけられる上器は A 区 H-32 号住居跡で出土した土師器壺（90）で、口縁部が内湾して外面に稜を有する 8 世紀中葉のものである。その後に底部切り離し後に調整を施す H-33 号住居跡出土須恵器壺（91）が続き、8 世紀末～9 世紀初頭の H-24 号住居跡出土遺物（72・73）へつながる。9 世紀代は比較的出土量が豊富で、前半期では A 区 H-8 号住居跡、H-11 号住居跡、中葉～後半期では、A 区 H-25 号住居跡や H-26 号住居跡にて良好なセットをみることができる。これらの中では、9 世紀第 4 四半期頃に出現する、体部にやや丸みを持たせて低い高台を付す須恵器椀（1・29・83）の存在が特徴的である。これらに関しては次の 10 世紀前半期にも継続する（12・27・87・94）ものの、10 世紀後半には別系統の「足高高台」を持つ椀（36・47・71）にとってかわるようにもみえる。<sup>31</sup> 10 世紀代の遺物では、前半期の A 区 H-3 号住居跡出土遺物（10～24）が良好な資料として挙げられる。この住居跡からの遺物はほぼすべてカマド周辺の床面からまとめて出土しており、一括性が高い。須恵器椀（10～12）、耳皿（13）、壺（14・15）、頸部が穿孔された特異な形状の壺（16）、甕（17～20）、羽釜（21～23）とバラエティに富む。羽釜は吉井型（21・22）と、別系統のもの（23）の二種が認められる。また、未貫通穿孔された砥石（24）も出土しているが、本住居跡以外も含めて鉄製品は出土していない。このほか、灰釉陶器は少量ではあるが複数の住居跡などから出土しており、図示したものでは大原段階（85・101）のものと虎渓山段階（38・61・99・104）のものがある。No.2 遺跡でも看取されたように、



第36図 朝倉伊勢西遺跡全体図

土釜と羽釜の共伴事例は A 区 H - 7 号住居跡（39・40）と A 区 H - 9 号住居跡（48～50）で認められた。總じて、今次調査で住居跡から出土した遺物は No.2 遺跡での様相をほぼ踏襲しており、同一集団の集落遺跡とみて納得できる内容である。

## 第 2 節 朝倉伊勢西遺跡における用水路について

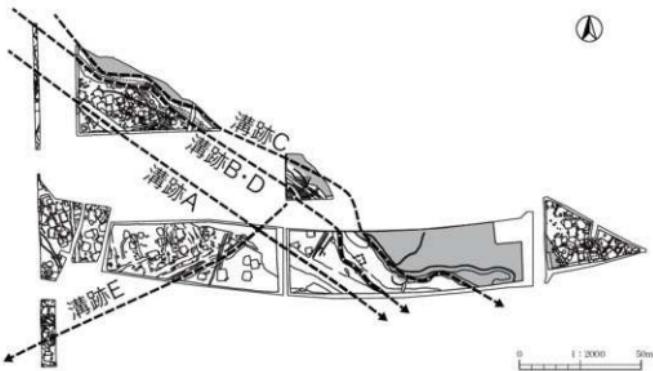
朝倉伊勢西遺跡の調査では、用水路と考えられる溝跡が複数検出されている。これらの時期は近世・近代、古代に大別される。本遺跡では調査年度及び調査区によって各々番号が付けられているため、本節では理解を容易にするために用水路と考えられる溝跡について、同一の遺構を整理し 5 条の溝跡に分け、溝跡 A～E として仮称する<sup>32</sup>（第 37 図）。溝跡 A～E の詳細は、下記に記す。

溝跡 A：No.2 遺跡 W - 4 号溝跡、No.3 遺跡 A 区 W - 1 号溝跡が該当する。No.1 遺跡では、延長線上に幅 10m 前後の溝状の擾乱が位置するため検出されていない。溝跡 A は、北西から南東方向に走行する近世・近代の用水路であり、幅 5m 程度で複数回掘り直しが行われていたことが土層から確認できる。総検出長は 45m 程度であり、No.1 遺跡で検出された溝状の擾乱を含めると 160m 程度となる。なお、No.3 遺跡 A 区 W - 3・6 号溝跡は上層の堆積状況と覆土から、A 区 W - 1 号溝跡と同時期に機能していた可能性が高い。後述するが、溝跡 A はかつて存在した後閑堀であったと考えられる。

溝跡 B：No.1 遺跡 2 区 W - 2 号溝跡の覆土上位の掘り直し部分、No.3 遺跡 A 区 W - 12 号溝跡、No.3 遺跡 B 区 W - 8 号溝跡が該当する。また、底面直上に As-B の一次堆積が確認できる No.1 遺跡 2 区 W - 1 号溝跡、No.3 遺跡 A 区 W - 2 号溝跡、No.3 遺跡 B 区 W - 1 号溝跡は、本来その下位にある溝跡の埋没途中の溜みであったと考えられることから、本節で同一の遺構として扱う<sup>33</sup>。さらに No.2 遺跡 3 区北端部に僅かにかかる低地も、No.3 遺跡の調査成果から、低地ではなく溝跡 B の一部である可能性が高い。溝跡 B は、北西から南東に走行する古代の用水路であり、幅 2～3 m 程度、総検出長が直線距離にして 190m 程度を測る。覆土中位に As-B 一次堆積層があり、下位に 10～20cm 程度水成堆積の砂質シルト層やシルト層が堆積している。溝跡の時期は、土層の堆積状況から As-B 降下以前であるが、As-B 降下段階でもある程度の掘り込みをもっていることや、As-B より下位の水成堆積層が As-B 降下直前の洪水層である可能性もあることから、1108 年から大幅な時期差はないと推定される。

溝跡 C：No.3 遺跡 A 区 W - 13 号溝跡、No.3 遺跡 B 区 W - 11 号溝跡が該当する。溝跡 C は、北西から南東に走行する古代の用水路であり、As-B の堆積状況から溝跡 B より古く、断面観察から後述する溝跡 D より新しい。発掘調査では北側の壁面及び底面を確認できていないため、判明している規模は幅 3.4m 以上、確認面からの深さ 1.2 m 以上、底面標高 90.43m 以下である。総検出長は 77m 程度であり、低地と微高地の境界に走行していたと考えられる。図面による記録はないが、B 区では西壁で低地と微高地の境界部において溝跡があったと推定される部分に As-B がレンズ状に堆積していることが確認できた（PL.7）。写真から判断できる位置関係から推察するに、B 区部分の溝跡 C は幅 4m 程度であったと推定される。No.1 遺跡では検出されていないが、As-B で埋没している 2 区 W - 3 号溝跡の下位に低地の縁辺部に平行して位置する古代の溝跡が存在した可能性がある。

溝跡 D：No.1 遺跡 W - 2 号溝跡、No.3 遺跡 A 区 W - 15・16 号溝、No.3 遺跡 B 区 W - 9・10 号溝が該当する。溝跡 D は、北西から南東方向に走行する古代の用水路であり、幅 4～5m 程度で複数回の掘り直しが行われていたことが土層観察から確認できる<sup>34</sup>。総検出長は 170m 程度であり、溝跡 B・C とほぼ並走し、断面観察によって、溝跡 B・C より古いことが判明している。



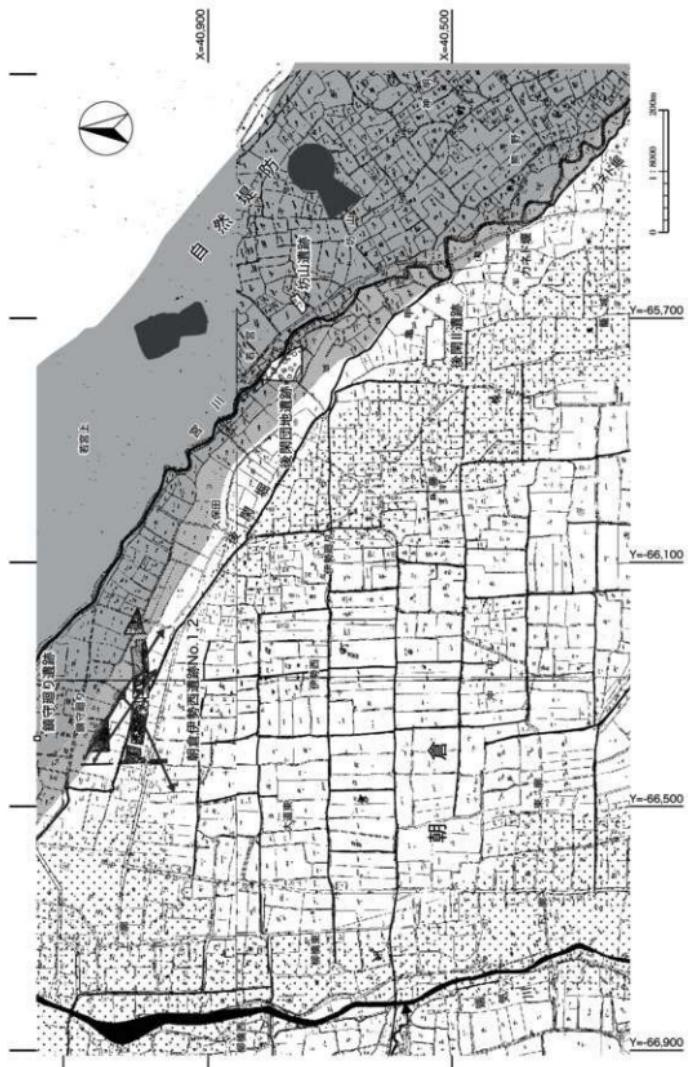
第37図 朝倉伊勢西遺跡における古代の用水路

溝跡E: No.1遺跡1区W-11・12号溝跡のどちらかとNo.2遺跡1区W-1号溝跡が該当する。溝跡A～Dと異なり、北東から南西方向に走行する古代の用水路であり、走行方向から溝跡C・Dのどちらかから取水していたと考えられる。幅2～3m程度で総検出長が95m程度を測り、遺跡南西部において堰が構築されていたことが判明している。<sup>35</sup>溝跡Eは9世紀第2四半期の住居跡の覆土上から掘削され、覆土から虎渓山段階と考えられる灰釉陶器皿が出土している。さらにAs-B降下時には完全に埋没しており、As-B前後に耕作された畠跡の耕作土に被覆されていることを考えると、溝跡Eの時期は9世紀後半から11世紀代と考えられる。

朝倉伊勢西遺跡で検出された用水路の時期は、溝跡Aが近世・近代、それ以外は古代である。溝跡Bの時期は、前述したように1108年から大幅な時期差はないと考えられる。溝跡C～Dは重複関係があり、新しい方から溝跡B→C→Dとなる。溝跡C・Dの時期は、トレンチ掘削の際、覆土から9～10世紀代の遺物が出土していることから、9世紀以降1108年以前と考えられる。溝跡Eは重複関係や出土遺物から年代が最も時期がはつきりしており、9世紀第2四半期以降に開削されたと考えられる。位置関係から溝跡Eは溝跡C・Dから取水していたと考えられ、時期的に齟齬がない。

朝倉伊勢西遺跡中央に位置する北西から南東に向かって広がっている低地は、広瀬川の自然堤防と自然堤防に平行する形で細長く延びる微高地との境界に位置する。低地は、これまでの調査成果によると、1108年段階では河川の氾濫や増水の影響を受けやすい環境にあり、湿地のような状態であったと考えられる（福田・山田2011）。<sup>36</sup>本遺跡では、低地と前述の微高地の縁辺部に9世紀後半以降用水路が開削され、複数回の掘り直しをして、1108年に近い時期まで機能していたと考えられる。この微高地上では、本遺跡と後閑II遺跡において古墳時代後期から奈良・平安時代の集落が調査されており、朝倉伊勢西遺跡の集落と用水路は、一時併存していた可能性が考えられる。なお、今回、調査の最終段階でB区の調査区西壁の延長上に深掘りトレントを掘削している（PL7）。すぐに崩落したため図面などの記録はとれていないが、低地の下位には谷地形又は旧河道が存在した可能性がある。<sup>37</sup>

近世・近代においても、古代と同様、低地との境界、微高地の縁辺部に用水路が流下している。第38図は、昭和40年に作成された群馬県耕地課作成前橋南部地形図に、本遺跡及び周辺の遺跡の調査区をいたるものである。この地形図からは、昭和40年代の土地改良および区画整理以前の周囲の状況が観察できる。現宮川用水はまだ開削されておらず、現在も道路として痕跡が残る宮川のほか、地割としても残存していない後閑堀が北西か



\*『朝倉・後閉水田道路』(藤坂・前田他 2015) 第25図を転載、一部改変

第38図 朝倉伊勢西遺跡周辺の旧地形図

ら北東に流れていたことがみてとれる。配置から、No.1 遺跡 1・2 区において北西から南東方向に溝状に位置する擾乱は後閑堀であると考えられる。後閑堀は、本遺跡付近で地割に沿って不自然に屈曲しているが、延長線上に溝跡 A が位置することから、後閑堀は本来直線的に走行していた可能性が高い。また、1948 年に撮影された米軍写真や 1975 年に国土地理院が撮影した航空写真から、この後閑堀が本来直線的に走行していたことを示唆するソイル・マークを確認することができる。

昭和 40 年代に造成された現在の宮川用水に、蛇行しながらもほぼ平行する形で古代の用水路および近世・近代の用水路が検出されたことは、土地改良や区画整理によって日々景観が異なっていく現代においても、当時の土地利用が踏襲されていることが感じられる。

末文になりましたが、株式会社エーコープ関東には発掘調査に対して多大なるご理解・ご協力を頂きました。前田和昭氏からは資料提供を受け、本遺跡周辺の用水路や No.1 遺跡の発掘調査についてご教授頂きました。また三浦京子氏からは遺物について、早田勉氏からは地質関係について、それぞれご教示頂きました。記して感謝を申し上げます。

#### 《註》

註 1： 三浦京子氏のご教示による。

註 2： 走行方向や規模、確認面や覆土の堆積状況などから同一遺構と判断するが、調査区が接していないことと、溝跡 C・D に関しては発掘調査が断面調査のみであることなどから、判断が誤認である可能性も含まれる。

註 3： No.1 遺跡 2 区 W-1 号溝跡は、No.1 遺跡 2 区 W-2 号溝跡の埋没段階の溝跡の時期差を示していることが報告書でも指摘されている（福田・山田 2011）。本節では No.1 遺跡 2 区 W-2 号溝跡について、他の調査区で検出された溝跡との底面標高を考慮し、覆土上位にみられる振り直し部分のみを溝跡 B と判断して扱う。

註 4： 朝倉町付近には、As 合成物の洪水堆積物がみとめられる場合があることを早田勉氏にご教示頂いた。

註 5： No.3 遺跡の事実記載において、底面標高や位置の違いから別番号を付けているが、本節では理解を容易にするため同一遺構として扱う。

註 6： 溝跡 E に直交する No.2 遺跡 1 区 W-6 号溝跡は堰として機能していたと考えられ、同事例が前橋市大屋敷遺跡、伊勢崎市（旧境町）矢ノ原遺跡、大田市（旧新田町）北宿・親音前遺跡において調査されている（福田・小林 2012）。

註 7： 朝倉・後閑堀水田遺跡の報告書では、朝倉伊勢西 No.1・2 遺跡で検出された低地を、当時のこのような環境下で用水路として利用していたと考え、「大溝」として呼称している。

註 8： 中近世の朝倉堀渠造構群、後閑堀渠渠落、山王堀渠渠落も、配置から同一の高地上に立地している可能性がある（第 2 図）。

註 9： 現在においても、自然規制内を流下してきた宮川が、本遺跡から約 500m 南東付近に位置する矢田堀からこの低地内を流路としている（藤坂・前田他 2015）。

註 10： 原図は『朝倉・後閑堀水田遺跡』第 25 図（藤坂・前田他 2015）である。前田和昭氏に資料提供を受け、一部改変した。

## 《引用・参考文献》

- 荒川隆史・加藤 学 他 1999 「新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集 上信越自動車道関係発掘調査報告書V  
『和泉 A 道路』新潟県教育委員会・財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鶴木晋一 1983 「後醍醐跡」前橋市教育委員会
- 柳澤重輔 1987 「前橋台地」日本の古代道路 16 群馬東部 株式会社保育社
- 坂口一・三浦京子 1986 「奈良・平安時代の土器の編年—住居の重複と共伴関係による土器型式組列の検討—」  
『群馬県史研究』24 群馬県史編さん委員会
- 桜岡正信 1990 「クロ使用酸化焰焼成窯について—群馬県内の実態把握を目的として—」『研究紀要』7  
財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 桜岡正信 1991 「7世紀以降の土師器窯の画期とその要因について」『群馬考古学手帳』2
- 桜岡正信 2003 「月夜野型羽釜の生産と流通—地域限定流通の背景—」『研究紀要』21 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 桜岡正信 2009 「古代東北と上野—探しにくい地域間交流—」『古代社会と地域間交流』国士館大学考古学会
- 高橋正男・前原 豊 1986 「領守廻り遺跡」前橋市教育委員会
- 早田 勉 1990 「第五回前橋台地と広瀬川紙地帯」『群馬県史』通史編 I 原始古代 1 群馬県史編さん委員会
- 水井智教 2016 「古代上野国の条里と水路—前橋・高崎台地の調査事例を中心に—」『地域考古学』1号 地域考古学研究会
- 林喜久夫 1983 「後醍醐台地遺跡」前橋市教育委員会
- 林喜久夫 1984 「後醍醐II遺跡」前橋市教育委員会
- 福田瑞穂 1984 「坊山遺跡」前橋市教育委員会
- 福田賀之・和久拓原 2011 「朝倉工業日赤地遺跡群」前橋市教育委員会
- 福田賀之・山田誠司 2011 「朝倉伊勢西 No.1 道路」前橋市教育委員会
- 福田賀之・小林朋恵 2012 「朝倉伊勢西 No.2 道路」前橋市教育委員会
- 樋坂和延・前田和昭・岡野 康 2015 「朝倉・後醍醐水田遺跡」前橋市教育委員会・技研コンサル株式会社
- 前原 豊・秋池 武・飯島義雄 2001 「利根川からの引水道構である「女溝」の意義」『群馬文化』266 群馬県地域文化研究協議会
- 三浦京子 1988 「群馬県における平安時代後期の土器様相—灰釉陶器を中心にして—」『群馬の考古学』 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 鍋貫邦男・神谷佳明・桜岡正信 1992 「群馬県における灰釉陶器の様相について (I) —消費地からのアプローチ—」  
『研究紀要』9 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

写 真 図 版





朝倉伊勢西 No.3 遺跡 A 区 全景 上が北



A 区 H-1 号住居跡 西から



A 区 H-4 号住居跡 南西から



A 区 H-5 号住居跡 南西から



A 区 H-5 号住居跡遺物出土状況 南西から



A区 H - 3号住居跡 西から



A区 H - 3号住居跡 カマド 西から



A区 H - 3号住居跡遺物出土状況 西から



A区 H - 3号住居跡 カマド遺物出土状況 西から



A区 H - 6号住居跡 西から



A区 H - 6号住居跡遺物出土状況 西から



A区 H - 7b号住居跡 西から



A区 H - 8号住居跡 西から



A区H-9号住居跡 西から



A区H-10号住居跡 西から



A区H-13号住居跡 西から



A区H-16号住居跡 西から



A区H-16号住居跡カマド遺物出土状況 西から



A区H-17号住居跡掘り方 西から



A区H-17号住居跡カマド 西から



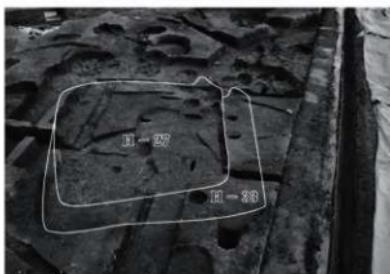
A区H-17号住居跡カマド遺物出土状況 西から



A区 H - 25号住居跡 南西から



A区 H - 25号住居跡遺物出土状況 南西から



A区 H - 27・33号住居跡 西から



A区 H - 31号住居跡遺物出土状況 南から



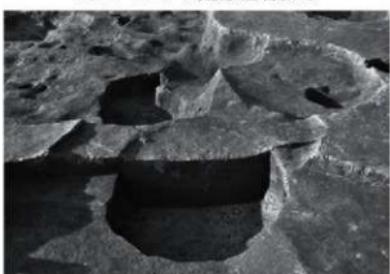
A区 H - 38号住居跡遺物出土状況 西から



A区 D - 3・4・5号土坑断面 南東から



A区 D - 14号土坑 南から



A区 D - 2・76・77号土坑断面 南から



A区I-3号井戸跡 北から



A区I-3号井戸跡断面 北から



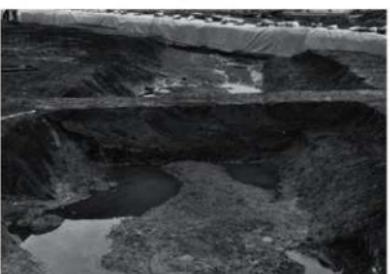
A区I-4号井戸跡 西から



A区I-6号井戸跡 西から



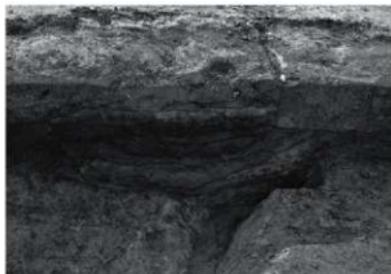
A区W-1号溝跡 南東から



A区W-1号溝跡断面 北西から



A区W-2・12・15・16号溝跡断面 北から



A区W-2号溝跡断面 南東から



A区W-3号溝跡 南東から



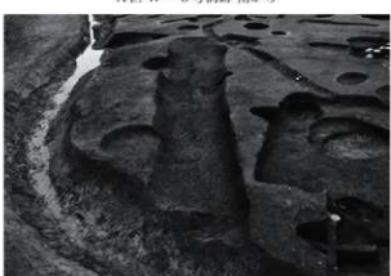
A区W-4号溝跡 東から



A区W-5号溝跡 南から



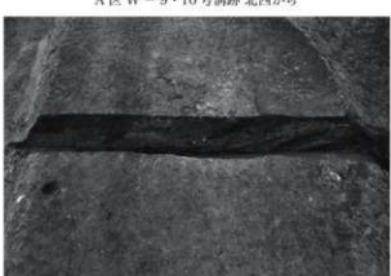
A区W-5号溝跡断面 北から



A区W-9・10号溝跡 北西から



A区W-12・13・15・16号溝跡断面N 南東から



A区W-12・13・15・16号溝跡断面O 東から



朝倉伊勢西 No.3 遺跡 B 区 全景 上が北



B 区 W - 1 号溝跡 南東から



B 区 W - 4・5・6 号溝跡 南東から



B 区 W - 4・5・6 号溝跡断面 東から



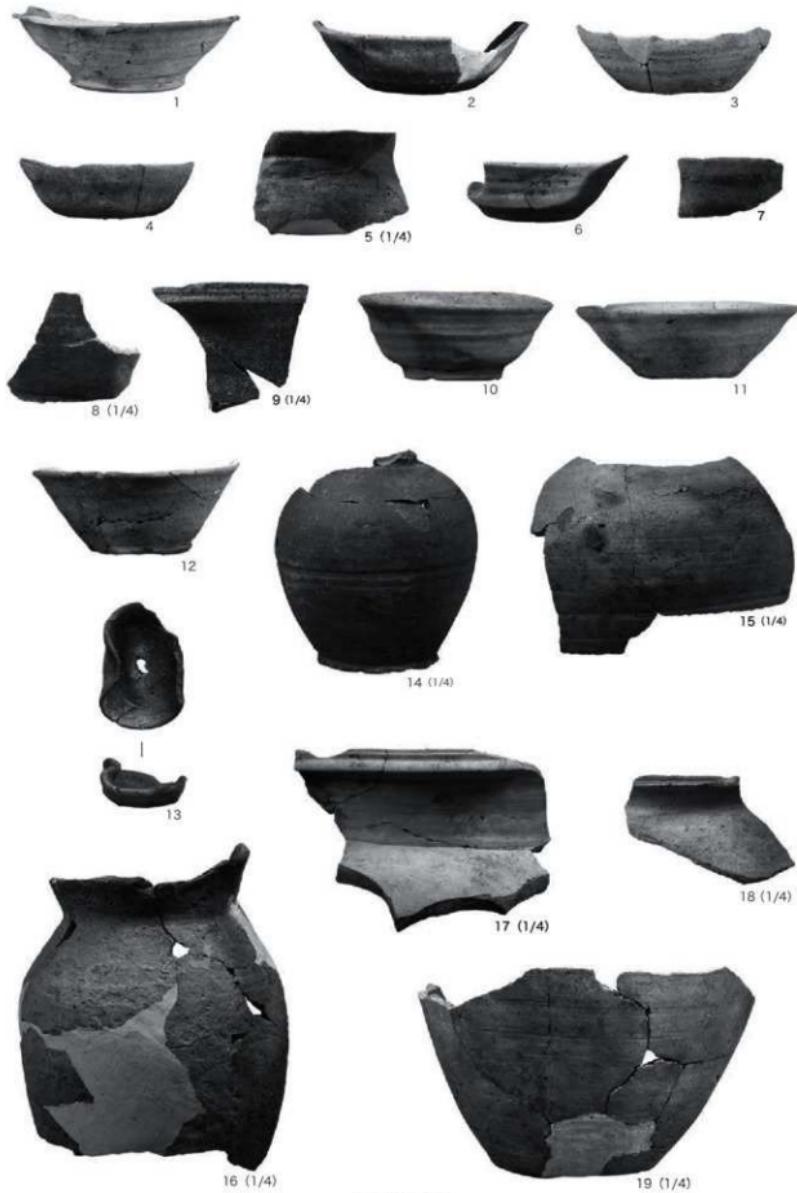
B 区 1 号溝跡完掘 南から



B 区 W - 11 号溝跡断面 東から



B 区 深掘りトレンチ西壁 東から



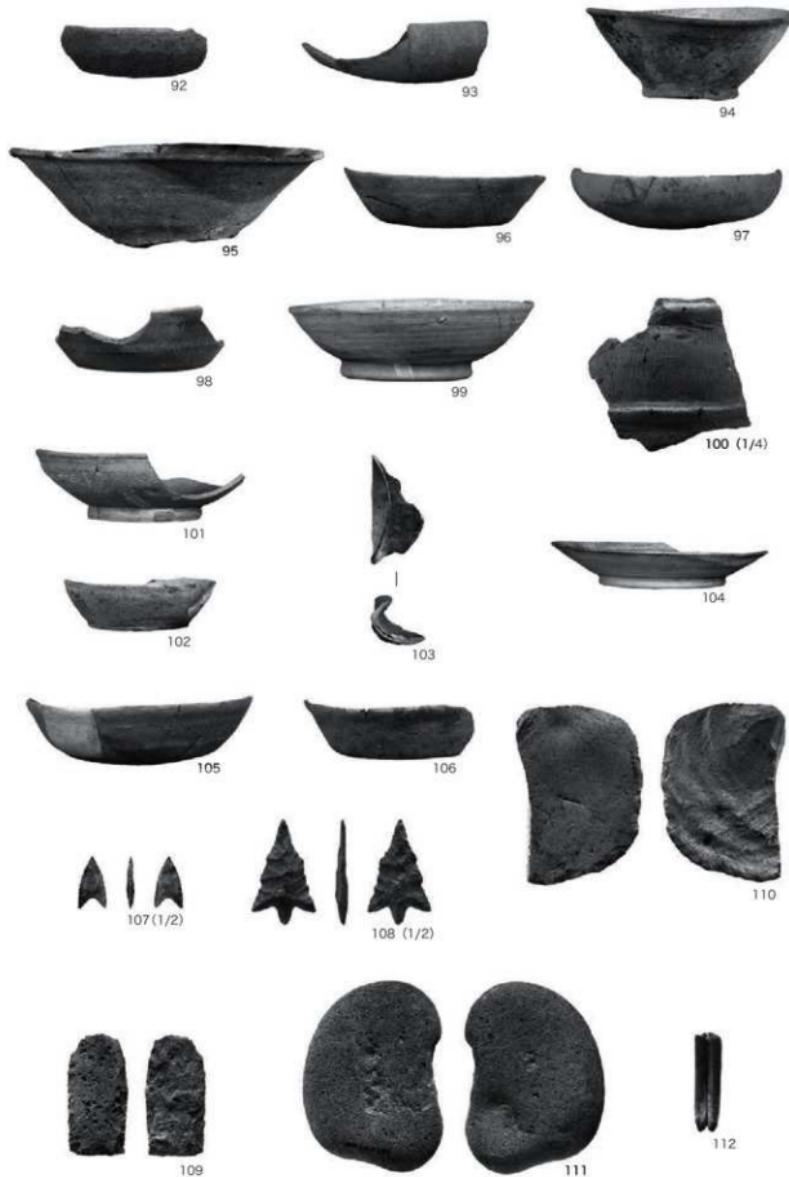
出土遺物（1）







出土遺物 (4)



出土遺物（5）

## 報告書抄録

フリガナ	アサ克拉イセニシナンバー3イセキ
書名	朝倉伊勢西Na 3 遺跡
副書名	店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	—
シリーズ名	—
シリーズ番号	—
編著者名	小峰 篤 北村和牠 小林朋恵 福嶋正史 渡邊絵里
編集機関	前橋市教育委員会
所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11番地4 TEL 027-280-6511
発行年月日	2017年8月28日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		日本測地系		世界測地系		調査 期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡	北緯	東經	北緯	東經			
アサクライセニシ 朝倉伊勢西 ナンバー3イセキ No.3 遺跡	群馬県前橋市朝倉町 143-1、144-1、 145-1、145-4、 146-1、147-2、 160-1、161-1、162	10201	28 G71	36° 21' 53"	139° 05' 48"	36° 22' 05"	139° 05' 36"	2016.9.1 ~ 2016.11.8	1,582m <sup>2</sup>	店舗建設 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝倉伊勢西 No.3 遺跡	包蔵地 集落 ・ 生産	古代	堅穴住居跡	29軒	灰釉陶器 須恵器
			堅穴状遺構	5基	奈良・平安時代の集落
			土坑	103基	古代の用水路
			ピット	104基	羽釜・土釜
			井戸跡	3基	土製品
			溝跡	20条	石製品
			窑跡	1面	埴輪
			性格不明遺構	10基	微細
			近世・近代 溝跡	5条	近世・近代の用水路
要約					今回の調査では、古代の集落と用水路が検出された。検出された堅穴住居跡の時期は8世紀初頭から10世紀後半であり、既にNo.1・2遺跡で調査されている7世紀末から11世紀まで存続した集落の一部であると考えられる。また、低地との境界、標高地の縁辺部には古代及び近世・近代の用水路が検出された。古代の用水路は9世紀後半以降に開削され、複数回の掘り直しを経て、1108年に近い時期まで機能していたと考えられる。近世・近代の用水路は、かつて存在した後開削であると考えられる。

### 朝倉伊勢西Na 3 遺跡

#### 店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷	平成 29 年 8 月 25 日
発行	平成 29 年 8 月 28 日
発行	前橋市教育委員会事務局文化財保護課 〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目 11 番地 4 TEL 027-280-6511
編集	株式会社シン技術コンサル 〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井 311-1 TEL 0270-65-2777
印刷	細谷印刷有限会社 〒372-0031 群馬県伊勢崎市今泉町 2-939-5 TEL 0270-25-0193